



第十回全国高校生金融経済クイズ選手権  
エコノミクス甲子園 報告書

認定NPO法人  
**金融知力普及協会**  
Association for the Promotion of Financial Literacy

<http://www.apfl.or.jp>

プラチナスポンサー



ゴールドスポンサー



シルバースポンサー



特別協賛



認定NPO法人  
**金融知力普及協会**  
Association for the Promotion of Financial Literacy

主催：認定NPO法人金融知力普及協会  
エコノミクス甲子園実行委員会



- ご挨拶 ..... 2
- エコノミクス甲子園はこんな大会です! ..... 3
- 概要 ..... 5
- 各地方大会+参加高校一覧 ..... 6
- 全国大会 ..... 29
- NY研修旅行の様子と感想 ..... 33
- 全国大会出場者感想 ..... 39
- 参加者アンケート ..... 67
- 事前学習教材 ..... 69
- メディア掲載実績 ..... 70
- Special Thanks ..... 71
- 協賛社紹介 ..... 72
- リーダー挨拶 ..... 73
- 10年史 ..... 74

## 第10回エコノミクス甲子園大会を終えて



エコノミクス甲子園 実行委員長  
金融知力普及協会 理事長  
金子 昌資

2006年度より実施しております 全国高校生金融経済クイズ選手権 エコノミクス甲子園大会 もこのたび第10回記念大会を無事終えることができました。

これまでこの大会を作り上げてきた、1万人を超える参加者の皆様、地方大会を主催した金融機関の皆様、さまざまなご支援をいただいた協賛・協力企業の皆様、後援名義をいただいた内閣府、文部科学省、金融庁の皆様、そして様々な形でこの大会に関わったすべての皆様に御礼を申し上げます。

本当にありがとうございました。

第一回大会は全国3か所での地方大会、25校99名の参加者から始まったこの大会も、ネットを含め43の地方大会、410校2,242名の参加者を得るところまで成長しました。現在の教育課程ではなかなか触れることのない、金融経済の知識ですが、我々はよりよい人生を築くためには必須のものであると考えております。これを楽しみながら身に着ける機会を提供することの価値を多くの方に認めていただいているからこそ、現状のように成功できていると感じております。

金融経済の知識をつけることは、投資で濡れ手に粟のもうけを狙うようなものではなく、人生を豊かにするために、お金という道具の使い方を身に着けることです。このような考え方は最近少しずつ理解を得られてきたと感じておりますが、まだまだ多くの方に伝えていかねばなりません。そのためにもこれまで以上に多くの高校生がこの大会に参加し、金融知力を身に着け、その後の人生に活かし、そして周りの方に伝播していただければと願っております。

今回特筆すべき事項として、奨学金基金の創設をあげたいと思います。全国大会出場者の中から、経済的にゆとりある大学進学が困難な若者を対象に返済不要の200万円の奨学金を授与することとなりました。幸いご理解のある支援者も現れ、今後10年にわたって、奨学金を継続する見込みとなっております。

第11回大会のみならず、10年、20年先も、数多くの若者に金融知力を身に着けていただくため、このエコノミクス甲子園を引き続き成功させるよう、スタッフ一同努力してまいります。ぜひ、皆様の温かいご指導とご支援を今後とも末永く、よろしくお願いいたします。





1

### ポスターや学校の先生に教えられて 出場を決意!

- ・ネットや携帯電話から応募
- ・参加は無料!



2

### 金融知力普及協会から送られてくる 事前学習教材で経済を勉強

- ・今日から役に立つ経済の読み方と投資の基礎 …… 寄贈:シティバンク銀行
- ・ビギナーズのためのファイナンス入門 …… 寄贈:金融広報中央委員会
- ・これであなたもひとり立ち …… 寄贈:金融広報中央委員会
- ・ライフステージで学ぶ銀行 …… 寄贈:全国銀行協会
- ・ローン&クレジットのABC …… 寄贈:全国銀行協会
- ・そんぼのホントフレッシュアップガイド …… 寄贈:日本損害保険協会
- ・株式会社制度と証券市場のしくみ …… 寄贈:日本証券業協会
- ・ほけんのキホン …… 寄贈:生命保険文化センター
- ・初めてのJリート …… 寄贈:不動産証券化協会
- ・もっと知りたい税のこと …… 寄贈:財務省
- ・基礎から学べる金融ガイド …… 寄贈:金融庁
- ・みらいの保険を描いてみよう! …… 寄贈:日本少額短期保険協会



3

### 地方大会に参加

- ・地方大会は各地の地方銀行など金融機関が地域貢献として開催
- ・生活していく上で是非知っておきたい経済の基礎知識や地元経済などについての問題
- ・筆記問題(50問)と早押しクイズで競う
- ・地方大会で優勝したチームは全国大会に出場



日本全国の高校生達に  
金融経済を学ぶ機会を提供!  
将来の日本をリードする人材の育成!



5

### 優勝チームはニューヨーク研修旅行にご招待

- ・現地で活躍する様々な方々へのインタビューや経済に関する様々な場所を見学



4

### 全国大会に参加

- ・経済用語をわかりやすく説明するスピーチクイズや他チームと協力したプレゼンクイズなど、より深い知識や理解が求められる形式の様々なクイズに挑む





**名称** 第10回記念 全国高校生金融経済クイズ選手権 エコノミクス甲子園  
**趣旨** 社会にはばたく寸前の高校生が、世の中の金融経済の仕組みを理解しライフデザインやお金のかかわり方を考える力=「金融知力」を楽しく身につける為の教育イベントとして開催する。  
**期日** ・募集開始 2015年8月15日  
 ・地方大会 2015年11月2日～12月21日 全国43か所(インターネット大会含む)  
 ・全国大会 2016年2月26日～28日  
**主催** ・地方大会主催 各地の金融機関有志  
 ・全国大会主催 認定NPO法人 金融知力普及協会  
**後援** 内閣府、文部科学省、金融庁

プラチナ  
スポンサー



ゴールド  
スポンサー



シルバー  
スポンサー



ブロンズ  
スポンサー



特別協賛

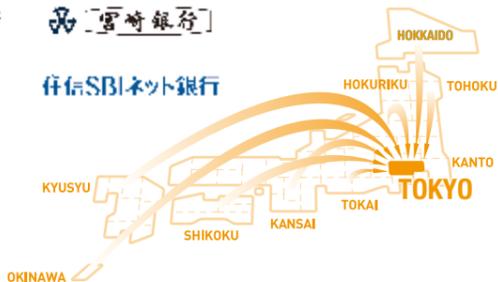


**協力** 三井住友アセットマネジメント株式会社 日本ファイナンシャルアカデミー株式会社 オリックス株式会社

金融広報中央委員会 一般社団法人 全国銀行協会 日本証券業協会 一般社団法人 不動産証券化協会

公益財団法人 生命保険文化センター 一般社団法人 日本損害保険協会 一般社団法人 日本少額短期保険協会

地方大会主催



### 北海道 石狩・空知・後志・日高・胆振地区予選大会 11月8日(日)開催

**主催** 札幌信用金庫・日高信用金庫・札幌中央信用組合・北央信用組合 **優勝チーム**  
**参加校一覧** 北海道北広島西高等学校、北海道千歳高等学校、北海道札幌南高等学校、(北海道札幌南高等学校)  
 北海道札幌国際情報高等学校、北海道札幌新川高等学校、[公正取引委員改]  
 北海道札幌東商業高等学校、北海道札幌英藍高等学校、札幌創成高等学校、  
 立命館慶祥高等学校  
**参加チーム数** 16チーム(9校)  
**運営スタッフ感想** 今年の地区予選大会は、新たに日高信用金庫が加わり4金融機関での主催となりました。大会は終始、  
 高校生の皆さんの奮闘ぶりに会場が湧き、特に決勝ラウンドのスゴロクを使った人生設計クイズでは、まさに一進一退決着の展開となり、最終  
 問題でびったりゴールを決めて優勝チームが決定!ゲーム性のあるクイズが加わったことで、観覧者やスタッフ一同も含め、会場全体が一緒に楽し  
 しみ、大変盛り上がりました。  
 優勝チームは昨年全国2位成績を収め、今年こそニューヨークへとリベンジに燃えています。残り2チームも含め、北海道大会を勝ち上がり、  
 全国大会での健闘を祈念しております。



### 北海道 上川・留萌・宗谷・オホーツク地区予選大会 11月8日(日)開催

**主催** 旭川信用金庫・留萌信用金庫・北星信用金庫 **優勝チーム**  
**参加校一覧** 北海道下川商業高等学校、北海道名寄商業高等学校、(北海道旭川東高等学校)  
 北海道名寄高等学校、北海道士別翔雲高等学校、北海道旭川商業高等学校、  
 北海道旭川東高等学校、北海道美深高等学校 [麻雀天使]  
**参加チーム数** 14チーム(7校)  
**運営スタッフ感想** 他金融機関との繋がりを密にすることができ、また、高校生に対する金融知力向上にも十分効果があつたと思われ、CSR 活動として続けて  
 いきたい。  
 高校生の知識の豊富さに驚きました。  
 選挙権の年齢引き下げ等、若者の社会進出に対する気運が高まる中、このようなイベントは非常に良い機会だと思いました。



### 北海道 釧路・根室地区予選大会 11月8日(日)開催

**主催** 釧路信用金庫・大地みらい信用金庫 **優勝チーム**  
**参加校一覧** 北海道釧路北陽高等学校、北海道釧路商業高等学校、(北海道釧路江南高等学校)  
 北海道釧路明輝高等学校、北海道釧路江南高等学校、  
 北海道釧路湖陵高等学校 [チーム江南]  
**参加チーム数** 11チーム(5校)  
**運営スタッフ感想** 釧路・根室地区予選は今回が2回目、5校、11チームの参加となりました。予選第1ラウンドの早押し  
 クイズでは、「難しくても回答してもらえないのでは」と思っていた問題もありましたが、事前にかなり予習してきたのか、高い正答率でとても驚き  
 ました。決勝ラウンドでは、ルールを理解してもらえない不安でしたが、スムーズに進行でき、優勝チームは6問連続正解での最短ゴールとい  
 う素晴らしい結果となりました。「前日に受けた大学入試模擬試験と同じ問題が筆記試験に出たんですよ」と嬉しそうに話してくれた学生がいたほ  
 か、アンケートでは「知識を増やすことができた」、「達成感があつた」、「これからも勉強したい」などの感想が書かれており、地域の学生たちにと  
 っ、金融経済について学ぶ良いきっかけになったものと考えております。



### 北海道 渡島・檜山地区予選大会 11月14日(土)開催

**主催** 函館信用金庫・渡島信用金庫・江差信用金庫・函館商工信用組合 **優勝チーム**  
**参加校一覧** 北海道七飯高等学校、北海道函館商業高等学校、北海道函館工業高等学校、(北海道七飯高等学校)  
 北海道江差高等学校、市立函館高等学校、遺愛女子高等学校、函館大妻高等学校 [七飯高等学校B]  
**参加チーム数** 11チーム(7校)  
**運営スタッフ感想** 今回、初めて大会のお手伝いをさせていただきました。  
 このような活動が日本の将来を担う若い方々の金融リテラシーを高めることに繋がっていくんだと思うと、非常に有意義な取り組みであると  
 強く認識致しました。



### 北海道 十勝地区予選大会 11月15日(日)開催

**主催** 帯広信用金庫・十勝信用組合 **優勝チーム**  
**参加校一覧** 北海道帯広南商業高等学校、北海道帯広柏葉高等学校、(北海道帯広南商業高等学校)  
 北海道芽室高等学校、北海道音更高等学校、北海道鹿追高等学校 [イノオカピ]  
**参加チーム数** 10チーム(5校)  
**運営スタッフ感想** 昨年に続き2回目の開催となった十勝地区予選大会は、決勝ラウンドの最終問題で優勝チームが決定する  
 大変白熱した展開となりました。参加した生徒もはじめのうちは緊張している様子でしたが、徐々にリラックスし、  
 楽しんで大会に参加していただくことができました。





## 北海道大会

12月6日(日)開催

主催 **北海道銀行**

参加校一覧 北海道釧路江南高等学校、北海道釧路北陽高等学校、北海道旭川東高等学校、北海道士別翔雲高等学校、北海道七飯高等学校、北海道函館商業高等学校、北海道帯広南商業高等学校、北海道札幌南高等学校、北海道札幌東商業高等学校

参加チーム数 12チーム(9校)

運営スタッフ感想 昨年に引き続き、信用金庫様・信用組合様の主催により5つの地域で地区大会が開催され、そこで優秀な成績を修めた9校12チームが出場しました。

代表チーム同士による白熱した戦いが繰り広げられ、決勝進出チームを決める時には近似値問題でも並んでしまい、サドンデス対決となる場面もあり大いに盛り上がりました。



優勝チーム  
北海道札幌南高等学校  
「公正取引委員改」



## 青森大会

11月29日(日)開催

主催 **みちのく銀行**

参加校一覧 青森山田高等学校、青森県立三沢商業高等学校、青森県立弘前実業高等学校、青森県立弘前高等学校、青森県立木造高等学校、青森県立青森中央高等学校、青森県立青森商業高等学校、青森県立青森高等学校

参加チーム数 40チーム(8校)

運営スタッフ感想 青森大会は今回で3回目でした。参加者は76名と過去最高、当日来れなかった生徒も含めると当初募集定員一杯のエントリーとなり、エコノミクス甲子園が浸透してきていることを実感しました。

参加した生徒たちはみんなレベルが高く、最後まで接戦で、どのチームが優勝してもおかしくありませんでした。優勝を勝ち取ったのは、3年連続で青森高校のチーム。同じ学校・同好会の先輩たちを差し置いて1年生チームが優勝し、見事下剋上を果たしました。

今後も高校生の皆さんに楽しく金融・経済の知識を学んでいただけるよう頑張っていきたいと思います。



優勝チーム  
青森県立青森高等学校  
「P-Dogs」



## 宮城大会

12月13日(日)開催

主催 **77 七十七銀行**

参加校一覧 仙台市立仙台青陵中等教育学校、仙台白百合学園高等学校、仙台育英学園高等学校 宮城野校舎、宮城県仙台三桜高等学校、宮城県仙台二華高等学校、宮城県仙台第一高等学校、宮城県仙台第三高等学校、宮城県仙台第二高等学校、宮城県宮城第一高等学校、宮城県泉高等学校、東北生活文化大学高等学校、聖ウルスラ学院英智高等学校

参加チーム数 33チーム(12校)

運営スタッフ感想 今年は問題の難易度が低いせいか、特に早押しクイズで例年になく盛り上がりを見せました。来年以降も今年くらいの難易度が適当だと思われます。



優勝チーム  
宮城県仙台二華高等学校  
「二華ピクチャーズ」



## 秋田大会

12月12日(土)開催

主催 **秋田銀行**

参加校一覧 秋田市立秋田商業高等学校、秋田県立大曲高等学校、秋田県立秋田南高等学校、秋田県立秋田高等学校、秋田県立能代高等学校、秋田県立角館高等学校

参加チーム数 23チーム(6校)

運営スタッフ感想 今回の優勝チームは、昨年6位の悔しさをバネに、高いモチベーションで大会に臨み、見事全国大会への切符を掴み取りました。

決勝ラウンドでは最後の1問を残し、優勝の可能性が3チームに残る大接戦となり、大逆転で秋田高校チームが3年ぶり2回目の優勝を果たしました。参加してくれた高校生の皆さん、ご引率の先生方、開催にあたり多大なご協力をいただいた、関係各所の皆さまに心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。



優勝チーム  
秋田県立秋田高等学校  
「伊藤悠斗と岡竹馨」





## 山形大会

12月13日(日)開催

主催 山形銀行

参加校一覧 山形市立商業高等学校、山形県立上山明新館高等学校、山形県立天童高等学校、山形県立山形南高等学校、山形県立山形東高等学校、山形県立米沢商業高等学校

参加チーム数 41チーム(6校)

運営スタッフ感想 今大会は山形開会過去最高となる38組、76名の高校生を集め盛会に終了しました。当日は1組のキャンセルもなく、スムーズな大会進行が図られました。

例年以上に学習してから大会に望んでいる生徒さんが多いように感じられ、ハイレベルな戦いとなりました。また、決勝ラウンドの「すごろく形式」は、ハラハラドキドキする展開で、予選敗退したチームも一緒に楽しめると評価が高かったです。

参加者からは「予想以上に楽しかった」、「金融、経済を学ぶ良い機会となった」、「また来年も出たい」などのうれしい意見を多くいただき、非常にやりがいを感じました。

参加したスタッフも、普段の業務で接することの少ない高校生の「元気」と「学習意欲」に驚かされ、また気持ちを新たに、今後の業務に臨みたいと思います。



優勝チーム  
山形県立山形東高等学校  
「PEEKA」



## 福島大会

11月29日(日)開催

主催 東邦銀行

参加校一覧 尚志高等学校、福島工業高等専門学校、福島県立安積高等学校、福島県立白河高等学校、福島県立磐城高等学校、福島県立福島高等学校

参加チーム数 18チーム(6校)

運営スタッフ感想 福島大会としては4回目ですが、全国大会として10回記念大会なので、地元テレビ局に番組企画書を作り提案しました。快諾を得、盛り上がりを見せる早押しクイズからアナウンサーに登場してもらいましたが、クイズ研究会だったこともありすばらしい司会振りで、「とても楽しかった、クイズ番組に出場しているようだ」と大成功でした。

震災からの復興に向け、参加した生徒の皆さんがさらに研鑽を重ねて大きく成長し、福島県、日本、そして世界の将来を担う人材として活躍されることを心より期待したいと思います。



優勝チーム  
福島県立白河高等学校  
「県南経済研究会」



## 茨城大会

12月13日(日)開催

主催 筑波銀行

参加校一覧 常磐大学高等学校、明秀学園日立高等学校、茨城県立下館第一高等学校、茨城県立並木中等教育学校、茨城県立土浦第一高等学校、茨城県立水戸商業高等学校、茨城県立水戸第一高等学校、茨城県立竜ヶ崎第一高等学校、茨城県立竹園高等学校、茨城高等学校

参加チーム数 32チーム(10校)

運営スタッフ感想 今年の茨城大会では、32チーム64名の参加により、茨城大会が盛大に開催されました。緊張感に包まれた中、決勝大会においては白熱した戦いが行われ、会場内も盛り上がりました。優勝は、土浦一高 amuse で全国大会への出場権を獲得しました。

主催者として今後も大会を通じたくさんの高校生に楽しく金融知力の大切さを学んでもらえるよう取り組んでいきたいと思ひます。関係者すべての皆様に感謝申し上げます。



優勝チーム  
茨城県立土浦第一高等学校  
「amuse」



## 栃木大会

12月13日(日)開催

主催 足利銀行

参加校一覧 作新学院高等学校、宇都宮文星女子高等学校、栃木県立佐野高等学校、栃木県立宇都宮女子高等学校、栃木県立宇都宮東高等学校、栃木県立宇都宮高等学校、栃木県立栃木高等学校、栃木県立真岡高等学校、栃木県立足利高等学校

参加チーム数 16チーム(9校)

運営スタッフ感想 今回で3回目の開催となり、9校15チーム30名が参加してくれました。決勝ラウンドへ3チームが同点進出するという力の拮抗する戦いで、決勝ラウンドも最後の10問目で3番手のチームが逆転優勝するという接戦でした。優勝チームには涙ののんだチームの分も、ぜひ全国大会で頑張ってほしいと期待しています！

今後も高校生が金融経済について楽しく学べる機会となるよう、栃木大会を盛り上げていきたいと思ひます。



優勝チーム  
栃木県立宇都宮高等学校  
「宇都宮高校」





## 群馬大会

12月13日(日)開催

主催 **群馬銀行**

参加校一覧 ぐんま国際アカデミー高等部、前橋育英高等学校、群馬県立中央中等教育学校、群馬県立前橋南高等学校、群馬県立前橋女子高等学校、群馬県立前橋高等学校、群馬県立太田高等学校、群馬県立高崎商業高等学校、群馬県立高崎女子高等学校、高崎市立高崎経済大学附属高等学校

参加チーム数 21チーム(10校)

運営スタッフ感想 4回目となる群馬大会は10校から21チームが参加し、賑やかな大会になりました。

参加者の中には、2年連続出場が10名、3年連続出場が1名と、毎年この大会へ出場することを楽しみにしてもらっていて、スタッフとしてはうれしい限りです。

激戦を制し見事優勝を勝ち取ったのは前橋高校の3年生チーム「黒船」。既に進路も決まっているとのことで、2月の全国大会に向けて全力で準備をしてNYに行きたいと熱く抱負を語ってくれました。全国大会での活躍が期待されます。

参加者の皆さんから、「この大会を通じて経済や金融に対する興味をもつことができた」という声をたくさんいただきました。来年も多くの高校生に、楽しく金融知力を身につけてもらえる大会にしていきたいと思います。



優勝チーム  
群馬県立前橋高等学校  
「黒船」



## 埼玉大会

11月8日(日)開催

主催 **埼玉りそな銀行**

参加校一覧 埼玉県立ふじみ野高等学校、埼玉県立浦和高等学校、早稲田大学本庄高等学院、栄東高等学校

参加チーム数 16チーム(4校)

運営スタッフ感想 今回の埼玉大会は15チームの高校生たちに参加していただきました。決勝ラウンドでは正答が発表されるたびに会場にどよめきが起るなど、大会は大いに盛り上がりました。激戦を制し、栄東高等学校の1年生チーム「ら復活委員会」が見事優勝を果たしました。今後も、たくさんのが高校生が楽しみながら金融経済の大切さを学んでいただけるよう取り組んでいきたいと思ひます。



優勝チーム  
栄東高等学校  
「ら復活委員会」



## 千葉大会

12月13日(日)開催

主催 **千葉興業銀行** **千葉銀行**

参加校一覧 八千代松陰高等学校、千葉県立一宮商業高等学校、千葉県立千葉商業高等学校、千葉県立千葉女子高等学校、千葉県立千葉東高等学校、千葉県立千葉高等学校、千葉県立東葛飾高等学校、千葉県立柏高等学校、専修大学松戸高等学校、市川高等学校、流通経済大学付属柏高等学校、渋谷教育学園幕張高等学校、麗澤高等学校

参加チーム数 26チーム(13校)

運営スタッフ感想 第7回千葉大会は、県内各地から多数の高校生に参加いただき、盛況のうちに終了致しました。開催時期がクリスマスに近いこともあり、サンタクロースやトナカイなどコスプレをしての参加者も多くおり、楽しい大会となりました。

また、決勝進出上位3チームの予選ラウンド合計点は僅差というハイレベルな戦いとなり、どのチームが優勝してもおかしくないという状況のなか、決勝ラウンドは最終問題で3チームが同時にゴールとなるなど、スタッフもハラハラドキドキの連続でした。

開催にあたりご尽力いただいた関係者の皆さま、参加してくれた高校生のみならず、ありがとうございました。今後も千葉興業銀行と千葉銀行の2行で、千葉大会を盛り上げていきたいと思ひます。



優勝チーム  
千葉県立柏高等学校  
「カープスター」



## 東京大会

11月15日(日)開催

主催 **りそな銀行**

参加校一覧 お茶の水女子大学附属高等学校、世田谷学園高等学校、八王子学園八王子高等学校、早稲田高等学校、普連土学園高等学校、朋優学院高等学校、東京都立国際高等学校、東京都立立川高等学校、桐朋高等学校、渋谷教育学園渋谷高等学校、豊島岡女子学園高等学校、開成高等学校

参加チーム数 25チーム(12校)

運営スタッフ感想 今年の東京大会は、22チーム42名の高校生たちが参加してくれました。大会中に高校生の皆さんが見せる、ポイントを獲得した際の笑顔や、惜しくも決勝ラウンドに進出出来ない悔しさなど、真剣に取り組む姿が印象的でした。そんな熱戦を制し、全国大会への切符を手にしたのは、早稲田高等学校の「長野兄弟応援会」チーム。

お互い「相方がいたから優勝できた!」と語る2人には、全国大会での活躍を期待したいと思います。

今後も、大会を通じてたくさんのが高校生に楽しく金融知力の大切さを学んでもらえるよう取り組んでいきたいと思ひます。



優勝チーム  
早稲田高等学校  
「長野兄弟応援会」





## 神奈川大会

12月13日(日)開催

主催 横浜銀行

参加校一覧 公文国際学園高等部、慶應義塾高等学校、桐光学園高等学校、桐蔭学園高等学校、法政大学第二高等学校、洗足学園高等学校、湘南工科大学附属高等学校、神奈川県立光陵高等学校、神奈川県立厚木商業高等学校、神奈川県立厚木高等学校、神奈川県立平塚商業高等学校、神奈川県立横須賀高等学校、聖光学院高等学校、藤嶺学園藤沢高等学校

参加チーム数 40チーム(14校)

運営スタッフ感想 今回で8回目の開催となった神奈川大会は、36チーム72名の高校生にご参加いただき、非常に高いレベルの戦いが繰り広げられました。参加者から「またチャレンジしたい」「このような大会があると、高校生の金融・経済への関心が深まるので、今後も続けてほしい」との嬉しいご意見もいただきました。今後またたくさんの方の高校生に楽しんでいただけるよう、一層大会を盛り上げていきたいと思っております。参加者の皆さま、関係者の皆さま、本当にありがとうございました。



優勝チーム  
慶應義塾高等学校  
「MERCURUS」



## 新潟大会

12月13日(日)開催

主催 第四銀行

参加校一覧 新潟明訓高等学校、新潟県立三条高等学校、新潟県立新潟南高等学校、新潟県立新潟高等学校、新潟県立新発田商業高等学校、新潟県立村上中等教育学校、新潟県立柏崎常盤高等学校、新潟県立燕中等教育学校、新潟県立直江津中等教育学校、新潟県立長岡高等学校、新潟県立高田商業高等学校

参加チーム数 29チーム(11校)

運営スタッフ感想 3回目の開催となった新潟大会には、28チーム56名の高校生にご参加いただきました。今年は、昨年にも増して高校生の知識レベルが上がっており、また昨年参加チームはリベンジに燃えていて、早押し問題や決勝ラウンドは大いに盛り上がりました。

優勝した「将棋部チーム」も昨年参加チーム。「優勝目指して、一年間勉強した成果が実ってよかった。」とのコメントが印象的でした。参加者からは、「来年も参加したい!」、「楽しく金融について学べた!」、「昨年より答えられてうれしかった!」との声を多くいただきました。次回もたくさんの方の高校生に楽しんでいただけるような大会運営を目指していきます。



優勝チーム  
新潟県立新潟高等学校  
「将棋部チーム」



## 富山大会

12月6日(日)開催

主催 北陸銀行

参加校一覧 富山県立富山いづみ高等学校、富山県立富山南高等学校、富山県立富山高等学校、富山県立水橋高等学校、富山県立泊高等学校、富山県立滑川高等学校、富山県立高岡西高等学校、富山県立高岡高等学校、富山高等専門学校 射水キャンパス、片山学園高等学校、高岡龍谷高等学校

参加チーム数 32チーム(11校)

運営スタッフ感想 今回は29チーム58名に参加いただき、前回より5チーム増となりました。参加者は皆さん真剣に取り組んでおり、大会自体も非常に良い雰囲気でした。参加者からは、「想像していたよりも楽しかった」「経済に理解が深まった」等のコメントを頂き、スタッフ一同大変嬉しかったです。来年はより多くの高校生の皆さんにご参加いただけるよう取り組んで参りたいと思っております。



優勝チーム  
富山県立高岡高等学校  
「経世済民の男たち」



## 石川大会

12月13日(日)開催

主催 北國銀行

参加校一覧 北陸学院高等学校、星稜高等学校、石川県立大聖寺実業高等学校、石川県立金沢二水高等学校、石川県立金沢商業高等学校、石川県立金沢泉丘高等学校、金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校

参加チーム数 21チーム(7校)

運営スタッフ感想 昨年より8チーム増加の21チーム参加となり大変盛り上がった大会となりました。決勝ラウンドは2チームがデッドヒートし、白熱の戦いがくりひろげられました。来年もたくさんの方の学生に参加いただき、金融や経済の知識を得られる場を提供できればと思います。



優勝チーム  
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校  
「金沢大学附属高校1」





## 福井大会

12月13日(日)開催

主催 **北陸銀行**

参加校一覧 仁愛女子高等学校、北陸高等学校、敦賀気比高等学校、福井県立丸岡高等学校、福井県立坂井高等学校、福井県立武生高等学校、福井県立福井商業高等学校、福井県立藤島高等学校、福井県立金津高等学校、福井県立高志高等学校

参加チーム数 29チーム(10校)

運営スタッフ感想 今回は29チーム57名参加いただき、大会自体も非常に良い雰囲気でした。参加者の皆さんからは「楽しかった」「来年もまた参加したい」等のコメントを頂き、スタッフ一同大変やりがいを感じました。

来年はより多くの高校生の皆さんにご参加いただけるよう取り組んで参りたいと思います。



優勝チーム  
福井県立高志高等学校  
「ミリオンズ」



## 山梨大会

12月6日(日)開催

主催 **山梨中央銀行**

参加校一覧 北杜市立甲陵高等学校、山梨学院大学附属高等学校、山梨県立塩山高等学校、山梨県立山梨高等学校、山梨県立日川高等学校、山梨県立甲府南高等学校、山梨県立甲府第一高等学校、山梨県立韮崎工業高等学校、駿台甲府高等学校

参加チーム数 21チーム(9校)

運営スタッフ感想 山梨大会は今回で5回目の開催となりましたが、8校・19チームに参加いただきました。実力が伯仲するなか、白熱した戦いが繰り広げられ、優勝したのは甲府南高校の2年生チーム「檸檬至上主義」、初出場だった昨年は惜しくも全国大会出場を逃しましたが、見事リベンジを果たしました。

ご参加いただきました高校生の皆さま、開催にあたりご尽力いただいた関係者の皆さまありがとうございました。皆さまのご協力で笑顔と充実感に満ちた素晴らしい大会になりました。

今後も、高校生の皆さまが金融経済について興味を持っていただくきっかけの場として、山梨大会を開催していきたいです。



優勝チーム  
山梨県立甲府南高等学校  
「檸檬至上主義」



## 長野大会

12月6日(日)開催

主催 **八十二銀行**

参加校一覧 佐久長聖高等学校、文化学園長野高等学校、松本秀峰中等教育学校、長野県上田高等学校、長野県屋代高等学校、長野県松本深志高等学校、長野県諏訪清陵高等学校、長野県長野西高等学校

参加チーム数 20チーム(8校)

運営スタッフ感想 県内高校生が経済について興味を持ち熱心に勉強され、難しい問題をスラスラと解いている様子を見て、大変刺激を受けました。また、同時に、長野県の将来も明るいと感じました。

エコミクス甲子園に参加したスタッフたちも、地域貢献活動でありながらも大変楽しい時間を過ごすことができました。とても素晴らしい問題と、盛り上がる決勝ラウンドの企画をしていただき、ありがとうございます。



優勝チーム  
長野県松本深志高等学校  
「ヤミラミ」



## 岐阜大会

12月20日(日)開催

主催 **十六銀行**

参加校一覧 多治見西高等学校、富田高等学校、岐阜県立可児高等学校、岐阜県立大垣北高等学校、岐阜県立大垣東高等学校、岐阜県立岐阜北高等学校、岐阜県立岐阜各務野高等学校、岐阜県立岐阜高等学校、鶯谷高等学校

参加チーム数 19チーム(9校)

運営スタッフ感想 岐阜大会としては初のオープン会場での開催でした。多くの方に認識いただき、活気のある大会となりました。

決戦ラウンドは手法としては工夫がみられるものの、ルールが難解です。(著作権の問題はクリアしたとして)図面と同様、人形のようなものがすぐろくマスを進んでいる全体図で表示したほうが分かり易かったと思料します。



優勝チーム  
岐阜県立岐阜高等学校  
「コッペパン品評会」





## 静岡大会

12月13日(日)開催

主催 静岡銀行

参加校一覧 キラリ高等学校、富士市立高等学校、知徳高等学校、藤枝明誠高等学校、静岡学園高等学校、静岡県立沼津商業高等学校、静岡県立浜松北高等学校、静岡県立浜松西高等学校、静岡県立清水東高等学校、静岡県立藤枝北高等学校、静岡県立静岡高等学校、静岡聖光学院高等学校、静岡雙葉高等学校

参加チーム数 23チーム(13校)

運営スタッフ感想 静岡大会も5回目を迎え、初参加校も2校を数えるなど、県内各地から多くの高校生が参加。参加者同士はもちろん、スタッフとの活発な交流のもと楽しい大会とすることができた。決勝ラウンドでは、白熱した戦いとなったものの、結果として予選ラウンドと同じ順位での着地となった。熟考できるぶん、実力がそのままゲームに反映されたようだ。優勝は昨年の準優勝チームで、悲願の勝利を勝ち取ることができ、全国大会への意気込みも十分。静岡県からの参加校として、過去最高順位となるよう活躍を期待している。



優勝チーム  
静岡県立静岡高等学校  
「岳南'15」



## 愛知大会

12月6日(日)開催

主催 愛知銀行

参加校一覧 名古屋市立名東高等学校、愛知県立一宮商業高等学校、愛知県立旭丘高等学校、愛知県立津島北高等学校、海陽中等教育学校、滝高等学校

参加チーム数 24チーム(6校)

運営スタッフ感想 今年は元気のよいチームが出そろい、拍手や笑いの多いウイズ大会となりました。リベンジをかけたチームや、先輩に負けじと頑張る1年生。高校最後の思い出づくりにと参加する3年生も参加しました。学生たちの勉強量や知識量に、我々行員は驚かされたこの愛知大会。これからも引き続き大会を開催して、高校生たちの楽しい時間を作っていこうと思います！



優勝チーム  
滝高等学校  
「ウォルストボーイ」



## 三重大会

12月13日(日)開催

主催 百五銀行

参加校一覧 セントヨゼフ女子学園高等学校、三重県立四日市商業高等学校、三重県立宇治山田商業高等学校、三重県立川越高等学校、三重県立松阪商業高等学校、三重県立津商業高等学校

参加チーム数 30チーム(6校)

運営スタッフ感想 三重大会も5回目となり、合計で延べ250名以上の皆さんに参加いただくことができました。教育委員会や高校の先生方をはじめ、これまでご協力いただいた方々に感謝いたします。今年は、参加チームも過去最多となり、大会は、大へん活気のあるものとなりました。これからも高校生の皆さんの金融知力の向上のため、楽しい大会の運営に努めて参ります。



優勝チーム  
三重県立宇治山田商業高等学校  
「弥生時代」



## 滋賀大会

12月13日(日)開催

主催 関西アーバン銀行

参加校一覧 滋賀県立八幡商業高等学校、滋賀県立八日市高等学校、滋賀県立大津商業高等学校、滋賀県立守山高等学校、滋賀県立安曇川高等学校、滋賀県立東大津高等学校、滋賀県立水口東高等学校、滋賀県立膳所高等学校、近江兄弟社高等学校

参加チーム数 16チーム(9校)

運営スタッフ感想 今回、初めて「エコノミクス甲子園」地方大会を滋賀県で開催いたしました。金融教育については、「銀行見学会」「職場体験学習」「インターンシップ」等の活動に取り組んでまいりましたが、ここに新たに認定NPO法人や教育機関との連携によるイベント開催が加わり、地域に密着した金融教育活動をより充実させることができました。お誘いいただきました金融知識普及協会さまには大変感謝しております。当日は、9校16チームの参加をいただきました。生徒の皆さんの真剣な眼差しと明るい笑顔が印象的で、非常に盛り上がった大会となりました。次回は更なるレベルアップを図り、金融に関する知識をもっと身近に感じていただけるような大会にしていきたいと思っております。



優勝チーム  
滋賀県立水口東高等学校  
「チーム名未定」





## 大阪大会

12月20日(日)開催

主催 **りそな銀行** **近畿大阪銀行**

参加校一覧 大阪教育大学附属高等学校 平野校舎、大阪教育大学附属高等学校 池田校舎、大阪星光学院高等学校、大阪桐蔭高等学校、明星高等学校、清風南海高等学校、金蘭千里高等学校

参加チーム数 16チーム(7校)

運営スタッフ感想 想定以上にレベルの高い大会となり参加者全員が驚きました。筆記試験で100点満点が2チームも出たことが物語っていました。開始時間ぎりぎりまで予習していた姿が非常に新鮮で、まさに「真剣勝負」と「本気」がぶつかり合う大会でした。



優勝チーム  
金蘭千里高等学校  
「スウィフティーズ」



## 兵庫大会

12月13日(日)開催

主催 **池田泉州銀行**

参加校一覧 三田学園高等学校、兵庫県立兵庫高等学校、啓明学院高等学校、淳心学院高等学校、灘高等学校、甲南高等学校、甲陽学院高等学校、神戸女学院高等学部、神戸野田高等学校、自由ヶ丘高等学校、賢明女子学院高等学校、関西学院高等部、雲雀丘学園高等学校

参加チーム数 21チーム(13校)

運営スタッフ感想 兵庫大会は今年初めての開催でしたが20チーム40名の参加がありました。非常に高いレベルでの戦いが繰り広げられ、観覧者、スタッフを含め一問一答に大きな歓声が上がりました。

決勝ラウンドでは2チームが同じゴールとなり予選結果上位の灘高等学校の「ビッグドーナツ」が見事優勝となりました。

皆様のご協力のおかげで笑い・歓声の絶えない素晴らしい大会となりました。

今後も高校生の皆様が「金融知力」について興味をもっていただくきっかけの場を提供して参ります。



優勝チーム  
灘高等学校  
「ビッグドーナツ」



## 奈良大会

12月20日(日)開催

主催 **NANTO 南都銀行**

参加校一覧 奈良大学附属高等学校、奈良県立奈良高等学校、奈良県立法隆寺国際高等学校、奈良県立欽傍高等学校、智辯学園奈良カレッジ高等部、智辯学園高等学校、東大寺学園高等学校、西大和学園高等学校

参加チーム数 24チーム(8校)

運営スタッフ感想 今年は、3チームが当日欠席となり、21チームの対戦となりました。

毎年このことから、事前にしっかりと準備をし、臨んでいると、筆記ラウンドの結果の方もうかがえました。非常に高いレベルの戦いが、繰り広げられ、スタッフ全員、ハラハラとした展開でした。経済について金融について興味を持てた、もっと学びたいという意欲が持てたという意見が聞け、たいへんうれしく思っています。

ご参加いただいた高校生の皆さま、ご尽力いただきました関係各所の皆さま、ご協力ありがとうございました。



優勝チーム  
東大寺学園高等学校  
「サンガティ」



## 鳥取大会

12月5日(土)開催

主催 **山陰合同銀行**

参加校一覧 湯梨浜高等学校、青翔開智高等学校、鳥取県立倉吉総合産業高等学校、鳥取県立米子南高等学校

参加チーム数 9チーム(4校)

運営スタッフ感想 3回目となる鳥取大会には9チーム18名が参加しました。毎年参加している常連校に、初参加となるチームも加え、大変盛り上がりました。

なかでも、初参加となった青翔開智高校の1年生チーム「あらキングズ」が大健闘し、予選第1ラウンド、第2ラウンドともに高得点を獲得し、決勝ラウンドでも途中までダントツトップの展開となり一方的な展開が予想されましたが、終盤から常連校である湯梨浜高校が猛烈な追いあげを見せ、大接戦の末、湯梨浜高校「ラビットハウス」が激戦を制し、全国大会への切符を手に入れました。



優勝チーム  
湯梨浜高等学校  
「ラビットハウス」





## 島根大会

12月6日(日)開催

主催 山陰合同銀行

参加校一覧 出雲西高等学校、島根県立出雲高等学校、島根県立松江北高等学校、島根県立松江南高等学校、島根県立隠岐高等学校、島根県立飯南高等学校、明誠高等学校

参加チーム数 13チーム(7校)

運営スタッフ感想 4回目となる島根大会には12チーム24名が参加しました。今大会初参加となる高校も多く参加し、大変盛り上がりました。予選第1ラウンド、第2ラウンドでは松江北高校の男子チーム「チームK&M」が高得点をあげ、それに松江南高校の1年生女子チーム「テンシンハン」「イチゴトマト」が続く展開となりました。決勝ラウンドでも、上位3チームの勝負になると予想が多くなか、決勝ラウンドでは途中まで1位が目まぐるしく変わる大接戦となりました。その中で、唯一の男女混合チームであった「隠岐高校チームα」が勝負どころを制し見事優勝。最後の最後まで息を飲む展開に島根大会は最高に盛り上がりました。



優勝チーム  
島根県立隠岐高等学校  
「隠岐高校チームα」



## 岡山大会

12月13日(日)開催

主催 中国銀行

参加校一覧 倉敷市立精思高等学校、創志学園高等学校、山陽女子高等学校、岡山学芸館高等学校、岡山白陵高等学校、岡山県立倉敷古城池高等学校、岡山県立倉敷商業高等学校、岡山県立倉敷青陵高等学校、岡山県立岡山南高等学校、岡山県立岡山大安寺中等教育学校、岡山県立岡山操山高等学校、岡山県立岡山東商業高等学校、岡山県立岡山芳泉高等学校、岡山県立笠岡商業高等学校、明誠学院高等学校、朝日塾中等教育学校、清心女子高等学校、玉野市立玉野商業高等学校、金光学園高等学校

参加チーム数 80チーム(19校)

運営スタッフ感想 今年も、全国の地方大会中、最多のエントリー数となり、大いに盛り上がりました。参加者を退屈させないように、早押しラウンドでは、前回と同様に全チーム参加の3択クイズを数回実施し、終日楽しんでいただけよう工夫をしました。次回も数多くの高校生が参加してくれることを期待しています。



優勝チーム  
倉敷市立精思高等学校  
「チームわかば」



## 広島大会

11月8日(日)開催

主催 もみじ銀行

参加校一覧 修道高等学校、安田女子高等学校、広島大学附属福山高等学校、広島学院高等学校、広島市立広島商業高等学校、広島県立呉三津田高等学校、広島県立呉商業高等学校、広島県立安芸高等学校、広島県立尾道商業高等学校、広島県立広島商業高等学校、広島県立総合技術高等学校

参加チーム数 37チーム(11校)

運営スタッフ感想 今回で4回目となる広島大会ですが、11校35チームの参加があり、高校生の中でエコ甲の認知度も上がっていると実感できました。早押しクイズでは、高校生、観客、そしてスタッフまでもがクイズや応援に熱くなり会場は熱気に溢れていました。大会が終わり高校生たちからは「こんなに楽しい大会とは思わなかった!」「来年も絶対に参加します。」と沢山の嬉しい声を聞くことができ、私たちスタッフも達成感に満ちています。



優勝チーム  
広島学院高等学校  
「広島学院高Ⅲ」



## 山口大会

12月20日(日)開催

主催 山口銀行

参加校一覧 下関市立下関商業高等学校、山口県立下関中等教育学校、山口県立下関西高等学校、山口県立宇部商業高等学校、山口県立山口高等学校、山口県立西京高等学校、山口県立防府商工高等学校、慶進高等学校、誠英高等学校

参加チーム数 24チーム(9校)

運営スタッフ感想 山口県内から23チーム46名の高校生が優勝を目指し、熱い戦いを繰り広げました。昨年のリベンジを誓い再挑戦したチーム、高校生活の思い出を増やしたいと親友と挑戦してくれたチームときまどですが、スタッフも含めて会場全体が一つになって盛り上がった大会となりました。高校生からは、「楽しく金融知識が身についた」「来年もぜひ参加したい!」との声が聞かれました。高校生たちが、クイズを通して金融知力を競い合い、金融・経済に関する知識を深めていく様子を見て、スタッフ一同、この大会の意義深さを実感しました。参加者の皆さん、ご協力いただきました高校の皆さま、関係者の皆さま、本当にありがとうございました。



優勝チーム  
山口県立下関西高等学校  
「まさし」





## 徳島大会

12月13日(日)開催

主催 **阿波銀行**

参加校一覧 徳島市立高等学校、徳島県立城南高等学校、徳島県立城東高等学校、徳島県立徳島商業高等学校、徳島県立脇町高等学校、徳島県立阿波高等学校

参加チーム数 18チーム(6校)

運営スタッフ感想 決勝ラウンドでは正直他のチームが優勝すると思いましたが、最後は予選ラウンドトップチームが逆転逃げ切りを決める白熱したゲーム展開。  
筆記試験でのレベルも高く、ぜひ全国でも優勝を果たして欲しい。



優勝チーム  
徳島県立城東高等学校  
「アルビレオ」



## 香川大会

12月6日(日)開催

主催 **百十四銀行**

参加校一覧 香川県立観音寺第一高等学校、香川県立香川中央高等学校、香川県立高松商業高等学校、香川県立高松西高等学校、香川県立高松高等学校

参加チーム数 29チーム(5校)

運営スタッフ感想 昨年より8チームも増え、29チーム58名の生徒さんにご参加いただきました。  
今年は、コスプレしているチームやユニークなネーミングのチームがあり、大会を大変盛り上げていただきました。  
参加された生徒さんから「楽しかった」「また来年も参加したい」との声をいただき、来年もたくさん生徒さんに楽しんでいただけるような大会にしたいと思います。



優勝チーム  
香川県立高松高等学校  
「ATM」



## 愛媛大会

11月15日(日)開催

主催 **伊予銀行**

参加校一覧 愛光高等学校、愛媛大学附属高等学校、愛媛県立三島高等学校、愛媛県立土居高等学校、愛媛県立大洲高等学校、愛媛県立宇和島高等学校、愛媛県立松山東高等学校、愛媛県立松山西中等教育学校、松山東雲高等学校

参加チーム数 25チーム(9校)

運営スタッフ感想 高校生たちの頑張る姿にスタッフも毎年感動をもらっている愛媛大会は、今年もショッピングモールのエミフル MASAKI にて、やのひろみさんの司会のもと、応援のご家族やお友達、先生や買い物に訪れたお客さまなど大勢の方々にご観覧いただき開催しました。個性あふれる高校生たちのハイレベルな闘いに観客の方々もスタッフも釘づけになる中、見事昨年のリベンジを果たし愛光高等学校「NO 経済 NO 生命」が念願の優勝を勝ち取りました。優勝チームのお二人も、今回決勝進出や優勝を逃し悔しい想いをしたチームの皆さんも、金融や経済を学ぶ面白さや必要性を十分に感じていただける大会となったと思います。  
今回の開催にあたりご協力を賜りました教職員の方々をはじめとする関係者の皆さま、真剣にこの大会に挑戦してくれた46名の高校生の皆さん、大会を見守ってくださったご観覧の皆さまに心より御礼申し上げます。



優勝チーム  
愛光高等学校  
「NO経済NO生命」



## 高知大会

11月29日(日)開催

主催 **四国銀行**

参加校一覧 土佐高等学校、高知学芸高等学校、高知市立高知商業高等学校、高知県立高知小津高等学校、高知県立高知追手前高等学校

参加チーム数 10チーム(5校)

運営スタッフ感想 今年で3回目を迎えましたが、出場チームの実力が伯仲するなか予選ラウンドから熱戦を繰り広げました。決勝ラウンドは接戦の末、最後は同点で2チームが並び、予選上位の土佐高校「応道」が見事優勝を飾りました。今年も昨年に引き続き地元のケーブルテレビが30分の番組として放映してくれることになりました。今後も地域の高校と連携、マスコミの協力も得て、さらにエコノミクス甲子園を盛り上げていきます。



優勝チーム  
土佐高等学校  
「応道」





## 福岡大会

12月13日(日)開催

主催 西日本シティ銀行

参加校一覧 九州国際大学付属高等学校、大牟田高等学校、福岡海星女子学院高等学校、福岡県立修猷館高等学校、福岡県立新宮高等学校、福岡県立筑紫丘高等学校、福岡県立輝翔館中等教育学校、西南学院高等学校

参加チーム数 14チーム(8校)

運営スタッフ感想 参加者の皆さんは事前にたいへん勉強されており、真剣に問題に挑んでおられました。  
福岡県代表の全国大会優勝並びに来年も多数の高校生が参加されることを願っています。



優勝チーム  
大牟田高等学校  
「南関あげ井」



## 佐賀大会

12月6日(日)開催

主催 佐賀銀行

参加校一覧 佐賀学園高等学校、佐賀県立三養基高等学校、佐賀県立佐賀商業高等学校、佐賀県立佐賀西高等学校、佐賀県立杵島商業高等学校、佐賀県立致遠館高等学校、佐賀県立鳥栖商業高等学校、弘学館高等学校、早稲田佐賀高等学校

参加チーム数 19チーム(9校)

運営スタッフ感想 佐賀県初開催ということで、手探りで準備でした。  
当日は、大会進行に支障をきたすトラブルもなく、順調に進みました。またMCも立ち回りがうまく、効果音等も協会から提供されたものでなく、独自にラインナップを充実させたことから高校生にも楽しんでもらえたと思います。来年は「エコミクス甲子園」の認知度をUPさせ、今大会よりも多くのチーム、高校に参加してもらいたいです。



優勝チーム  
佐賀県立致遠館高等学校  
「2000000」



## 長崎大会

12月6日(日)開催

主催 IBank 十八銀行

参加校一覧 海星高等学校、精道三川台高等学校、長崎南山高等学校、長崎市立長崎商業高等学校、長崎県立大村高等学校、長崎県立松浦高等学校、長崎県立諫早商業高等学校、長崎県立長崎東高等学校、青雲高等学校

参加チーム数 22チーム(9校)

運営スタッフ感想 これまで参加がなかった遠方の高校からの参加もあり、長崎大会の認知度も徐々に高まってきていると感じました。前回大会優勝ペアを含む9校22チームが参加した今回の長崎大会は、筆記クイズでは大きな差がつかず、早押しクイズで順位が僅差で入れ替わる展開となりました。決勝ラウンドではサイコロ(進むマス数)の決定に頭を悩ませるチームもある中、結果的に出題された6問全問に正解し圧倒的な強さを見せた前回優勝ペアが2年連続の全国大会出場を手にしました。長崎大会のレベルも上昇してきていると感じており全国大会での活躍を期待いたします!



優勝チーム  
精道三川台高等学校  
「炎帝の風」



## 宮崎大会

11月29日(日)開催

主催 宮崎太陽銀行 宮崎銀行

参加校一覧 宮崎県立宮崎南高等学校、宮崎県立宮崎西高等学校、宮崎県立小林高等学校、宮崎県立日向工業高等学校、宮崎県立都城西高等学校、宮崎第一高等学校

参加チーム数 17チーム(6校)

運営スタッフ感想 決勝ラウンドでは複数のチームが同時にゴールするハイレベルな戦いになりました。  
手作りの大会で、当日の運営で小さな失敗もありましたが、参加いただいた高校生、観客の皆さんの理解や、司会のアナウンサーのサポート理解もあって、アットホームな宮崎県大会だったのではないかと感じています。



優勝チーム  
宮崎第一高等学校  
「q'sみやぎ」





## 鹿児島大会

12月20日(日)開催

主催 **鹿児島銀行**

参加校一覧 ラ・サール高等学校、志學館高等部、樟南高等学校、霧島市立国分中央高等学校、鳳凰高等学校、鹿児島実業高等学校、鹿児島情報高等学校、鹿児島県立明桜館高等学校、鹿児島県立楠隼高等学校、鹿児島県立鶴丸高等学校、鹿児島高等学校

参加チーム数 26チーム(11校)

運営スタッフ感想 決勝ラウンドは、各チーム接戦で盛り上がりを見せた。優勝者は、鹿児島大会で初めての女性ペアチームとなった。



優勝チーム  
霧島市立国分中央高等学校  
「K-girls」



## 沖縄大会

12月6日(日)開催

主催 **沖縄銀行**

参加校一覧 昭和薬科大学附属高等学校、沖縄尚学高等学校、沖縄県立浦添高等学校、沖縄県立読谷高等学校、沖縄県立那覇商業高等学校、沖縄県立那覇国際高等学校

参加チーム数 41チーム(6校)

運営スタッフ感想 今年は、告知前から30校ほどエントリーチームがあり、参加者の意気込みが感じられる回でした。当日は大きなマラソン大会が開催されており、朝早くから会場近くでも交通規制がされていたが、大幅な遅刻者もなく、スムーズに筆記試験が行われました。

前回同様、FM沖縄で人気ラジオ番組パーソナリティーが筆記試験からクイズまで全ての司会進行を行い、1日という長丁場を、多弁にトークを繰り広げ、学生たちの集中力を持続させ、意欲を掻き立てていました。

一部の高校の、校長先生や教頭先生も応援に駆けつけていただき、学生達も嬉しそうでした。早押しクイズからは雨も降ってきましたが、屋根がある商業施設での開催ということもあり、全く気にならないほどの盛り上がりでした。

今年は、勉強しないと答えられない問題も散見されましたが、素早く答える場面では観覧席から拍手も湧き上がるほど、レベルの高さが伺えました。

参加した高校生からは「来年もチャレンジします」との声もきかれるほど、学生達にも良い思い出となったと思います。本大会をきっかけに多くの高校生が経済に興味を持っていただくことを期待します。

この日のために、勉強し参加いただいた高校生は元より、応援いただいたご家族の皆さま、教育関係者の皆さま、そして、運営に多大なるご尽力いただいた関係各所の皆さまに心より御礼申し上げます。



優勝チーム  
昭和薬科大学附属高等学校  
「ものものあわれ」



## インターネット大会

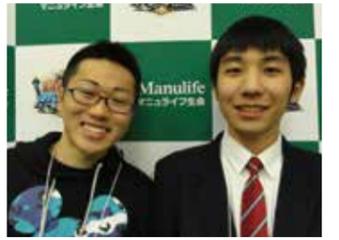
11月23日(月)開催

主催 **住信SBIネット銀行**

参加校一覧 三重県立津商業高等学校、京都橘高等学校、大阪星光学院高等学校、安田女子高等学校、山口県立岩国商業高等学校、岡山県立岡山芳泉高等学校、札幌第一高等学校、東京都立高島高等学校、海陽中等教育学校、神奈川県立横須賀高等学校、福島工業高等専門学校、西大和学園高等学校、近畿大学附属広島高等学校 東広島校、開成高等学校、関西学院高等部、青森県立五所川原高等学校

参加チーム数 19チーム(16校)

運営スタッフ感想 今回で4回目の開催となるインターネット大会では、FinTechに関するオリジナル問題を出題いたしました。様々な独創性溢れるご回答をいただき、出題者も楽しく確認させていただきました。ここで出たアイデアがいつか実現される日も近いかもしれません。ご参加いただきました高校生の皆様、開催にあたりご尽力いただきました関係者の皆様に御礼申し上げます。



優勝チーム  
近畿大学附属広島高等学校 東広島校  
「デカ枕幕府」

準優勝チーム  
西大和学園高等学校  
「チュラゲナイ」

3位チーム  
開成高等学校  
「早川チルドレン」

## 第10回記念特別枠

12月22日(火)決定

今大会では、エコノミクス甲子園の開催10周年を記念して、地方大会で優勝した43チームに加えて第10回記念特別枠として1チームを全国大会にご招待しました。

各地方大会出場チームから地方大会主催金融機関さまに1チーム推薦していただき、12月22日(火)放送のニコニコ生放送「金融知力チャンネル」にて抽選会を行いました。

厳正なる抽選の結果、大阪大会準優勝の大阪星光学院高等学校「やおやさん」チームが第10回記念特別枠として選出されました。



大阪星光学院高等学校  
「やおやさん」



1 日目

■ 筆記・講演・プレゼン

全国大会、最初のラウンドは筆記クイズです。全国大会の問題は地方大会とは一味違い、難易度もはるかに高いです。四択問題のみならず、近似値や記述・論述式の問題にも個人で取り組みなければなりません。高校生たちは眠い目をこすりながら、30分という短い制限時間の中で鉛筆を走らせます。筆記クイズの後は、日本航空株式会社・コーポレートブランド推進部・今北恭平様による講演会。世界一お客様に愛される航空会社になるべく、新たな商品・サービスを導入することや、チャレンジする人をサポートすることを推進する「チャレンジJAL」に関して熱く語っていただきました。

この「チャレンジJAL」が重要になるのが、次のラウンド「JALラウンド M&Aプレゼンテーションクイズ」です。JALからの指令は、JALの企業価値と顧客満足度を高めるため、四季報に掲載されている企業を一社選び、M&Aのプランを作成し、経営陣にプレゼンせよというものでした。「チャレンジJAL」のコンセプトに従って、5～10年後に実現可能な新たな商品・サービスを考えなければなりません。高校生に与えられたのは、四季報1冊と、プレゼンで使用するPC1台のみ。くじによって決められた11グループに分かれて、革新的なプランを考えます。プレゼンラウ

ンド開始5時間後が予選ラウンドの時間です。予選ラウンドでは、11グループが各部屋で審査員にプレゼンテーションを2回行い、上位3グループが決勝に駒を進めることができます。11グループ11様のプレゼンが印象的でした。そして決勝では上位3グループが1回ずつプレゼンを行います。日本航空株式会社・取締役専務執行役員・大川順子様をはじめとした5名の特別審査員に審査していただきました。



■ 前夜祭

第10回を記念する今大会では過去9回の大会を振り返り、参加高校生と来賓・協力銀行の方が交流する前夜祭が行われました。スポンサーや各銀行の方に提供していただいた各地の物産品を賭けたビンゴゲームも行われ、大いに盛り上がりました。このビンゴゲームでは高校生と来賓方とのコミュニケーションが当選に必要なルールになっており、来賓の方に積極的に話しかける高校生の姿が会場のいたるところで見られました。



2 日目

■ 第1ラウンド 取引開始!オープニングベルクイズ

五十音順で1組4チームずつ登場し、全44チームが参加する早押しクイズ。スピードと知識量を競うこのラウンドは、シンプルな力量が試されるもので、参加した高校生の実力を目の当たりにすることとなりました。1組につき2問ずつ問題が読まれるのですが、ほとんどの問題は問題文の途中で解答されてしまい、全国大会のレベルの高さがうかがえました。



■ 第2ラウンド 脱却せよ!デプレスパイラルクイズ

プレゼンテーション班ごとに1列に並び、各グループ先頭の高校生が3択問題に挑戦して全員勝ち抜けの速さを競うこのラウンド。高校生は問いが読まれた後すぐに、答えだと思ふアルファベットの札をあげて解答。正解すると客席へ戻ることができますが、不正解だと列の後ろに並び直します。グループの順位が各チームの得点にも影響するというルールもあってか、正解した高校生が次の解答者と握手をしたり、客席で待つグループのメンバーとハイタッチをしたりする様子も見られました。敵であると同時に味方でもある、高校生同士の団結が見られたラウンドでした。



■ 第3ラウンド 目指せ不良品ゼロ!シックスシグマクイズ

予選を通過した18チームによる三姉みの団体戦が繰り広げられたこの第3ラウンド。「六文字で答えよ」という問題に対して6チームでグループを組み、各チーム一文字を担当し解答します。グループ全員で足並みを揃えて解答しなければポイントを獲得することができないという大変厳しいルールです。僅かなミスにより、解答台には聞きなれない文字列が並び、会場に動揺が広がりました。一問目は全チーム不正解となり、ポイントを獲得するグループが現れることすら危ぶまれましたが、流星は全国を勝ち抜いた精鋭18チーム。二問目でどうにかうまく正解を揃え、ポイントを獲得したグループからは自然と笑みがこぼれます。その後なかなか正解が揃わず苦しい展開が続きましたが、6問のクイズを終え、辛くも2ポイントを獲得したグループより広島学院、新潟、慶應義塾、仙台二華、東大寺、宇都宮が第4ラウンドに駒を進めました。





### ■ 敗者復活ラウンド 起死回生!リストラクチャリングクイズ

大白熱の第3ラウンドののちは敗者復活ラウンド。一度は優勝への切符を逃してしまった38チームに一縷の道が用意されました。勝ち残ることができるのはわずかに2チーム。38チームの全員が三角帽子をかぶった上で列をなし、先頭の1チームが舞台中央で読み上げられた問題に対して解答します。正解ならばそのまま列の最後尾へ並びなおし、不正解ならば三角帽子を一個取られてしまいます。チーム内の両者の三角帽子がなくなってしまったチームはその時点で敗退が決定します。一つの問題に対して、正解が出るまで、同じ問題が次のチームへ、またその次のチームへ……と課せられていきます。読み上げられた問題に対して、冷静に正解を答える高校生がいる一方で、中には、壇上中央で脚光を浴びたことにより緊張してしまう高校生の姿も。全25問が終了し、最後まで生き残ったチームのうち、三角帽子が二つあったチーム、県立柏、岐阜、札幌南の3チームから、予選順位の高い岐阜と札幌南が、敗者復活ラウンドの勝者となりました。



### ■ 第4ラウンド 蹴落とせ御社、生き残れ弊社!信用格付けクイズ

勝ち抜けチームに敗者復活チームを加え、広島学院、東大寺、仙台二華、新潟、慶應義塾、宇都宮、札幌南、岐阜の8チームで争われたこのラウンド。ボードクイズに解答し、不正解チームを正解チームが指名することで格付けが下がる、という過酷なルールで争われます。指名された数だけ格付けが落ち、Dまで下がった段階で即失格となるため、不正解が大きな痛手となることはもちろん、臨機応変に戦略を立てる力も問われます。プレッシャーのかかる中、一進一退の攻防が続き、会場も一体となって手に汗握る展開となりました。10問を終え、序盤に集中砲火を浴びるものなとか立ち直った東大寺、最後に標的となりながら逃げきった慶應義塾、堅実に正解を積み重ねた新潟と広島学院の4チームが決勝ラウンドに進みました。



### ■ 決勝ラウンド 地球を飛び出せ!宇宙産業クイズ

激闘の第4ラウンドを終え、勝ち残った4チームがいよいよニューヨークへの切符をかけて決勝ラウンドへ臨みます。広島学院、新潟、慶應義塾、東大寺の4チームが決勝へ残りました。この中で優勝をつかみ取るのはどのチームか。

決勝ラウンドは、問題に正解して一時的な収益を獲得し、それをロケット打上によって利益として確定させ、利益を多く獲得することを目的としたラウンドです。ルールが非常に複雑ではありますが、さすがに決勝まで残った精鋭8名。すぐに決勝ラウンドのルールを理解したようでした。

決勝ラウンドのルールがあまりに複雑であったため、ラウンドの前半の段階では観客席の困惑した様子が見られましたが、後半になってくにつれ、客席の方々もルールを理解したようで、各々のチームの選択に応じて盛り上がりを見せていました。

運命の第11問目、独走を続ける新潟を前にして、広島学院の二人がとある選択をしたことにより、あっけなくラウンドが終了。会場には大きなよめぎが起こりました。意表を突く選択の結果、優勝が新潟、準優勝が広島学院、3位慶應義塾、4位東大寺となりました。





新潟県立新潟高等学校  
平山 一帆

英語ができないのです。それも特にリスニングが苦手なのです。いわゆる英弱でしょう。はっきり言うと、贅沢ではありますが、エコノミクス甲子園で優勝した時に、いや決勝の途中から、そのことで心配だったのです。もしかしたらそれが顔に出ていたのではないかと思います。もともと自分は怠け者であり、高校のEveryday Englishという大学受験に向けての目標も全く出来ずにいました。優勝後、珍しく勉強はしたのですが、それも十分ではありませんでした。

そんな状態でNY研修旅行に臨みました。3月26日。私の誕生日の翌日、春休みが始まった日でした。まず、午前1時50分ごろという辛い時間にバスに乗って、成田空港へ行きました。午前7時30分。新潟高校クイズ同好会のTwitterを更新した後、引率の方と合流し

ました。そして、私の人生で三回目の飛行機に乗りました。初海外です。

ほんの小さなトラブルはありましたが、無事に飛行機は着陸し、いざ入国審査というところで引っかけました。これが一つ目のトラブル。税関申告書を書いていなかったのです。今でもなぜ書いていなかったのか分かりません。それでも何とか通してもらい、無事入国しました。空港を出て最初に思ったことは、タクシーが絶え間なく走っていることよりも、車線がとても多いことよりも、煙草臭いと思ったことでした。たまたまです。その他の場所ではそんなにおい感じ取りませんでした。いよいよタクシー。これが、一日半に及ぶ体調不良の原因でした。道はガタガタして悪く、急カーブでもほとんどスピードを落とさず、わずかな隙間があれば通り抜け、こういうことをされると私は酔うのです。ホテルに着くとすぐにぐったりしてしまいました。

少し体調が良くなってから、実際にニューヨークの道を歩きました。人が多い。車も多い。クラクションが盛ん。信号無視が多い。やはり

いろんな人がいる。いろんな人種がいる。思ったことを羅列してみました。違う国に来たのだなあと感じました。その後、地下鉄に乗ってメトロポリタン美術館に行きました。地下鉄に乗って思ったことは、日本と比べると吊革がなく揺れやすいので立って乗るのには気をつけなければならないということです。メトロポリタン美術館では、世界史や倫理の教科書・資料集に載ってそうなヨーロッパ・アジア美術や逆にあまり見る機会のない南アメリカ・オセアニア美術、さらに武器・甲冑というのまで見ました。私が特におもしろいと感じたのは武器・甲冑です。どこを見ても隙間がなく、どうやって人を傷つけるのかと思いました。ニューヨークでの初の食事はメトロポリタンの食堂で11\$くらいのペンネだったのですが、これが吐き気を催しました。アメリカサイズを無理に食べようとしてしまったためだと思われます。よって、そのあとまわった展示はあまり覚えていません。

ホテルに帰ったらまたぐったりと意識を失うかのように倒れてしまいました。目を覚ましたら

ちに対し武神さんがされ、私たちは貯蓄・貯金すると答えました。その後の武神さんの話から、やはりこれが日本の縮図のようなもので、何かモノ・サービスを買ったり運用したりすると答え日本人が少なく、外国と比べてそういった意識は低いのだなと思いました。武神さん、金さんからお話を伺った後、ステーキのお店に連れて行っていただきました。ステーキはボリュームが大きかったのですが、ここで昼食を抜いた効果が出ました。とてもおいしかったです。

四日目には、NYSE(ニューヨーク証券取引所)に行きました。取引が始まる9時30分に大きな拍手が起こります。中央の方ではニュース番組の撮影が行われていて、日本でも見たことがあるような気がします。普通では入れないところだと言うので、そこに入ることができたのは一生の思い出になると思います。貨幣博物館ではアメリカの昔使われていた貨幣や経済の歴史などを見ました。その後、ワンワールドトレードセンターに行きました。ここに入るときに荷物検査があるのですが、リュックの中にナ

イフと見えないわけでもないよ感じの長さのものが入っているということで引っかけました。これが二つ目のトラブルです。でも私はバトンのような棒状のものを入れていないので「これ？」などと聞くこともできません。もう一度通すことで無事通り抜けることができましたが、未だに何が引っかけたのか分かりません。ただ私は、その棒状のものがうつつた場所からパスポートケースの紐ではないかと思っています。展望台は400mちょっとの高さだそうですが、そこから、航空機の不時着で「ハドソン川の奇跡」で知られる川や、数々のビルを見ることが出来ます。ただ残念なことに、自由の女神を見るのを忘れてしまいました。そこで最も印象に残っているのはエレベーターです。上昇するとき、ちょうど展望台から見たときと同じようなニューヨークの街を見下ろした映像がエレベーターの3面に流されました。そのスケールがとても大きいと思いました。そしてCitibankにいきました。そこでまた話を伺いました。そこで分かったことは、日本とアメリカの上司と部

下の関係についてです。日本では敬語や敬称が一般には必要で、親しいということはそれほどないですが、アメリカでは英語に敬語や敬称が少ないために、上司に意見するなど積極的なのだそうです。日本人にもそういった積極性があればどんどん意見が交わされていくことになるので今後の日本の発展によりつながっていくのではないかと思います。あとの方々はずべて外国人の方で、聞こうという努力はしましたが、もし「どんな話を聞いたの?」と聞かれても「ああ、債権とか株式についてだよ」などしか答えられないくらい理解できず、とても悔しい結果に終わりました。これはトラブルといってしまうでしょう。ペアの小幡君はどんな話をしていくかくらいは理解できたそうなので、尚更です。五日目にPinebridge Investmentsにいきましたが、これもほとんど聞き取れず、英語力はそんなに急上昇するものでもないなど実感しました。帰って夕食はエビづくし。一月分くらいエビを食べたのではないかと思います。

五日目は、先ほど言った通り、Pinebridge



夕食です。しかしまだ体調が悪かったので、まさに和洋折衷という言葉が似合うその寿司をあまり食べることができませんでした。でもおいしかったです。

次の日はまた体調が良くなったはずなのですが、ホテルから空港に行くときにタクシーを使ったのでまた酔ってしまったのです。飛行機内でもぐったりとして、飛行機内で出されたオレンジジュースさえも飲めない状態でした。ボストンについてもぐったりしてました(三回目)。ここで酔い止めを飲みました。実は酔いやすいのにここが人生初酔い止めで、酔い止めをそれほど信じていなかったのですが、効くではありませんか。自分には食わず嫌いなところがあるのですが、それがまた一つ治ったと思いました。

本題に戻ります。最初の企業訪問で、ボストンのJohn Hancock Life Insurance社に行きました。主に社内見学をしましたが、とても広く開けた感じのオフィスだと思いました。しか

し、とても緊張してしまい、全く英語を聞きとることができませんでした。その後、水陸両用バス(ダックツアー)に乗りました。そのガイドさんの英語はとてもはやく他の現地の方はそのガイドさんのジョークに笑っているのに英語が分からないから笑えないという状況になってしまいました。ただ陸上・水上から見るボストンの街はとてもきれいで、有名な大学なども見ることができました。ボストンの空港に戻り、ボストンのものが特に知られているというクラムチャウダーを食べました。具がたくさん入っていて少し熱かったのですがとてもおいしかったです。

天候によりボストンの空港からの出発が遅れてしまった後、無事に帰って夕食を買いにピザ屋に行きました。ピザは六分の一×二枚を買ったのですが、その六分の一ピースは人の顔ぐらいあり、これがアメリカサイズなのかと再度認識しました。事実、最後のほうはまあまあ辛かったです。

三日目にはRussell Investments社に行

きました。時間の関係上あまりいることはできませんでしたが、初めて「日本についてどんな印象・考えを持っていますか?」という質問をすることができました。相手の方に自分の英語が通じたようなので、それはとても嬉しかったです。また、私は読むのに1カ月以上はかかりそうな洋書もいただきました。この後、メリーゴラウンドに乗っている小幡君の動画を撮り、New York Public Libraryに行き、アメリカ自然史博物館に行きました。ここで印象に残ったのはコンドルなどの剥製です。もともと私は鳥類が好きなのですが、世界中の鳥を見ることができて色々な発見をすることができました。ここで鷲、亀、臭のぬいぐるみを買いました。そしてTiger Pacific Capital LPに行き、武神さん、金さんという方々の話を伺いました。これまで英語が分からなかったのに、日本語で話を聞くことができて良かったです。今(正確な数字は忘れてしまったのですが例えば)ここに十万円あったら何に使うという質問を私た

Investmentsで数人の方から話をさせていただきました。昼食は、メキシコ料理CHIPOTLEで野菜(葉やトマトなど)、少し辛い豆、米、サイコロ状のステーキを合わせたものを食べました。見た目反してこれはおいしいです。お勧めです。バランスもよさそうです。その後、日本国総領事館に行きました。そこで園田さんという方から、ニューヨークから見た米国経済・金融について話を伺いました。米大統領選挙でランプ氏・サンダース氏が支持を集めている背景から、アメリカ国内の経済格差が是正されていないことに対する不平不満が高まっているそうです。2007年にリーマンショックで金融危機がありましたが、それは表面上は終わったようで実はまだ続いているとおっしゃっていました。その後、Bloomberg社へ社内見学に行きました。ここで驚いたことは、ずれているような気もしますが、社内にある果物や菓子類、飲料などが全て無料だということです。日本ではブラック企業が流行語になるほど話題

になっていますが、仕事にはこのような環境というものも必要なのだと思います。そして、最後として大学のバスケットボール大会(NIT)の決勝戦を見に行きました。ジョージ・ワシントン大学というところに渡邊選手という日本人がいて、その活躍を生で見ることができて良かったです。その後ニューヨーク最後の夕食としてFIVE GUYSというハンバーガーショップに行きました。個人的にこれが一番おいしかったです。ハンバーガーレギュラーサイズ一つで約1000キロカロリーなのですが、ボリュームが凄かったです。

帰りのホテルから空港までは酔わずに済みました。これは本当に良かったです。出国・入国は少しもたつきましたが大きなトラブルなく良かったです。

ここまで時系列順にだらだらと書いてしまいましたが、ニューヨーク研修旅行ではもう二度とないような経験をすることができたので、これをどのように将来につなげていくかを考えてみ

たいと思います。

ほぼペアの小幡君の力で優勝したエコノミクス甲子園全国大会。大変でしたが、本当に貴重な経験をする事ができました。初日、二日目と大きな迷惑をかけてしまい、これを送るのでも遅れてしまったりしてとても大きな迷惑をかけてしまいました。付き添いとして来られた鈴木さん、水谷さん、大学生ボランティアスタッフの北島さん、浜田さん、松原さん、訪問を承諾してくださった企業や機関の方々、エコノミクス甲子園に携わったの方々、本当にありがとうございました。

ニューヨークでこれまでに会った日本人の方に聞いてみてもほとんどの方が英語に苦労したとおっしゃっていました。しかし、努力すれば英語はできると思うので、私も英語を重視できるようにしていきたいです。また、来年もし優勝するつもりの方は、英語も鍛えた方がよいのではないのでしょうか。



新潟県立新潟高等学校  
小幡 尚輝

深夜二時に目を覚まし、着替え荷物を確認したところ家に迎えのバスが来ました。真っ暗な高速道路の景色をぼうっと眺め揺られること四時間半、成田に到着。久しぶりに来た空港や初体験のラウンジに気持ちが高揚し、眠気も吹き飛びました。JFKまでの十二時間フライトで一睡もしなかったほどです。そして、これから始まろうとするアメリカでの六日間はもっとも刺激的でした。

一日目。着くと、NYは昼前でした。JFKからタクシーに乗り、ホテルに向かいます。流れゆく石造りの建物を眺めながら、あちらこちらに散乱しているゴミが気になり、いきなり日本の清潔さを感じました。マンハッタンに入ると、様々な人種の人であふれかえっています。外見が違っていても普通に接している姿に、アメ

リカの歴史が映し出されています。因みに仮装している人がたくさんいるのはイースターだからということでした。マリオット・マーキースに荷物を置いて、メトロポリタン美術館を見学しに行きます。古今東西の遺産があり、半日で見るとは多すぎますが、ギリシア、ローマの作品は特に見る人を引きつける力がありました。他にも教科書で見たことのあるようなものもあり、十分楽しめました。その夜は、アメリカらしい寿司を食べ、次の日に備えました。

二日目。研修初日は、早起きをしてラガーディア空港からボストンへ飛びました。最初に訪ねたのはJohn Hancock Life Insuranceです。フロントで待っていると担当の方がいらっしゃり、英語のコミュニケーションが始まりました。いきなり流暢な英語で挨拶され、たどたどしい返事しかできませんでした。その後、社内を案内してもらいましたが、スピードについていけず、半分すら理解できませんでした。展示物を見て時代に合わせて進化してきた歴史を

理解したり、ボストンマラソンのスポンサーであることを知ったりすることで精一杯で、アメリカ英語の洗礼を受けました。

続いてのダックツアーも運転手の方がものすごい早口で、他のお客さんが笑っていても笑えませんでした。ただ、水陸両用バスは初めての体験でしたし、わからないなりに英単語を拾い集め、これがハーバードなのだとわかったり、ボストンは落ち着いて住みやすいのだと考えたりしていました。本場の英語に疲れましたが、鈴木さん、水谷さんお薦めのクラムチャウダーをボストン空港で食べて元気が出ました。天候のせいでニューヨークへの飛行機がひどく遅れましたが、他の日は晴れてよかったです。

三日目。この日の朝は余裕があったので、ホテル近くの店でフレンチトーストを食べました。量が少ないと思って頼んだのにやはりアメリカサイズでした。

少しゆっくりした後、Russell Investments

の役割となっているところもあるそうです。その後フロアに連れていってもらったあのテレビで見る世界が広がっていました。たくさんの電光掲示板、鳴りやまぬ電子音、せわしなく行き交う人々、すべてに感動しました。9:30のオープニングベルをフロアで一緒に拍手した時には、エコ甲優勝して良かったと思いました。続いてNYSEの歴史の展示ブースに進んで証券取引の機械にまでエンジンが関わっていたのかと驚いたり、安倍首相が演説した壇上で演説ポーズをとったりしました。

Museum of American Financeを見学してから向かったのはワンワールドトレードセンターです。厳重な手荷物検査を終え、102階の展望台から見た雲一つない青空とニューヨークの美しい景色は今でも目に焼き付いています。

続いて訪問したのはCitiです。中山さんの案内で、日本人女性の川村さんから仕事内容の説明や質問に答えていただきました。印象

に残っているのは、日本とアメリカにおける年齢と地位の考え方の違いです。日本では今なお年功序列が色濃く残っています。これは秩序が保たれやすい利点もありますが、上司であってもファーストネームで呼び合うのが一般的なアメリカと比べるとデメリットの方が大きいと思います。会社を発展させるためには、より良い人間関係で自分の意見を素直に伝えられる環境の方が様々な考えが生まれやすく有利ですから。その後部屋を移動し、昼食をいただきながら、七人の女性の方からお話を聞きました。ここでも自分の英語学習の不足を痛感しました。特に仕事の詳しい内容は苦しかったです。自分が聞き取った範囲では、債券や株を扱うものからサステナビリティを評価するものまで、金融・経済の仕事といっても色々あるのだとわかりました。またそれぞれの方のバックグラウンドを聞いていると、様々なことを経験してそこから学んだことを活かして今の仕事についての方もいて、学生の中から多くのことに

挑戦したいと思います。話はそれますが、この時にエコ甲についての説明を英語でさせていただき伝わったと思うので良い経験ができました。

ずっと英語で大変でしたが、この後ハイラインへ行き、夕方の街並みや自然に癒されました。あと、夜はBubba Gump Shrimpでたらふくエビを食べました。

五日目。研修最終日です。デリでハンバーガーを食べてからPineBridge Investmentsを伺い、四人の方にお会いしました。熱心に債券についての説明をいただきましたが、英語の力が足りず、ほとんどわかりませんでした。日本語であつたらもっと理解できたであろうと思うと、悔しいです。学生時代に世界を見てくることの大切さや、数学が統計、論理思考の点で仕事に生かされていることがわかりました。

その後MOF NY officeを訪れ、園田さんから米国経済についてお話しいただきました。米国大統領選挙は誰が当選するかだけに目



を訪ねました。社内を見学すると、John Hancock Life Insuranceもそうでしたが、開放的な社内、色とりどりのインテリアで、日本の堅苦しいデスクのイメージとは正反対で働きやすそうでした。実際、ニューヨークで働くのは楽しいとおっしゃっていて、働きたいと思える環境でした。ただ実を言うと、「ニューヨークで働いてみてどうですか?」というべきであることを「ニューヨークで働いてみたらどうですか?」と英語で質問していたことに終わってから自分で気づきました。大変失礼なことを申し上げてしまいましたが、意をくんでくださりありがとうございました。

その後は近くの公園で回転木馬に乗ったり、ニューヨーク公立図書館でお土産を買ったりしてからアメリカ自然史博物館に行きました。解説文がわからないものもありましたが、巨大な隕石や恐竜の展示には圧倒されました。

夕方になり、TIGER PACIFIC CAPITAL

L.P.の訪問で、ここでは日本語で会話することができ助かりました。長年ニューヨークで生活をなさっている武神さんと東アジアにアイデンティティをもつ金さんとのお話の中で、自分がどれだけ日本式の考え方にはまっていたかに気付かされました。日本では集団意識が強く、飛び出しているものは悪いものとして扱われます。この日本人の意識はしばしば日本国内でも非難されることがありますが、日本の歴史の中でじっくりと培われてきたものなので、変えることは相当難しいと思います。つまり、個人レベルで、自分の意見をはっきり伝えるのがグローバルスタンダードであることを自覚していないと世界で戦えないのです。また、アメリカは日本よりも努力する人が報われる仕組みになっており、このままでは日本のトップ層が海外へ流れてしまうかもしれないことを考えていました。しかし、その仕組み故に日本よりアメリカは上位と下位の分布が広いことを聞

いて、デメリットも大きいと思いました。このことはニューヨークに来てからすでに感じていました。日本ではまず朝食を見かけませんが、アメリカでは地下鉄の駅で何度か目にしました。さらに想像よりも多くの人がお金を渡していたことから、そのようなやり取りがなければ成り立たない貧富の差の現実を目の当たりにしました。日本も格差は確実に広がっているのだから、NYへ連れていってもらった者として、これからさらなる努力とその成果を社会へ還元したいと強く思っています。

夕ご飯は、The Capital Grillというお店で武神さんと金さんとステーキをいただきました。楽しいお話と初めて見る厚さのステーキに大満足でした。

四日目。まず行ったのは、誰もが一度はテレビで見たことのあるNYSE。MarkさんとCitiの中山さんに案内された部屋でお話を聞きました。コンピュータの発展により、人が活気象

がいいますが、大統領候補の勢力図から国民の不満が浮き彫りになりました。ここにもやはり貧富の格差があるのです。また、金融危機がまだ終わっていない見方ができることに驚いたり、経済を多面的にとらえることを学んだりしました。

最後の訪問はBloomberg。外から見て面白い形の建物だなと思いましたが、中はさらに衝撃的でした。まず、社内はきれいで、できるだけ障害がない造りになっています。仕切りが少なくなっていたり、U字型の建物で同じ階が広く見渡せるようになっていたりして、通信社としての開放性・透明性が表されていました。次に階を上ると、ドリンクや果物、お菓子がたくさん置いてありました。これらはスポンサーからの提供で、社員の方は無料で利用しているとのこと。働いていて気持ちいい環境づくりによって勤めている人もやる気がでるのわかります。本当に美術館みたいでした。

NY最後の夜は、大学バスケの決勝戦を見に行きました。バスケに興味があるわけではないのですが、Citiの中山さんから日本人が出場することを聞いていたからです。両大学の応援団や謎のダンスタイムなども盛り上がりしました。日本人のYuta Watanabeさんはスタメンとして出場し、得点を決めた時は日本人として嬉しかったです。結果、Yutaさんの大学が優勝し、楽しく会場を後にしました。

六日目。朝六時にチェックアウトし、あとは帰るだけでした。JFKまでのタクシーでアメリカの風景の見納めをして飛行機に乗り、機内で爆睡しました。

本当に夢のようでした。見るものすべてが真新しく、すべてが充実していました。ただ唯一の悔やまれることは自分の英語が使えるレベルになっていなかったことです。日本の英語のぬるま湯にどっぷり浸かっていたせいで、英語は辛い体験をしました。ですがこの研修

旅行中に世界経済の第一線で活躍される日本人の方と出会い、そのような方でも英語で苦労なさっていたことを知りました。いただいたアドバイスをもとに何となく身につけます。また、大学で経済を学ばないにせよ、どんな分野にも金融経済はかかっています。エコ甲、NY研修で学んだことを毎日大きくさせ、実際に活用していきたいです。

そして何より、鈴木さん、スタッフの御三方、平山くん、大変お世話になりました。ありがとうございました。このメンバーでとても楽しかったです。

これからの時代、必要とされるのは英語力と金融知力なのだなと思っていると、夕焼けに染まる新潟に着きました。



大阪大学  
松原 尚生

「NYに行きたい。」  
高校生のときからずっと思っていたことだ。大学に進学してからもそのことを考えていたというのは、もはや願望ではなく未練によるものである。  
私は高校生だった時にエコノミクス甲子園に出場した。全国大会も準決勝まで進出している。それも二度。しかし、優勝にはたどり着かず、ニューヨーク研修旅行には行けなかった。何となく行ってみたいかった。その何となくを引きずることになる。  
大学に進学してからは、エコノミクス甲子園のボランティアスタッフの一員として活動している。その中で、ニューヨーク行きを勝ち取る高校生の姿も見てきた。そのたびにニューヨークに行きたかったという思いがよみがえる。

何か特別な思い入れがあるわけでもない。しかし私は執着していた。  
そんな中、今回、添乗員として渡航する機会を得た。ずっと思いを馳せていた地に行けるのだ。喜びもひとしおである。  
しかし、先立つのはある懸念。日程でも費用でもない。英語である。中学生の頃から英語を勉強してきたとはいえ、所詮は座学。その上、私が一位二位を争うくらいに苦手な科目である。それを駆使して話をするなど、ますます無理な話である。しかし、苦手とはいえ、この英語力がどれほどのものが確かめるにはちょうど良い機会であった。大学の講義でも英語の履修が終わるこの機会に、その集大成としてこの研修旅行を利用しようと思い直した。  
さて、いよいよ渡航の日。私の旅の始まりは大阪空港からである。そもそも飛行機に乗ったことなど片手で数えるほどしかないのに、今回は成田で国際線乗継という難関が付随していた今回。まず、搭乗手続きの仕方が分から

ない。空港の方に手取り足取り案内していたらよやく搭乗までこぎつけた。不安が募る。成田に到着し、新潟高校の二人と合流。今回の主役は彼らであり、私はあくまでも添乗員。そう自分に言い聞かせながら必死で興奮を抑える。いよいよニューヨークへ旅立つのだ。興奮が収まるはずもない。出発時に抱えていた不安などどこかに行ってしまった。  
13時間のフライトを終え、ジョン・F・ケネディ空港に降り立った。空港からはタクシーでニューヨーク市内へ向かったが、道中で見えるものすべてが新鮮に映った。海外らしい海外は人生で初めてだからだ。  
渡航したこの日は地下鉄に乗ってメトロポリタン美術館へ。実は、この日の私の感動ポイントはメトロポリタン博物館にあるわけではない。地下鉄にある。ニューヨークの地下鉄では日本のメーカーである、川崎重工の車両が走っているという。かなり前からその事実を知っており、一目でいいから見てみたいと思っていた

タが様々な色に発光し、その周りを人々があわただしく行きかう光景に、興奮を超えた感動を覚えた。9時半の取引開始の瞬間にも立ち会い、忘れられないものとなった。午後からはCitiを訪問。Citiといえば世界最大規模の金融機関。父が金融機関勤務ということもあり、その名は幼いころから知っていた。そのオフィスに足を踏み入れる。無数に並ぶコンピュータの前で人々が仕事をしている様子は圧巻であった。しかし慌ただしいという印象は一切受けず、むしろ優雅さを感じたほどであった。どの人も楽しそうに仕事をしているように見えた。その後、8名の女性社員の方々と話を交えた。1人目の方を除き、全員英語の話者だ。しかし、あのCitiの方と話ができるのだ。この日の私はかなり気合が入っていた。ここで悔しい思いをしたくはなかった。そう思いながら話を聞いていると、前日までとは打って変わって、驚くほどに話の内容が分かる。どの方との話が印象に残ったかと聞かれれば、甲乙つけがたいが、こ

れを語らずにはられない。7人目の方は、エコノミクス甲子園ともなじみの深い方。その方は教育を大切にしている方だった。金融知力の育成をはかるエコノミクス甲子園にも興味を持ってくださっている。エコノミクス甲子園の学生ボランティアをしている身としては、ぜひその良さをわかってもらいたい。その思いから少し話をさせてもらった。エコノミクス甲子園の意義は、金融知力の普及にあるが、私は全国のさまざまな背景を持った他の高校生と交流できる点も非常に大事であるという思いを伝えた。それは伝わった。他人とコミュニケーションをとることは非常に重要であると、賛同してくださった。素直にうれしかった。英語が伝わったからというよりも、思いが伝わったからである。ニューヨークに来たのはこのためだったのかもしれないとさえ思った。この経験のおかげで、満足感で満たされた一日となった。  
5日目。いよいよ最終日である。午前はPINEBRIDGE INVESTMENTS。今日も今

日とて英語による対話であるが、ここでは専門用語が過ぎからつぎへと出てきたのもあり、理解するのに非常に苦労した。昼食をとり、日本国総領事館。園田さんが迎えてくださる。金融危機の禍根が昨今話題のアメリカ大統領選にまで影響を与えているという興味深い話を伺った。経済の影響力はやはり絶大なものであるということ再認識させられた。今回の研修旅行の最後を飾るのは、Bloomberg、金融経済の通信社である。最初に案内されたフロアにはなんと鯉が泳いでいるではないか。一つ下のフロアに移動するが、これもただのエスカレーターではない。なんと曲線構造になっている。世界でも数えるほどしかないこの曲線構造のエスカレーターがオフィスの一角にあるのだ。娯楽施設と錯覚するオフィスのつくりの数々に度肝を抜かれた。案内してくださったのは若い男性社員の方であったが、彼が放った、営業職は会社の顔である、という言葉に妙に感心した。言っていることは至極当然のこと



ので、実物が見られただけで満足である。  
2日目。いざ本格的にNYを闊歩せんとするも、この日はボストンへ飛ぶ。エコノミクス甲子園のスポンサーをして下さっているマニライフ生命のグループ会社であるJohn Hancock社のオフィス訪問があるからだ。あいにくの雨ではあったが、ニューヨークとは異なる雲間気のボストン市に期待は高まる。John Hancockはボストン市臨海部の再開発地区の一角にオフィスビルを構えていた。ガラス張りのきれいな建物である。オフィス内の各個人のデスクはブロックになっている。プライバシーが確保されているオフィスに珍しさを覚えた。さて、案内は全て英語で受けたが、意外にも6割ほどは理解できた。6割しかといえどそうかもしれないが、自分の英語の能力も捨てたものではないと思った。ところが、聞くと話すは別物。質問をしようと思ってもうまく言葉が出てこないのである。自分が聞きたいことを

まともに聞けず、悔しい思いをした。  
3日目。午前中はRussell investmentsを訪問。開放的なオフィスが印象的であった。ここでも説明はすべて英語。やはり聞き取るのは6割できるが、話ができない。悔しさは増すばかりである。昼頃からは自然史博物館へ。映画の撮影も行われた有名な博物館である。数々の名作を製目を奪われる。夕方からはTIGER PACIFIC CAPITALへ。武神さん、金さんとの対話の機会を得た。この対話で、ある興味深い話を聞いた。武神さん曰く、日本は頑張りやない人には優しい国だが、頑張り人には優しい国である。それに対して、アメリカでは頑張り人は評価されるし、結果もついてくるという。私自身はまだ働いているわけではないので、ピンと来なかったが、表面的にこのことを聞いただけでも、日本の矛盾点に気が付く。その時私はふと疑問に思った。武神さん自身はアメリカで働き、頑張りやを評価されている

かもしれないが、日本ではそうではないということ、日本には戻りたくはないのか。質問を投げかけると、このような答えが返ってきた。日本のために何かをしたい、日本に戻って働くことも歓迎できる。しかし、もっと頑張る人に優しい国になってほしい。さもないと優秀な人材がどんどん日本からいなくなってしまう、と。日本の後進性を理解した気がした。数年後、社会に出て働く身になるものとしては考えさせられる話だった。  
4日目。この日が私にとってNY研修旅行の一番の見どころである。朝早くにホテルを出発し、地下鉄に乗って向かうのは、世界経済の中心地として象徴的なNYSE、ニューヨーク証券取引所である。案内してくださったのはNYSEに勤めるMarcさんとCitiに勤める中山さんである。9時20分ごろ、実際に取引が行われているゾーンに立ち入る。テレビでよく見るあの場所である。あちこちに並ぶコンピュー

あるが、それを分かっている人はどれほどいるものか。当然のことではあるが重要なことに気づかされたように思った。  
以上、ニューヨーク滞在中にあっては様々な貴重な経験をすることができた。無論、自分の英語力のなさに悔しい思いをした場面もあったが、それ以上に充実感があつた。  
私は、今までなんとなく進路を定めていたつもりであったが、それを考え直すきっかけとなった。同時に、金融の分野や、海外に出て働くということに対して魅力を感じるようになった。今はまだ、進路をはっきりと定めることはできないが、この機会が進路選択の一助となることは間違いない。そう考えると同時に、自分には知らないこと、知らない世界がまだまだあるということも痛感した。今後より一層勉学に励まなくてはならない。  
このような素晴らしい機会を与えてくださったすべての方に感謝し、今回の研修の記録としたい。





北海道大会代表 北海道札幌南高等学校 二年  
寺内 一記

今回で、エコノミクス甲子園全国大会は2回目の参加となった。三年生になるとやはり出場は厳しいので、最後だと思い全力で準備をしてきた。おそらく、これまでの人生において一つのことに最も力を注いだ一ヶ月間だった。

しかし、初日のプレゼンクイズではやはり他校の発想力のすごさを思い知らされた。他のグループの発表を聞いてとても勉強になったし、こういった経験は将来的にも必ず役立つと思った。前夜祭ではビンゴを通じて多くの人と話をすることができ、貴重な経験となった。

そして大会当日。はや押しではいつも通りバカな押しをしてみたが、なんと1問とることができた。ところが3択のクイズでもほぼ最下位という結果で、予選通過は難しいと思った。予想通りぎりぎり予選通過とはならなかったが、落ち込んで入れないと考え敗者復活を待った。敗者復活では順位から考えて不利な状況だったので、自分達の分かる問題が出題されることをひたすら願っていた。ここではほとんどの問題が分かり、昨年に引き続き敗者復活を勝ち抜くことができた。準決勝は1問1答形式の問題。4チーム勝ち抜けだったのでいけるのではないかと考えていた。しかし敗者復活とは違ってかわって分からない問題が多かった。なんとか粘ったが、最後は予選点の差により敗退となった。敗退が決まったときは信じられなかった。司会者の方にマイクを向けられたが、何も答えることができなかった。優勝を目指していた自分にとって、決勝にさえ残れず敗退したことは悔しすぎた。昨年よりもずっと努力したが、昨年の成績に負ける結果となった。

ただ、その努力は無駄では無いと思う。中途半端な努力は無駄だと思うが、このように一つのことに一生懸命になるという経験はそうそうできるものではない。エコノミクス甲子園が終わってから、やることなく自分が空っぽになったような感じがした。でも、次はまた違ったことに全力で取り組みたい。今回の経験が無駄にならぬために。

僕の挑戦はこれで終わりです。みなさんありがとうございました。

北海道大会代表 北海道札幌南高等学校 二年  
中駄 勇太

昨年に続いて、2年連続で出場させていただきました。成長を実感できたこともあり、まだまだだなと感じたこともありましたが、昨年は準優勝でありましたから、今年は優勝を、と気合が入っておりましたが、あと一歩及ばず。「勝負は運であるから、勝敗はこだわらべき対象ではない。結果までのプロセスに全力であることこそが重要である」という自分の理念を再確認するに至りました。そう考える方が本番緊張しなくてすむので、得だと考えているのですよ。

自分は経済金融分野を志望してはませんが、このように金融知力について学ぶ機会が得られ、よかったと考えています。現代社会に生きる以上、「金」についての知識を持つことは、重要なことであるからです。なかなかとっつきにくいこの分野も、クイズに正解する、得点する、という目標を持つことで、スムーズに、飽きることなく学習することができたと考えます。

金融知力普及協会のみならず、大学生スタッフのみならずはじめ、エコノミクス甲子園の企画、運営、後援をしてくださった方々には、御礼を申し上げます。

来年は自分は大学受験があり、余裕のある戦況ではないので、出場することは残念ながらおそくできないのですが、この企画がさらに発展すること、より多くの学生が、経済分野を志望するしないにかかわらず、エコノミクス甲子園に参加し、今を生きるために必要な金融知力について学ばれることを願っています。



青森大会代表 青森県立青森高等学校 一年  
今寺 琢朗

今回、エコノミクス甲子園に参加して、金融経済の知識を深めるだけでなく、クイズに対するレベルを高めたり、全国の人たちと知り合うことができて、非常に有意義な時間だったと思います。

それまで私は、ニュースを見て経済や金融について、なんとなくこのようなことがあるのだなと知っていることがありましたが、あまり深く知りませんでした。

しかし、今回のエコノミクス甲子園で、経済・金融についての知識をつけたことで、より深く理解できるようになったと思います。また、保険や金融商品など、これからの生活において役立つ知識も手に入れることができました。ただ、少し知識不足な所もありました。

来年も全国大会出場、より上位へ入るためにさらに勉強し、知識を増やしていきたいと思っています。

次に、今回が初めての全国規模のクイズ大会への参加でした。そのため、全国大会のレベルの高さを知ることができ、さらに知識をつけようという意識が強くなりました。

まだ高校1年なので、これからまだ沢山の大会があります。

そこでさらなる活躍のため、精進していきたいと思いました。

また、前夜祭等で全国の高校生や銀行員などとのふれあいはとても楽しい時間でした。各都道府県の情報を交換したり、プレゼンテーションにおいては、協力して、優勝を勝ち取ることができました。

今回、知り合った人たちとのつながりは大切にしていきたいと思っています。

最後に、今回、運営して下さった皆さんや各銀行の皆さん、ありがとうございました。また、今回、競い合った各都道府県の代表の皆さんもありがとうございました。

青森大会代表 青森県立青森高等学校 一年  
豊島 凜太郎

私は高校一年生である。クイズ研究会に所属し、先輩も多数いる。先輩は知識豊富で、クイズではとても敵わない、はずだったのだが、神のいたずらかはたまたま本当に実力か、エコノミクス甲子園初挑戦にて地方大会優勝、全国大会への切符を手に入れた。その時の感想といえば、ただただ驚きがあるだけであった。

人生初の飛行機を降り、向かった先はまるで林間学校の様な場所だっ



た。想像以上に詰め込まれた予定、共同の風呂等々、私の事前調査不足は否めないが、それにしても林間学校だった。全国大会一番の感想はこれかもしれない。

私が今回得た最大の収穫、それは金融知力、ではなく全国津々浦々の仲間であると思う。相部屋の二人、JALラウンドにて同じチームだった六人には特に親しくなった。殆どが自分より年上で、最後まで敬語が抜けなかったが、私は敬語で話す事が多いのでその辺りは許して欲しい。JALラウンドといえば、私の所属したチームが一番になる事が出来た。正直あまり活躍できた気がしないのだが、何はともあれ嬉しかった。

さて、そろそろクイズについて触れよう。端的に言うと、自分の知識の乏しさをひしひしと感じた。後半にいくにつれ自分の理解の範疇を超えた問題が増え、情けなく思った。来年また全国大会へと進むつもりである私は、今回以上に勉強して来年に望むことを決意したのであった。

最後に、エコノミクス甲子園に携わった全ての人に、改めて謝辞を。



宮城大会代表 宮城県仙台二華高等学校 一年  
岩井 悠真

エコノミクス甲子園への出場を決めたきっかけは、学校で配られた1枚のチラシだった。

政経に興味のある私は、参加無料だったこともありその場の思いつきで参加を決めた。

まず迎えた地方大会には、わずかな事前学習のみで臨んだ。しかし、気付けば、決勝ラウンドを1抜けしていた。ペアの先輩とともに、驚くほどの優勝であった。

そんな驚きの地方大会優勝をうけて迎えた全国大会。しかし、地方大会同様、取り組んだ事前学習は微々たるものでしかなかった。

全国大会2日目。突然始まった筆記クイズでは、早速、勉強不足が露呈してしまった。地方大会とは異なり、記述問題の多かったこともあり、空欄が目立つ答案となってしまった。

その後行われた、日本航空の今北さんによる講演会は、航空業界に興味のあった私にとって、大変興味深いものであり、印象的な講演であった。その講演をうけて行われた、プレゼンクイズでは、グループのメンバーの方々に大いに助けられ、見事、全体3位の評価をいただいた。

2日目最後のイベントとなった記念パーティーでは、マニユライフ生命CEOのギャビン様、日本航空取締役専務の大川様をはじめとした、普段ならお会いすることすらできないような方々とお話をすることができ、大変貴重な時間を過ごすことができた。

そして、イノホールへ会場を移して行われた3日目のラウンド。第1ラウンドの早押しクイズでは、なんとか1問答えることができ、順調な滑り出しとなった。第2ラウンドでは、プレゼン作成のなかで培われたチームワークで見事1抜けし、大量ポイント獲得ができた。

第3ラウンドでは、席決めのくじ引きの運もあり、見事勝ち抜け。しかし、第4ラウンドは、勉強不足が大きく影響し、苦戦。最下位で、決勝ラウンド進出を逃した。

しかし、勉強不足だったなかで、8位まで到達できたことは大変うれし

かった。この成績を残せたのは、地方大会、全国大会を通じて、運が良かったこと、この一言につきると強く感じた。

さて、今回、こんなにも充実した大会になったのは、多くの方々のご協力があつたからなのだと思う。携わったすべての方々から感謝している。

宮城大会代表 宮城県仙台二華高等学校 二年  
東海林 幸史

今回第10回という記念すべき大会に宮城大会の代表の一員として参加でき、とても誇りに思っています。宮城大会でも多くの優秀なチームのみなさんと対戦し、そこで運良く全国大会への切符をつかみ今回の全国大会への参加となりました。私はクイズ研究部でもなく、またエコ甲以外のクイズ大会への参加経験もなく不安でした。

1日目は移動がほとんどであったため2日目からメインの行事がはじまりました。2日目は筆記クイズからはじまりました。正直全く想定していなかったので驚きました。宮城大会よりも格段に問題のレベルが上がっており、レベルの高さを改めて実感しました。その後日本航空の社員の方による講演会があり、運輸関係の進路を希望している私にとって全てが今後の自分の将来にとって役立つものだと感じました。また講演会を生かしたプレゼンクイズも行われプレゼンを作成しました。私の班は決勝ラウンドに勝ち上がったのでうれしかったです。またそこで生まれた絆が3日目のラウンドでも生かされたのでいい思い出となりました。さらに夜には前夜祭があり、他県の高校生はもちろん銀行員さんや来賓としていらっしゃっていた方々とお話する機会もあり貴重な経験となりました。

そしていよいよ3日目を迎え全国大会当日を迎えました。情報がなく展開が読めない状況がほとんどだったので不安でしたが、多くの仲間の支えによって私たちは準決勝まで駒を進めることができました。特に1人で行ったものに関してはかなりプレッシャーを感じましたが楽しむことができました。

今回のエコ甲への参加は自分自身にとってとても大きな成果だったと思います。そしてOBやOGが多くスタッフとなっていたのが印象的でした。これからはスタッフ1人1人が自分の経験を生かし、より参加者に寄り添った運営をしていくことでさらにパワーアップしたエコ甲になることを願ってやみません。



秋田県大会代表 秋田県立秋田高等学校 二年  
伊藤 悠斗

私は以前から経済学に興味があり、一年生の時にエコノミクス甲子園に参加した。地方大会ではあまり勉強もせずに臨み、決勝に進出するも決勝の問題はほとんど解答できずに終わった。その時に自分は金融経済の知識というよりも常識が欠けているなと思いこのままではまずいと感じた。二年生ではしっかりと勉強して同じペアで満を持して出場、予選を一位通過し決勝でも見事勝利し全国大会への切符を手に入れることができた。

そして東京に行く日を迎え一日目は全国でつくのが一番遅くなり(10時)申し訳ないスタートを切った。二日目は筆記で失敗し秋田に帰たく





## 全国大会感想 Final tournament report



なったがその後のJALラウンドは初対面の人とも協力し頭をフル回転させ非常に思い出深い体験となった。結果は同率で三位で独創性で負け四位(あるスタッフ談)でステージ発表を逃すという非常に悔しいものだったが充実感があつた。三日目はオープニングベルクイズの第1問と2問を秋田が連続正解するという奇跡が起きるなど楽しめた。今回一つだけ改善してほしいと思ったのは第三ラウンドのクイズで予選でかなり上位だったチームが敗退して流石に可哀想だったことだ。また結果は21位と悔しいものになったが自分も全国大会でも十分に通用するという自信に繋がった。

全国大会に出ている人の90%はクイズ研究会であり自分とは出ている理由が違う人が多かった。皆、学年も参加理由も学校も異なり超有名進学校、地方の県立高校、専門系の高校定時制高校と色々な人がいた。しかし1人1人は全く違う人でも同じ高校が優勝を目指し頑張っていること、また交流を通して普段の生活での皆の頑張りが伝わってきて高校生は素晴らしいと感じたし、有名大学に進学することが全てではないと強く思った。

経済学は文理融合で誰でも取り組みやすくまさに総合知というような素晴らしい学問だと感じた。来賓の方々のスピーチからも経済への熱い思いが伝わってきて経済学はドラマチックだと思った。自分は進路を決め切れておらず、いまいっ今何をすれば良いのか分かってなくボーッとしていたが、自分なりに自分の進んできた進路の意味を見つけたいと思えた。こういう気持ちになれたのは久しぶりで大会中思わず何度か感極まってしまった。できれば来年もでれたらなあーと思ひ、受験のある三年生でも出れるような日程や仕組みを考えて頂きたいと思った。

最後にこんな素晴らしい機会を作ってくれたスタッフの方々と出場者の皆さんに感謝したいと思います。本当にありがとうございました。また二年後は私もスタッフとして活動したいと思います。エコノミクス甲子園がより大きな活動となるように願って感想文を終わりとさせていただきます。

秋田大会代表 秋田県立秋田高等学校 二年

### 岡竹 馨

本当にあつという間の3日間だった。宿舎に22:00ギリギリにつくと、スタッフの方々のため息が聞こえてきた。僕は一番最後に到着してきたようで、スタッフの人達は僕達が着いてようやくひと段落していたら良かった。部屋に着くと、相部屋の滋賀の二人がベッドでゴロゴロしていた。関西弁が強かったのを覚えている。

2日目のプレゼンは、考える過程が本当に充実していて楽しかった。栃木、群馬、福井、秋田。どれもパツとしない県ながらもグループの人はすごい魅力的だった。ずっとこの人達と案を出し合ってもいいかなと思った。もっと独創的なものをと審査員の方が仰っていたが、これでも頑張ったのです。パーティーでは持ち前の人見知りにより日本人には全く喋りかけることが出来なかった…。その代わりに食べた。

3日目。早押しクイズ奇跡の2連続正解もあつたがそんなことはどうでもいい。閉会式での奨学金の発表。名前が呼ばれた時から既に泣いている女の子を見て、お父さんを亡くしても志を高く持つ男の子を見て、障害を持っていても、不登校になったことがあつても全国の舞台上で立っている男の子の姿を見て、価値観が変わった。何も感じず過ごしていた日常の足ることを知った。この人達に恥じないような生き方をしたいと思った。3日間通して本当に充実した大会で、ボランティアでもスタッフの方が支えて下さるその意味が終わってからようやく理解できた気がした。僕も大学入ったらスタッフやります。

関わってくださった方々、大会を支えてくださったスタッフの皆さん、スポンサーの皆さん、パートナーの伊藤くん、ありがとうございました。



山形大会代表 山形県立山形東高等学校 二年

### 松本 創平

今回のエコノミクス甲子園は、私にとって初めて出場したクイズ大会でした。それまでクイズには全く興味がなく、この大会も地方大会の担当者と親交のあつた部活動の顧問の勧めで参加しました。この時はまだ経済学については無知で、とりあえず参加だけしようと思っていましたが、資料を読むにつれ、経済学の奥深さや面白さに興味を持ち、優勝したいと思うようになりました。地方大会を無事に突破した時には相方と共に喜びました。

全国大会は、学ぶことの多い大会でした。まず、これほど参加者同士で気軽に交流できた大会は他にはないと思ひました。特にプレゼンでは、本戦で敵となる人達と半日間アイデアを練り、より良いものを作ろうと努力し、私達のグループは二位になることができました。

次に前夜祭の際に多くの来賓の方や銀行員の方とお話でき、とても勉強になりました。

今まで自分が知らなかったことや前のプレゼンの感想を伺ひ、自分の知識を深めることができました。

最後にこの大会が多くの方々の支えによって運営されていることを知り、普段の自分自身の生活もいつも誰かに支えられて成り立っていることがわかりました。私が全国大会に出場できることができたのも、山形大会を主催された山形銀行の方々と全国大会のスポンサーの方々と、そしてボランティアスタッフのおかげです。これらの方々には、本当に感謝しています。

三日間を通して私はただ知識を得ただけではなく、人間として成長することができたと思ひます。この経験を人生の糧にしていきたいです。

山形大会代表 山形県立山形東高等学校 二年

### 三井 涼平

私は所属しているサッカー部の伝統でエコノミクス甲子園に参加しました。何も考えず、軽い気持ちで臨んだので山形県大会で優勝することができたときは驚きました。

全国大会用のテキストを渡されたとき、その量に驚きました。しかし、勉強をしていく中で経済の面白さが分かるようになり、楽しく勉強を進めることが出来ました。

大会中最も心に残ったことは、2日目のプレゼンテーションです。班にはクイ研や地学部などの精鋭が名を連ねており、理系でサッカー部という異色の私たちは、場違い感を感じずにはいられませんでした。チームの力になれたかは分からない私たちでしたが、仲間と考えを共有し、活発な議論を行い、1つの考えを作っていくことはとても刺激的で嬉しいことでした。筆記試験、本大会では知識不足を痛感しました。しかし各ステージのゲームは、様々な面白いルールのおかげで、楽しむことができました。

いい結果は残せませんでした。楽しみながら金融知力を磨くことができたこと、そして全国の皆さんと親交を深められたことが私の1番の収穫です。

改めて、このエコノミクス甲子園を通して経済に関する知識が私たちのような理系の人も含めて、あらゆる人にとって必要なことだと感じる事ができました。



## 全国大会感想 Final tournament report



来年は参加できないと思いますが、この大会を糧にして、今後も経済の知識を身につけていくことで、豊かな人生を築いていくための人間力をつけていきたいと思ひます。



福島大会代表 福島県立白河高等学校 二年

### 瀧口 晃治

正直に告白すると、私は万全な対策をせずに今大会に出場した。これに関しては応援してください地元の第一地銀・東邦銀行の皆様、相方の郡司には大変申し訳なく思っている。

そもそも、私は日頃から何事に対しても無気力極まりない人間である。私が目を爛々と輝かせることは趣味の「四季報」シリーズの書籍(主に「就職四季報」)を読むこと、某艦船擬人化ブラウザゲームをプレイすること、クラスメイトと猿談に興じることのみだ。2015年末までは新聞の読み比べもしていたが、年を越した途端にパタリと止めてしまった。学校の成績は大変な低空飛行であり、留年するのではと両親は肝を冷やしていた。これが福島代表の内実である。

さて、そんな私は宿舎の同室が灘高の二人であると知り、恐れおののいた。初日の晩、おずおずと私たちが宿舎の部屋へ入ると、すでに二人は自作の対策プリントで問題を出し合っているではないか。私は、自身の想像の斜め上に行く他出場者の気圧に気圧されてしまった。

二日目。朝一番の筆記テスト。日航社員の方による講話、それを受けてのプレゼンクイズ。私は全国との差をまざまざと見せ付けられた。

三日目。一問も答えられなかった早押しクイズ。運に助けられたリレークイズ。予選落ちの発表。あえなく敗退した敗者復活戦。悔しいとは思わなかった。

奨学金の受賞が決定した宮崎・宮崎第一の大坪さん、岡山・精思の寺岡君、長崎・精道三川台の寺田君(以上姓の五十音順)の志は私には眩しすぎるものであった。他の出場者の志望校も東大、京大、自治医大...といった調子で、「この人たちが日本を創るのか」と私は思った。是非皆さんにはアクチュアリーやクオンツ、日銀行員、官僚様、政治家「家」を目指していただきたい。

私もこれからは真人間を目指すことをここで宣誓する。随分と卑屈な駄文を並べたが、最後はこの月並みな文句でまさせていただきます。

ありがとう、エコ甲

P.S.前夜祭の中華料理と、最終日の「まい泉 ヒレカツサンド」、愛知・滝の二人がくれた「しるこサンド」の味は偉徳でした。



茨城大会代表 茨城県立土浦第一高等学校 二年

### 谷口 駿也

私がエコノミクス甲子園に参加したのはクイズ研究同好会に所属していたから、というごくごくシンプルなものでした。参加するまで経済というのは学校の政治経済の授業で少し触れた程度であり、経済が大好きだったというわけでもなく、事前教材に煩わしさを覚えていたくらいです。しかしこの大会に向けて少し勉強してみると「経済はなかなか奥が深いな」とか「経済の全体像が少し掴めてきたな」とかいうようなことを思うようになり、楽しくなりました。

そして迎えた全国大会、全国から東京に集った強者達と出会うことになりました。非常に内向的な私は文化の異なる大勢の人達と3日間うまくやっていくことができるのだろうか、と不安な気持ちでいっぱいになりながら東京に向かいました。しかし実際には相部屋になった方々やプレゼンの班の方々を中心にかなり交流を深めることができたかなと思ひます。津々浦々から集まった人達と一度に交流することができる機会なんて人生にそうはないでしょうから非常によい経験になったと思ひます。

そしてクイズについて。一日目の筆記クイズは地方大会に比べて段違いに難しく金融力が足りてないと思ひ知らされました。プレゼンテーションでは限られた時間の中で初対面の人々とアイデアを出して発表する難しさを感じながらも初めての体験で非常に刺激となりました。三日目の大会ではどのラウンドも面白く奥深い形式のクイズを用意していただき大変楽しむことができました。

この大会に出たことは私の人生においてとても良い経験になりました。ありがとうございました。

茨城大会代表 茨城県立土浦第一高等学校 一年

### 安立 史弥

エコノミクス甲子園を時系列に振り返りたいと思ひます。まずは、2日目。朝早くから集められ、エコノミカをやると思ひきや、いきなり大のペーパークイズだった。これだけでも驚きだったが、地方予選とは大違いに難しく、より深い内容を問うものだった。しかし、自分の全力は出せたと思ひます。その後、JALの方のお話を聞いた。企業とはなにか、発展には何をすべきなのか、実際に最前線で働いている人からしか聞くことの出来ない貴重なお話だった。そして、プレゼンのテーマが発表された。JALのM&Aを提案するというもので大変難しそうだと感じた上に、初めてあつた人達と完成させなくてはならぬものだった。しかし、みんなで議論しプレゼンを完成させ、納得のいくものにできた。結果はイマイチではあつたが、上位のプレゼンを聞き、自分たちの足りなかったところや独創性の重要性が分かった。

3日目。早押しクイズから始まった。一問目は緊張のせいか押せなかったが、2問目は落ち着いて答える事が出来た。その後の三択問題では記憶が曖昧なところが出てしまい、上手く行かなかった。班の人達も同じような感じで抜けたのは最後の問題だった。昨日のプレゼンと言い、今日のクイズといい全体としてイマイチではなかったので予選を抜けるのは無理だと思っていたが、なんと予選最下位ではあるが突破することが出来た。しかも、その次のラウンドでは全問正解することが出来た。ペアの谷口先輩



## 全国大会感想 Final tournament report

も含めてだ。チームの正解が鍵となる形式だったので勝利は叶わなかったが、悔いのないクイズをすることが出来た。

この二日間を通して見ると、自分の勉強が甘かったと痛感した。もっと教材を読み込み、深い知力を養うべきだった。しかし、他の都道府県の人と交流が出来たのはとても楽しかった。だからこそ、もっと勉強して来年リベンジしたい。



栃木大会代表 栃木県立宇都宮高等学校 二年  
板橋 佳汰

「経済」という言葉を聞くと、今までの僕は「理系だから関係ない」、「学ぶ必要性が無い」と、自分から「経済」というものを遠ざけて来ました。

僕はクイズ研究同好会の活動の一環として地区大会に出場し、優勝しました。僕はそのとき、クイズには自信が無い訳でもなかったのですが、経済のみを中心に勉強してきた周りのチームに苦戦を強いられました。それは、経済というものがいかに広大で、薄っぺらな知識ではどうにもならないことを示すものでもありました。

いざ全国大会出場となるうえで、渡された数々の教材に目を通していくと、経済を成り立たせている原則や法則、経済の流れを掴もうえどういった指標をどう読み取ればいいのかなど、今まで僕の中で「クイズ」の域を出なかった経済の知識を、「本物の教養」にできる感動がありました。全国大会当日では、他校の優秀な生徒や、マニユライフ生命様をはじめとする協賛企業の関係者様との触れ合いを通して、さらに経済への関心が高まりました。この経験は一生忘れることができません。

全国大会を終えた今思うのは、一国を動かす「経済」の重要性、その「経済」を「学」ぶ必要性です。同級生には経済に興味があるという生徒はほとんどいませんが、これは将来の日本の経済社会を考えると理想ではありません。学生のうちに経済への意識を向けさせることが必要です。その機会を与えてくれたのがこの「エコノミクス甲子園」です。

栃木大会代表 栃木県立宇都宮高等学校 一年  
檜山 奎太郎

2016年、2月末の3日間は、私にとってこれまでに無い貴重な経験となった。

全国大会に出場するチームを決める地区大会では勝利をつかむことができたものの、地区大会優勝の喜びから一転、表彰式で手渡されたテキストの質と量に全国大会のレベルの高さを感じ、全国代表としての責任と緊張を感じた。

長いと思っていた全国大会までの準備期間も過ぎ、いよいよ東京の会場に向かう日となった。会場まで案内して下さったOBの方の「他の代表と顔を合わせれば緊張してくる」という言葉通り、会場に到着した時には全国から集まった精鋭たちや、チーム表に並んだ全国各地の進学校の名前に圧倒される思いだった。ただ、クイズ研究同好会の活動として様々なクイズ大会に参加し、またいくつかの地区の代表の方とお会いした経験があったこともあり、大会本番にはリラックスして参加できた。また、全



国各地のクイズプレーヤーや、進学校の方々と様々な情報を交換できたことは貴重な経験になったと思う。

今回の全国大会に出場してみて、経済界や地方銀行の方々、さらにボランティアの皆さんなど、この大会が多く、そして様々な立場の人による支えで成り立っていることを知り、人々の協力を集めながら運営されているということにエコノミクス甲子園の素晴らしさを感じた。しかし、このような素晴らしい大会にも関わらず、いくつかの県では未だに地区大会が行われていないことに驚く。来年は、全都道府県の代表がそろった真の全国大会でより良く戦えるよう、精進していきたい。



群馬大会代表 群馬県立前橋高等学校 三年  
水出 海斗

自分は高校でクイズ研究会に所属していました。前回のエコノミクス甲子園では県大会の決勝で負けてしまい悔しい思いをしました。自分は推薦により早期に大学に進学することができました。これはエコノミクス甲子園に出るしかないと思いつき出場を決定しました。そして臨んだ今回の大会で幸運にも全国大会に出場することができました。

全国大会には各地方の強豪が出揃い、正直自分たちは足元にも及びませんでした。しかし、そんな全国出場者と交流をしたりした日々はほんとうに楽しくかけがえの無いものだと思っています。また、自分の知らなかったクイズ大会の存在を教えてください、大学に行ってもクイズを続けたいと強く思うようになりました。

そしてこの大会と一緒に出てくれた神谷には本当に感謝しています。大学はいわゆるライバル校だけけど(笑)これからもよろしく。

またクイズ大会などでみなさんに会えるといいなと思っています。ほんとうに楽しかったです。ありがとうございました。

群馬大会代表 群馬県立前橋高等学校 三年  
神谷 涼介

1日目 宿泊施設についてからまずエコノミクス交流会に行きました。そこで出会ったのが新潟代表のお2人。まさかこの二人が明日日ニューヨークへの切符を手にするとは思っていませんでした。

2日目 朝に集められエコノミクスを机の上に出すよう指示を受けました。そこで行われたのは予選の筆記テストでした。エコノミクスはハッキリでした。結果は論述問題に惨敗。過去大会参加者の感想を読み、論述がヤバイことを覚悟してそれなりに対策していましたがもっと幅広くやっておくべきでした。その後のプレゼンでは秋田代表の岡竹が率先して指揮を取ってくれたおかげで話し合いはスムーズに進み、発想が行き詰まることもありませんでしたが、皆真剣に考え意見を出し合いました。予選結果は4位と惜しくも決勝進出にはなりませんでしたが、このグループで楽しく課題をこなせたことを嬉しく思います。前夜祭では同室や同グループで仲良くなった人などと共にビンゴで盛り上がりました。

3日目 この日、初めて悔し涙を流しました。自分たちのチームは第3ラウンドで運悪く敗退してしまったのですがそもそも予選で14位がとれたのは



## 全国大会感想 Final tournament report

チームのおかげでもありその時点で運は相当良かった方だと思います。敗者復活戦では一度見たことのある問題を解けず復活できませんでした。

今大会は運に左右される場面もありましたが、そんなことにも左右されないほどの知識を持っていれば済むことでした。今回優勝した新潟代表の二人には確かにそれだけの知識がありました。努力で運を掴み取る。コミュニケーションの大切さ。様々なことをこの大会を通して感じることができました。



埼玉大会代表 栄東高等学校 一年  
門谷 春輝

「全国大会」、この語は広辞苑にも載っていません。なぜこのことばが載っていないのか、僕はよく分からぬまま決戦の日を迎えました。

全国大会とは、予選と比べて様々な面でレベルが違います。実際、僕は多少なりともプレゼンに自信を持っていたし、金融知力の面でもそれがありませんでした。しかし、それは全国レベルじゃない。その時初めて「全国大会」が鮮明に見えたような気がします。

全国大会には、文字通り各都道府県から精鋭が集まり、一同に会す場所です。そこには予選という狭き門をくぐりぬけた多くの猛者が集まっています。その素晴らしいライバルと話し、交流することによって、全国レベルはそこにあるんだ、という本当の意味が分かりました。具体例として二つを挙げます。

僕は現在、受験に主眼を置いている私立高校に通っていますが、「そんなんじゃないや全国で戦えねえぞ」などと言ったことばをよく耳にします。今まではその言葉を脅かすくらいにしか考えていませんでしたが、その意味を身を以て知ることが出来ました。

また、僕は今まで特に生活で不便を感じない都市で生活をしてきましたが、そのありがたみも知ることが出来ました。

ここまで全国大会の素晴らしさを書いてきましたが、全国大会とは選ばれた者だけが出られる大会であり、この経験が出来たのも埼玉県内で今年は二人だけです。

肌で感じた、「全国」。自分をどこまでそこに近づけることが出来たか、来年のエコノミクス甲子園で確認できるよう、精進していきたいと思っています。

埼玉大会代表 栄東高等学校 一年  
須永 智也

僕は、エコノミクス甲子園に出場するまで、経済というものにあまり興味がなく、知識もほとんどありませんでした。しかし、部活で地方予選に出場することになり、経済に本格的に触れるようになりました。最初は経済の用語や仕組みが全然わからず苦労しましたが、今では経済の仕組みが理解できるようになり、興味を持てるようになりました。そして、エコノミクス甲子園で学んだことは、これからの将来に絶対に役立つものだと思うし、一生の思い出にもなると思います。僕は、エコノミクス甲子園に出場できて本当によかったと思います。そんなエコノミクス甲子園ですが、初めはまさか全国大会に出場できるなんて思っていませんでした。

まずは、地方大会。去年、先輩が全国大会に出場しており、他の学校に負けるわけにはいかないとみんな必死でした。そんな中、僕はなかなか経済が理解できず、悪戦苦闘していました。そして迎えた地方大会当日。僕は、準備が十分ではなく、ペアの足を引っ張らないか心配でした。ペーパーから早押しまでペアに頼りっぱなしでしたが、なんと一位で決勝に臨むことができました。決勝でもペアに頼ってばかりでしたが、見事優勝し決勝に駒を進めることができました。ペアのおかげで決勝に行くことができて、とても感謝したと同時に、決勝ではサポートできるように頑張ろうと思いました。

再び始まった経済の勉強。決勝の教材は難しく、ここでも苦労しました。そして、三か月がたち、決勝一日目。ここでは、ペーパーとプレゼンをやりましたが、どちらもあまり振るわず、明日のラウンドで巻き返そうと二人で気持ちを切り替えました。決勝二日目。まずは、最初の早押しで得点を取ることができました。しかし、その後は得点を重ねることができず、敗者復活のチャンスも生かすことができませんでした。そして、無念の敗退。

結果は残念だったけれど、全国大会に出場しているいろいろな人と交流を深めることができたので良かったと思います。今回の反省を生かして、来年もまたエコノミクス甲子園に挑戦したいと思っています。



千葉大会代表 千葉県立柏高等学校 三年  
高橋 明也

私は2年生の時に初めてエコノミクス甲子園の地方大会に出場しました。その時に、人生初の早押しを経験しました。そして、千葉県のレベルの高さを痛感しました。今回、私にとって最後の大会になった訳ですが、前回の相方は入試に専念するとのことで、新たに同じ部活の後輩である植原君にコンビを組んでもらいました。植原君には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。そして、千葉県予選でなんと、高校生クイズの常連校の方々を倒し全国大会に出場することになったのです。この時、勝ち上がった喜びと、千葉県代表という重圧とが交錯しました。柏高校を背負って、千葉県代表のプライドを持って戦う決心をしました。実は、最大の目標は植原君に、「柏高校で高橋先輩と出会えて良かった」と思ってもらうことでした。

1日目、エコノミクス交流会で出会った徳島代表の人が、まさかの競馬ファンということで意気投合。私達のチーム名「カーブスター」の名前の由来を分かってくれて嬉しかったです。また、最強牝馬の話から天皇賞秋の話、さらには全国大会3日目と重なってしまった「中山記念」の予想まで本当に楽しい話で盛り上がりました。

部屋に戻ると、相部屋がなんと広島代表!熱狂的なカーブファンの私にとって最高の巡り合わせとなりました。広島カーブの話を中心に、福山や三次のこと、さらにはもみじ銀行のV預金の話まで本当に盛り上がりました。

2日目、朝食の後エコノミクス大会かと思ったら筆記試験でした。かなりの難問に苦戦しました。その後グループワークでしたが、どの高校の人も地方予選を勝ち上がって来ただけあって素晴らしいアイデアを持ってるとなりました。この時にJALに電話した事は、いい思い出です。プレゼンは11グループ中6位でしたが、納得いくものが完成して嬉しかったです。





## 全国大会感想 Final tournament report



夜、新宿のホテルで前夜祭がありました。銀行員の方や、様々な企業からいらした来賓の方とお話させて頂き、とても刺激を受けました。用意されていた食事とても美味しく、貴重な経験となりました。

3日目、イノホールに移動してよいよ決戦です。最初の早押しクイズでは、学校等の友人には「絶対答えるからニコ生見てね。」と言っていたのですが、結局答える事が出来ませんでした。やはり、全国大会に出てくる学校のレベルはとても高かったです。結局、予選で負けてしまいました。敗者復活では、ギリギリのところまで復活できず、悔しくて泣いてしまいました。やはり、全国大会の壁はとても高かったと思います。

最後に、2日目に体調を崩してしまい、他校の方々やスタッフの皆さんにご迷惑をおかけしてすみませんでした。それと、応援に駆け付けてくれた千葉銀行の皆さん、千葉興業銀行の皆さん、そして、我々のチーム名を見てわざわざカーブのグッズを下さったもみじ銀行の皆さん、この場を借りて御礼を申し上げます。

千葉大会代表 千葉県立柏高等学校 一年

### 植原 龍之介

甲子園は人を変える

また出場したい。エコノミクス甲子園全国大会の三日間を通して1番強く思ったことです。それは2つの理由があります。1つは三日間で全国の方と共に協力しながらプレゼンテーションをし、共に競い合いながらクイズ大会をやるという素晴らしい経験ができるからです。もう1つは、1年間数学愛好会の先輩としてお世話になり、僕を全国大会に連れて行ってくれた高橋先輩のためでもあります。

高橋先輩は、去年の悔しい思い出もあり、とても気合いが入っていました。経済や金融のことをノート何冊にもまとめ、1日8時間も勉強していたそうです。3年生で受験で大変なのにすごいなと思いました。

正直なところ、全国大会に出場できたことは先輩のおかげです。全国大会では敗者復活戦で惜しくも敗れてしまいました。僕が筆記試験でもう少し点が取れていたら決勝に進出できたかも知れません。なのに、先輩は僕を責めずに「一緒に出場してくれてありがとう」と一言言ってくれました。

先輩のために、来年も出場します。もうすでに出場する相方も決まっています。出場前は僕は経済にあまり興味を持っていませんでしたが、出場してとても興味を持ちました。本当に甲子園は人々、人生を変える素晴らしい大会だと思います。僕はエコノミクス甲子園に出て本当に良かったです。ありがとうございました。



東京大会代表 早稲田高等学校 一年

### 江上 大介

「エコノミクス甲子園」。僕がこの大会の名前を知ったのは部活の先輩のブログからでした。聞くと、金融経済クイズオンリーの大会だと言います。その先輩は当時僕と同じくクイズ研究部に所属されていたのですが、かなり活躍されていて雲の上のような存在でした。しかし、その先輩ですら東京都第二位。興味が出ないはずがありません。

そして今年、僕たちの番になりました。野球部なら甲子園、ラグビーならクリスマスボウルと色々あるのに対し、僕たちの住むクイズの世界には青春要素が余りにも薄すぎる事もあるのか「エコノミクス甲子園」という響きには胸を躍らせるものがあります。何とか多くの強豪校を下し、都大会の王座を手にする事が出来ました。それは同時に、全国への切符を得たという事です。そこから先は余りよく覚えていません。提出しなければいけない多くの書類に悪戦苦闘し、難しい資料に頭を抱えながら何とかかんとか過ごしていたような気がします。

そして迎えた全国大会の3日間。まず驚いたのは、多様な各地の代表の方々でした。勝手ながら僕は全国へ進むような方々は生真面目を絵にかいたような性格ばかりだと思っていたので、驚きました。

ここで得た経験は普段の生活ではおおよそ出来ないようなものばかりでした。プレゼンなどの大会ラウンドはもちろん、慶應の方と徒党を組み他校に話し掛けに行ったのも良い思い出です。是非この経験を実生活で生かしたいと思います。

東京大会代表 早稲田高等学校 一年

### 小野 伊織

今回、このエコノミクス甲子園には出る予定がなかった。しかし、江上の相方が家庭の事情で来られないということで、急きょ代理として出場することになった。これは特例中の特例らしい。水谷さんには感謝の気持ちしかない。

宿舎に着くと、いろいろと説明を受け、プレゼンテーションクイズに途中参加した。僕はコミュニケーション能力があまりないためとても心配だったが、チームに馴染めたので安心した。

僕たちのチームはコロプラをM&Aすることになっていた。僕が合流した時には既にバワボを作り始めていた。僕も少し手伝ったり、意見も出しながら完成した。

プレゼンが終わり、一旦部屋に戻った。その時に慶應の亀山さんに会った。部活が同じなので、お互い顔は知っていたため、仲良くなった。

その後、決勝プレゼンを見た。自分の組は8位だった。決勝に進出したプレゼンを見て、これは負けると納得した。

その後、ホテルで前夜祭に参加した。慶應と江上と一緒に全国大会に進出した高校生に声をかけて話をした。とても楽しかった。

ビンゴ大会は、何も景品をもらうことができなかった。とても悔しかったが、いろんな方の話が聞けて、とてもためになった。

全国大会本番は、二五位だった。どうやら自分が筆記クイズを受けなかったのが響いたらしい。とても悔しかった。本当に江上には迷惑をかけたと思う、今回は特例で全国大会に出場したわけだが、自分でも悔いの残る結果となってしまった。次こそは、しっかり全国大会に進出して、悔いの残らない結果を残したい。

また、日本全国津々浦々の高校生と話すことができ、知り合うことができた。これは、人生でめったにない貴重な機会だっただろう。



## 全国大会感想 Final tournament report



神奈川大会代表 慶應義塾高等学校 三年

### 亀山 尚輝

僕がエコノミクス甲子園に出会ったのは2年生の時です。

神奈川大会を開催している横浜銀行の方が慶應高校のクイズ研究会にお誘い頂いて参加を決意しました。

「クイズ」は好きだけど「勉強」に自信の無かった僕は、同じクラスで成績が一番良かった堀江君を誘って地方大会に挑みました。

予選3位とまずまずの成績だった僕らは、決勝で2位に終わり、全国大会の切符は届かなかったのです。

その悔しさから、3年生になる今大会は昨年度の知識と経験に上乗せして勉強し、自信も身につけました。地方大会予選の筆記試験は50問中2問しか間違えず、早押しクイズでは満点を取って勉強の結果が出たと満足していたんですが、予選はまたも3位でした。決勝は間違えたら負けしてしまうほどにハイレベルな戦いで、僕らは全問正解で前回届かなかった全国大会へ出場することが出来ました。

全国大会では筆記試験で大変な点数だった予感だったのでプレゼンでは頑張ろうと思い、同じグループになった8人で力を合わせてプレゼンでは2位の成績を残せました。運も手伝って決勝まで行けましたが、決勝では周りの知識量に圧倒され3位で全国大会は終わりました。

クイズや知識だけではなくチームワークやプレゼンの能力も求められるエコノミクス甲子園は僕にとって貴重な経験であったし、高校最後の良い思い出になりました。

主催の金融知力普及協会には、このような機会を作って頂き感謝していますし、今年10回を迎えたエコノミクス甲子園を歴史あるイベントにして頂きたいと願います。

神奈川大会代表 慶應義塾高等学校 三年

### 堀江 遼頭

エコノミクス甲子園全国大会、最高でした!

3年生ということで、最後のチャンスだと思って全国大会に臨みました。今振り返ってみると、1日目は少し緊張していたのかなと思います。エコノミクス大会にもあまり人はおらず、他の参加者とも話す機会がありませんでした。

2日目はいきなりペーパーテストが実施されて驚きましたが、グループワークでのプレゼンは、意見を交換しあい、積極的に取り組んだ結果、チームの仲を深めることができ、とても充実した楽しい時間でした。結果も2位と上々でした。前夜祭はちょっとバタバタしていましたが、様々な地域からの参加者と交流することができました。

3日目はいよいよイノホールでの決戦となりましたが、スタッフの皆様や司会者の方のおかげで適度な緊張感を持って楽しく参加できました。短い時間の中でどうしても答えが思い出せなくて、悔しい思いも感じましたが、なんとか決勝戦まで進出することができました。結果は3位でしたが、他のチーム、特に優勝した新潟高校のチームには圧倒されっぱなしで、すごい知識量だなぁと驚きました。

3日間のエコノミクス甲子園全国大会、本当に充実していてあっという

間でした。

最後に、大学では医学を勉強するので、高校生のうちに経済に興味を持ってたということはとても良かったです。そして、そのきっかけとなったのがエコノミクス甲子園であり、エコノミクス甲子園の運営に携わってくださった全てのスタッフの方々に感謝しております。



新潟大会代表 新潟県立新潟高等学校 二年

### 小幡 尚輝

エコノミクス甲子園の具体的な様子は他の人達に任せるとして、この大会に参加して今も心に残っていることを書きます。

1つ目は、全国の優秀な人々に出会えたことです。優秀というのは単に偏差値が高いことではなく、頭を柔軟にそして素早く動かせるということです。2日目の決勝プレゼンテーションまで残った発表者は審査員の方の鋭い質問に対して、皆即座に的確に答えていました。こういった頭の回転の速さにとても驚き、自分の未熟さを痛感しました。

2つ目は、大会を通して度胸がついたことです。初日、2日目と全国の猛者達と関わるなかで、自分をうまく表現できず全く良いところがありませんでした。2日目の夜、このまま何もせず地元へ帰れないと思い、明日こそは今まで必死に蓄えてきた金融知力を会場、全国に知らしめようと、ベントの中で決意しました。ついにやって来た3日目の午前早押しグループが呼ばれました。それは灘高校さんと東大寺学園さんと同じくゆる死の組でペアは嘆いていましたが、私はなぜかワクワクしていました。高校名がコールされ早押し台の前に立ったときはフロー状態に入っていたと思います。1問目、人物と第一国立という音が耳に入り、体が勝手に反応しました。全国大会という舞台上で名門私立に早押しで勝てたことは、クイズ人生最大の自信となっています。早押し後はどんな状況でもやってやるという気概を持って、堂々と自分の知識を出せました。

そして、エコ甲全体を通して一番感じていることは、人生は努力次第で大きく変わることです。大会前は自分が優勝どころか予選突破すら難しいのではないかと感じていました。前回大会で活躍した方々や歴代の優勝校の方々の感想やレポートを読み、雲の上の存在だと思っていました。それでもこの数ヶ月は金融知力を磨き続けました。地方大会を勝ち抜き、一方的に感想文の中で知り合った人と実際に出会い、大きな刺激を受け、そして優勝クイズ界のスーパースターと一対一で会話する時を得ることもできました。たった3日、されど3日、非常に濃い時間を過ごし、これからの人生の活力となる何かを手にしたと感じています。

以上のことを与えてくれたエコ甲での経験全てが自分の財産であり、エコ甲に関わる全ての人に感謝します。特に、ペアの平山くん、第四銀行の星野さん、本当にありがとうございました。

これからニューヨークへ行ってきますが、自分の狭い視野をうんと広げてきたいです。そのために英語力やコミュニケーション力を高めることを頑張ります。

最後になりますが、私は次回大会も参加することを宣言します。優勝者として追われる身であるのは確かですが、さらに大きくなってこの素晴らしい舞台上に戻ってきたいと思います。





## 全国大会感想 Final tournament report



皆さん、また会いましょう!

新潟大会代表 新潟県立新潟高等学校 二年  
平山 一帆

2014年、初参加のエコノミクス甲子園新潟大会。予選1位通過するも、2問の誤答で決勝4位。カメラさえ貰えないということよりも、新潟明訓高校に表彰台を独占されたことが悔しかった。

2年生になった2015年。夏の高校生クイズで、クイズ同好会の部員2名が新潟大会優勝、全国大会ベスト8。このことにより、エコノミクス甲子園地方大会を優勝したいと強く思うようになった。とにかく、本、資料集、ネット等を利用して勉強していった。12月13日の本番。相方の小幡君の活躍もあって、予選一位通過した。決勝では五問目まで三条高校の「喫茶コロンビア」も全問正解していて、結構危なかったが、六問目の難問も何とか正解することができ、悲願の優勝を果たした。

全国大会の2月27、28日の前日と前々日、翌日と翌々日は定期考査であったが、全国に向け、自分は予選を突破するという目標を掲げて、珍しく勉強した。テストは死亡した教科もあったが、本番一日目。エコノミカ交流会に参加した。事前に、クイズ同好会や物理部のメンバーと1戦やっており全勝だったので、自信はあったのだが、まさかの2戦連続山札切れの負け。それでも3勝2敗と勝ち越せたので良かった。二日目。ペーパークイズ。聞いた・見たことあるのに思い出せないということが続き、空欄を多く作ってしまい、また、わかるはずの問題も落としてしまった。やばい。予選突破できないかもしれない、と思った。そのあとのプレゼンテーション。自分は一ツか意見を言えず、全く活躍できなかった。それは本当に申し訳ないと思う。そのあと、国際交流棟に移動して、結果発表。ほとんど失敗もなく、よかったと思うが、残念ながら5位。G、A、Cグループの発表は素晴らしいと思う。その後、前夜祭。地方物産大抽選会でもみじまんじゅうを当てることができて良かった。

そして、運命の三日目。早押し。小幡君は凄かった。3択。1回間違えて申し訳ない。第3Rへの通過者の発表では、意外に順位が高くて驚いた。第3R。これも1回間違えて申し訳ない。第4R。あれは恐ろしかった。けど、とても面白いルールだと思う。決勝R。まさか本当に優勝するとは思わなかった。自分は、本当に英語が苦手で、ニューヨークに行くことを考えていなかったもので、本当に勉強しなければいけない。

この三日間で、多くの人と関わった。エコノミカ交流会で対戦した前橋高校の二人。部屋で一緒にあった高松高校の二人。プレゼンテーションで一緒になり、第2Rを一位で勝ち抜けることができた滝、致遠館、白河高校の方々。前夜祭でお互いの県の地方銀行のロゴが似ているという話をした下関西高校の方、第3Rで協力した広島学院、東大寺学園、仙台二華、宇都宮、慶応義塾高校の方々、第4Rで加えて戦った 札幌南、岐阜高校の方々、その他競った高校の方々、スタッフの方々、銀行の方々、企業の方々、たった3日間で100人を超える方々と関わった。これはこれまでなかった経験であり、たいへん充実した3日間であった。

最後に、第10回全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」を運営して下さった皆様、本当にありがとうございました。



富山大会代表 富山県立高岡高等学校 二年  
関原 悠吾

僕たちは陸上部と野球部というクイズの世界ではおそらく異質なタッグではあったが、数少ない二人の都合がつく時間を利用してなんとか県予選を勝ち抜き、そして全国大会にやってきました。県予選での優勝はもちろん目指してはいたが、まさか勝てるとは思っていなかった僕は全国大会となると想像もつかず緊張していたが、それでも全力を尽くせばまずまずの結果になるだろうと意気込んでいました。しかし、それは全くのお門違いでした。エントリー受付所に入るとすぐに、右を見ても左を見ても超名門校でいかにも天才気質の生徒たちが集まっており圧倒されました。とにかく、「ヤバいところに来てしまったー」としか言葉が出てこなかったです。僕たちは友達協力のもと完成したエコノミカには自信があったので、その日の交流会では積極的に参加しました。※エコノミカのコールは僕の友達が考えたものが採用されていました(笑) この交流会を通して、他校の生徒のことを知ることができ本当にみんな面白い人たちとわかったので、大会中にもっと話したいなあと感じました。ちなみに、最強と言われていたスタッフに勝った時はめちゃくちゃうれしかったです!次に、最も印象に残ったプログラムは「JALプログラム」です。自分たちは探究科に所属しており、2年次に1年間かけて行った課題研究での経験が役に立ちました。相手を惹きつけるプレゼンの仕方や研究の組み立て方などを意識して、より良いM&Aを提案するため様々なアイデアを出し合いました。中でも独創性には自信があり、審査員の印象も良かったので自信はあったのですが、やはり上には上がいました(涙) それでも班員全員がこれ以上ないほど意見を出し尽くし納得のいくものができたので満足しています。社会に出てからもこのような形式のプレゼンを経験する機会があると思うので、貴重な経験をできたことを嬉しく思うとともに今後活かしていきたいと思いました。最後に、クイズの成績は芳しくなかったけどこの大会に出場することで普段は知り合うこともないような人たちと友達になり、多くの経験をすることができたのは今後の人生を考える上で非常に大切なものとなりました。特に自分の小ささ(のびしろ)を痛感できて良かったです。今後の人生、とりあえずは大学受験に向けて視野を大きく保った状態でがんばりたいです。大会運営に携わってくれた方々本当にありがとうございました。

富山大会代表 富山県立高岡高等学校 二年  
柳田 健太郎

俺たちが来るところじゃなかった。というのが正直な感想です。僕はもともとエコノミクス甲子園には何の興味もなく、はじめ相方の関原から声をかけられたときは「やって損することはないだろう」ぐらいの軽い気持ちでした。今から思えば、ほんとうに甘かった。全国大会は地方大会とはレベルが比にならなかったですね。まわりには、クイズ研究部に所属している人もいて、はじめは来ると間違えた!(後悔) という感じでした。でも、相部屋の愛媛のチームや他県の代表たちはみんな想像していたよりも社会的で、大会を通じてたくさんの友達ができました。みんなありがとう。

大会の結果は予想どおり悪く、下から数えた方が早いぐらいでした。とくに、プレゼンテーション部門での残念な結果には本当に落ち込みました。



## 全国大会感想 Final tournament report



独創性では、どのグループにも負けていない自信があり、その分ショックは大きかった。全国の壁の厚さを実感した瞬間でした。

結果はともかく、エコノミクス甲子園への出場は、進路に悩みもどかしく学校生活を送っていた自分にとって、本当にいい経験になった。経済のことを学べた以上に、全国から集まった精鋭たちと触れ合い、自分の知見の狭さを思い知ることができたことこそが最大の収穫だと思っている。幼いころから富山からあまり出ずに、目標もなく、ただ漠然と高校生活を送っていた自分にとっては、3日間の出来事ひとつひとつがはじめての体験で、刺激にあふれていた。みんなとの交流を通じて、自分が目指すべき方向が見えた気がするし、心の底からやる気がわいてきた。この大会の運営に携わったすべての方々、そして、一緒に競い合い、友情を深め合った仲間本当に感謝しています。



石川大会代表 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属  
高等学校 一年  
小菊 聡一郎

エコノミクス甲子園にする前から経済や金融のことについては興味があったわけであるが、なかなかそれを勉強として学ぶ機会は得ることがなかった。そして高校生になって高校生クイズやエコノミクス甲子園などの大会に参加できるようになり、ことエコノミクス甲子園では事前教材として経済の入門書や実際の金融商品のパンフレットを頂いて多くのことを勉強することができた。そして全国大会参加決定の折にはより発展的なテキストでもっと幅広い金融商品について、また、リスク分散の重要性についても詳しく学ぶことができた。かくして全国大会に挑んだ。全国では地方大会をはるかに超える難易度の問題や趣向を凝らしたクイズに挑戦きて、とても楽しめた。筆記クイズでは株についての読み取りや金融経済の歴史について問題は解けたが、為替の仕組みについての問題はさっぱり解けなかった。

イイホールでの大会では、決勝進出校の、あらゆることを知り尽くしている姿に感銘を受けた。さしづめそこからわかった自分に足りないものは、興味のある分野についてより探究する一方で、よく分からない分野から目を背けずに学んでいく姿勢と、一方で得意な分野もさらにその本質を突き詰めていく姿勢だと分かった。たしかにエコノミクス甲子園ではたくさんの事前教材が配られたが、金融力の教材はそれがすべてではない。一世の中の事象、それらすべてが恰好の教材なのだ  
来年はさらに金融力をつけてまた全国の舞台に戻ってきたい。

石川大会代表 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属  
高等学校 一年  
直江 綾太郎

一日目 新幹線で移動しました。エコノミカをしようとしたのに到着が少し遅かったのが、出来なかったのが残念だったけど、同じ部屋の土佐高校の二人が優しく、互いの学校生活を知ることが出来てよかったです。  
二日目 朝から筆記テストとは、予想していたけれども、急に来たので

驚きました。JALの今北さんの話はとても興味深かった。実際の具体的な企業戦略を学ぶことが出来る機会と言うものは非常に少ないのでとても貴重な経験でした。そのあとのJALラウンドでは他の学校の方々とプレゼンを作りました。短い時間の中だったけれども、たくさんの議論を通じて、全国大会のレベルの高さを感じる事が出来ました。最終的には点数化されてしまい、評価されてしまったが、数字以上のことをコミュニケーションを通じて得ました。金融知力以上にコミュニケーション力を鍛える必要があると改めて実感しました。前夜祭では協賛企業の方々や、銀行員の方々とお話することが出来ました。他の学校の人たちとも、次の日に相手となってしまうのが嫌になってしまうくらいに仲良くしてくれた。

三日目 ニコニコ生放送で放送されるということで無駄に緊張してしまいました。自分のためではなく、パートナーのため、そして同じチームのために考えるということがさらに緊張を強くした。一文字ずつ答える協カクイズはある意味とても残酷だと思った。エコノミクス甲子園とは自分のためだけでなく、全国の高校生のため、もっと言えば日本の将来のためにあるものだと思えて三日間を通じて強く思った。



福井大会代表 福井県立高志高等学校 一年  
増田 叶夢

地方大会参加前は、金融知力なんて、中学校の公民や、高校の現代社会の授業で習ったくらいで、ほとんど無知の状態でした。そんな中、地方大会に向けて勉強して、地方大会を突破しました。

そして、全国大会に向けての勉強を始めたわけですが、全国大会レベルになると、専門性も増して、難しさを感じるようになってきました。しかし、同時に、経済の奥深さや面白さも感じていました。

その後迎えた全国大会。1日目の到着後に行われたエコノミカ交流会では、初対面の高校生と交流を深められて、非常に楽しく、有意義な時間でした。

2日目は、一発目から筆記テストで、地方大会とは違った緊張感や、問題の難しさに驚きました。その後のJALの方の講演は、めったに聞く機会がないので、貴重な経験になりました。また、プレゼンテーションクイズは、他の都道府県代表のみなさんと協力できて、とても有意義でした。他県の優勝者がそろっていたため、非常にレベルの高い会話でした。その夜の前夜祭では、高校生や銀行員、来賓の方々と交流ができて、いい経験となりました。

そして3日目の全国大会。やはり一番感じたのは、全国のレベルの高さです。決勝ラウンドになると、知らない単語なども出てきたし、まだまだ勉強が必要だと感じました。

3日間を通して、普段は体験できない貴重な経験ができました。金融知力を学び、様々な人と交流できるエコノミクス甲子園に参加できて、本当に光栄に思います。



福井大会代表 福井県立高志高等学校 一年  
金井 直樹

僕は今回のエコノミクス甲子園でかけがえのない多くの経験をする事ができました。

3日間を通して1番大変だったことは、JALラウンドです。JALラウンドでは初めて会った人達とディスカッションをして、パワーポイントを作成し、発表をする、しかもそれを5、6時間ほどでしなくてはならないということがとても大変でした。さらに、僕は初めて会った人と話すのがあまり得意ではないので、あまり発言することができませんでした。でも、宇都宮高校の人と秋田高校の人が中心となって、しっかり完成させ、11組中4位の結果を残すことができたので、うれしかったです。

また、3日目のイノホールで行われた本戦では、ニコニコ生放送で配信されるということでとても緊張しましたが、簡単な問題だけ、1問答えることができたので、良かったです。しかもその答えたのが、JALラウンドのグループで早抜けする問題だったので、みんなに貢献することができ、とてもうれしかったです。敗者復活ラウンドでは、自分の答えられる問題が先に出て、自分が答える時は答えられない問題がくるという状況だったので、誰かが言っていた通り「勝負は運」だなと思いました。準決勝、決勝ラウンドでは、みんながとてもレベルの高い問題を簡単に答えていて、とても驚きました。特に優勝した新潟高校の人は、誰も分からないような問題をぼんぼん答えていて、文句なしの優勝だと思いました。

この3日間でたくさんの経験ができたので、エコノミクス甲子園に参加して良かったです。これからの人生にも今回学んだことを生かしていきたいです。



山梨大会代表 山梨県立甲府南高等学校 二年  
高橋 俊広

1日目の移動は山梨中央銀行の鈴木さんにもついてきていただいたし、駅からのスタッフの案内もあったのでスムーズに行くことができてよかったです。着くと予想以上に人の数が多く、全国大会だということを実感させられました。他の高校の人と宿泊すると聞いていたので少し緊張していたけれど、同室の佐賀県のチームは面白い人たちが仲良くなることができました。研修施設だから部屋はちょっと狭く感じ、洗面台もトイレもないので、小学校や中学校の時の林間学校が思い出されて懐かしかったです。エコノミカスの交流会に行こうとしたけれど、時間がなくて行けなくて残念でした。風呂に入る前に参加しておけばよかったです。

2日目はいきなりペーパーテストを受けさせられて驚きました。予選よりはるかに難しく、苦戦しました。経済安定九原則など解答を書いていると、日本史の問題を解いている気分でした。そのあとJALの人の話を聞いてプレゼンの作成を始めたけれど、このような経験は全く経験がなくて非常に難しく、ほかの人に頼りきりになってしまいました。上位の人の発表はよく練られていて、勉強になることが多かったです。夜の立食会はいろいろな人と交流できて楽しめました。

3日目は予選落ちしてしまって残念だったけれど、そのあともクイズを観

戦できて面白かったです。新潟高校の優勝の決まり方は本当に予想外でびっくりしました。

3日間を通して様々な人を見て、自分の世界を広げられた気がしました。エコノミクス甲子園で人生が変わるというのは本当だと思います。貴重な体験ができて良かったです。このような素晴らしい機会を作り出してください。皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

山梨大会代表 山梨県立甲府南高等学校 二年  
小林 蒼

まず今回、エコノミクス甲子園に参加して感じたことは、参加すること自体がとても貴重な体験だったということです。

宿舎での生活、全国各地の学生達との交流。数十分前まで名前も知らなかった人たちと一緒に一つの課題に取り組み一つのものを作る。そのどれもが新鮮で、これからの人生に大きな恵みをもたらしてくれるのだと確信が持てました。

そして本戦の大会、チームとしての団結、個人の力、それらが少し及ばず勝ち上がることはできませんでした。もうすこし、プレゼンテーションを煮詰めることはできなかったか。

あの問題の答えをもう少し早く思い出せなかったか。思い返せば、後悔すること、申し訳なく思うことが多くあります。しかし、それでも、この大会に出ることができてよかった。

心からそう思います。

奨学金を受給することが決まった三人の学友たち、その三人の話を聞いて、私は胸が撃ち抜かれたような思いがしました。自分と変わらない歳月を歩んできた彼、彼女たちが、こんなにも強く清廉な志を得ることができるのか。薄志な自分に羞恥さえ覚える程の感動でした。

あれから自分と向き合い、考え、今では彼らには遠く及ばずとも、彼らの前を走らさずいえる程度には自分の未来への抱負を固めることができました。本当に彼ら、この大会に感謝しています。

最後に薄学な私に体験をさせてくれた相手への感謝を書き記し感想文としたいと思います。



長野大会代表 長野県松本深志高等学校 二年  
熊井 裕一

地方大会で優勝して記念撮影が終わった時から本当のエコノミクス甲子園が始まりました。分厚い教材、聞き慣れない言葉や概念と戦う日々が始まりました。大会が迫る中で焦りや緊張が出てきました。そんな感じで大会前々日の金曜日を迎えました。行きの電車の中でも教材を読みましたが、最後まで消化できずに終わってしまいました。新宿でご飯を食べた後、代々木駅まで行くとスタッフの方いて、案内をもらいながらエコノミクス甲子園の意義なんかを話して貰いました。宿舎に着き自分の部屋へ行くと群馬の代表の方がいて、すぐに仲良くしてもらってよかったです。そのまま教材をやりようと思ったのですが、疲れて寝てしまいました。



翌朝、気持ちよく起きることが出来ました。一つ年上の群馬の方に大学受験の話の聞いたりしながら朝食を食べました。朝食を食べ終わるといよいよ戦闘モードです。最初は筆記試験がありました。全国大会にふさわしい難しい問題でした。出来は満足できませんでした。次のJALラウンドではJALの方のお話を聴かせてもらって企業の努力がどんなものか分かりました。グループ分けがなされた後初対面の人とプレゼンを造り上げていく初めての経験をしました。初対面の人とコミュニケーションを取り、かつアイデアを出すのはとても難しいことだと感じました。さらにそのM&Aが実現可能か、どのぐらいお金を使うのかなど、実際の企業のしていることを体験できたのはとても大きな経験でした。また、グループの中には初対面ということに気にせずどんどん前に進めることのできる人がいて、俗に言うコミュ力だれ程大切感じました。私達のグループはかなり素晴らしいアイデアが出たのですが、時間不足で完成とはいきませんでした。しかしアイデアの良さとプレゼンの上手い私の相方の力で予選2位通過となりました。決勝ラウンドはとても広い会議室でJALの役員の方など審査員の方々が大勢いらしゃって緊張しました。ここでも2位になることが出来てとても嬉しかったです。1日中頭をフル回転させていたので非常に疲れました。その後のホテルで行われた立食会では色々な人と交流することが出来て楽しかったです。また料理もとても美味しかったです。楽しくて勉強になった2日目が終わりました。私は前日と同じようにすぐに寝てしまいました。

3日目は朝から緊張まくりでした。イノホールはとても大きくてびっくりしました。最初の早押しクイズで勝てなくて悔しかったです。その後も予選ラウンドが続きます。そして遂に中間発表が行われます。ここより先は上位のチームしか進むことは出来ません。私達は10位で予選を突破することが出来、そのときは本当に嬉しかったです。次のラウンドでは、1チームずつ1つの回答を書くクイズです。そこで私は痛恨のミスをしてしまいました。マイナス金利と0金利政策を勘違いしたのです。私のせいでチームごと敗退してしまいました。この時のことは忘れられずくやんでも悔やみ切れません。チームの人何より相方に申し訳ありませんでした。こういう気持ちをあまり経験したことがなかったので、これも一つの経験になりました。敗者復活戦も分からない問題に当たってしまい、ここで敗退となってしまいました。ここで私達の戦いは終わりましたが、決勝は観ているもとても興奮するものでした。最後に学生スタッフの方の頑張っている姿をみていて、なにかを企画し運営することのすごさを感じました。とても素晴らしい大会をありがとうございました。

長野大会代表 長野県松本深志高等学校 二年  
田村 真央

2日目、私達にはペーパーテストとプレゼンという大きなミッションが待っていました。M&Aという言葉を知っているだけではダメで応用できなければ意味がないと感じました。私たちがAグループは運良く3年生がいて、話をまとめたり発言を促してくれました。私はスピーチをする係になりました。発表10分前に決まって、練習する暇もなくあーどうしようかなあと思いつつなんとかこなすことができました。グループのメンバーはこう喋ったら良いとか色々意見を出してくれてとても助かりました。

決勝プレゼンのために移動するとそこは大きな講堂で偉い人が座っていました。こんなに練習もろくにしないで決勝プレゼン行っちゃたらどうしようかなあと思っていました。待ちに待った結果発表、「2位はAグループ」と言われた時私は嬉しさ半分やばさ半分でした。司会の方に「それでは次、Aグループお願いします」と言われた時、私はもうやるしかない。ぶちかましてやれという気分でした。プレゼンをしている間、なぜか私は楽しかったです。

3日目、私達は予選10位でした。しかし第3ラウンドで敗退してしまいました。悔しかったです。それ以上に得るものがあったので涙は出ませんでした。

私は大会当日まで経済を勉強しなかった日は1日もありませんでした。周囲に「なんでそんなに経済を勉強するの?」と聞かれても「好きだから」としか答えられないくらい経済に夢中になりました。これも私をエコノミクス甲子園に誘ってくれた相手のおかげです。そして金融・経済は私に青春と感動とを与えてくれました。



岐阜大会代表 岐阜県立岐阜高等学校 二年  
鷹橋 碧音

エコノミクス甲子園で私はこれからの人生に役立つ経験ができました。2日目のプレゼンテーションは特に貴重な体験になりました。その日の朝知り合った人と半日でプレゼンを完成させるなど、普通の高校生活ではあり得なかったでしょう。独創的かつ現実的なM&Aプランというなかなか難しいお題だったこともあり、議論は進まずといった状況でした。しかし、チームで昼食をとり親睦をさらに深めた後は徐々に意見がまとまっていきました。金融知力とは単に経済用語を知っていることだけではなく、経済の仕組みを理解していることだと実感しました。このプレゼンは金融の動きを深く考える機会になりました。

3日目の全国大会では自分たちのすべての金融知力を発揮しましたが、予選で敗退してしまいました。ですが、もう一度チャンスが訪れました。敗者復活戦で勝ち上がる事ができました。このチャンスを生かしたかったのですが、準決勝では英語で出題された問題どころか通常問題も満足に答えられず悔しかったです。

事前学習から全国大会にかけてそれまでになかったほど金融について考えました。エコノミクス甲子園がなかったら金融経済は私にとって遠い存在だったでしょう。金融知力は金融業界の人だけが持っているいいものではなく誰もが持っているべきものだと思います。そうでないと誰かが損をします。エコノミクス甲子園はクイズを通して楽しく経済を学ぶことができ、さらには全国各地の高校生と出会うこともできる素晴らしい大会だと思います。これを機に経済の勉強を続けていきたいです。英語もがんばります。

岐阜大会代表 岐阜県立岐阜高等学校 一年  
坂 駿之介

私は今回のエコノミクス甲子園を通して、多くのことを学ぶことができました。

まず、全国各地の代表の方々と、コミュニケーションをとることができました。1年生ということもあり少し遠慮していたのですが、同じグループになった高校の人たちや部屋が同じだった人たちが積極的に接してくださったので、楽しくかつ充実した活動ができました。特に活動力のある行動には驚かされ、学ぶことも多かったと思います。

また、当然のことではありますが、経済の知識を得ることができました。地区予選のための勉強からはじめ、普通は出会うことのできないような新しい発見をさせていただきました。部活の時間以外にも勉強した甲斐あってか、問題に答えられた時の喜びはいい経験として胸に残っています。結果としては、チームを組んでくださった先輩のおかげというのも大きく、7位に入ることができました。しかし準決勝に行ったものの、答えがわかった問題は2問のみ、聞いたことがある答えでさえ半分程度で、自分の実力の無さを痛感しました。

自分はまだ1年生、来年、あわよくば再来年もチャンスがあります。なので、来年も参加して、もっといい成績を残せたらと思います。そのためにはもちろん、より多くの経済の知識を身につけなければなりません。そのため



にも、今回の経験を糧に、自分を磨いていけたらと思います。



静岡大会代表 静岡県立静岡高等学校 二年  
佐藤 央

一昨年の年末に悔し涙を飲んでから、一年越しのリベンジを達成した我々チーム岳南は地方大会優勝後気がついたら静岡駅の新幹線ホームに、そしてすぐに東京駅に着いていました。そのように感じるほど地方大会から全国大会までは短く感じられたのです。

初日、私たちは二人っきりで上京してからすぐに秋葉原に向かいました。なぜか、それはもちろんラジオ会館にあるイエローサブマリンで「エコノミカ」を買うためなのです。閉店時間ギリギリでエコノミカをゲットした我々は電気街で台湾まぜそばなるものをニンニク臭を気にしつつ食べました。その後小田急線で切符をなくしかけてしまいましたが、無事宿舎に到着することができました。

そんなこんなの日二日目、同室の北海道代表から情報を入手しまず筆記テストがあるだろうと予想していたものが見事的中。ここで初めてチームを離れ個人で戦いましたが、とにかく相棒が心配で仕方がなかったです。その後、我々はプレゼンテーションチームに分かれてディスカッションを重ねました。私達二人は理系だったのですが、チームの中には文系の方も多く、多方面から意見が出た良い語り合いになったと思います。そして、夜になっていよいよ前夜祭、静岡銀行さんが何を持ってきたのかを気にしつつ、ホテルの美味しいご飯をたらふく食べさせていただきました。ありがとうございます。

ついに迎えた3日目、お世話になった宿舎をあとにして一路イノホールへ向かい、全国大会へと出場しました。私達のチームは残念ながら決勝進出することはできませんでしたが、それ以上に得たものが大きかったと思います。つい数日前まで顔も名前も知らなかった友人との出会いもそうですが、やはり最も心に残っていることは閉会式での奨学金選考理由のお話です。思わず涙してしまうほどの感動がありました。

三日間を通して、普通の高校生活では味わえないような体験をさせて頂いたこと、本当に感謝しています。この場を借りて、心から御礼申し上げます。また、三日間ともに生活し、ともに競い合い高め合った全国の友人にも感謝の念を禁じえません。

エコノミクス甲子園は、正に私の青春そのものです。高校生活が続く限り、エコノミクス甲子園への参加も終わることはないでしょう。大きな表現にはなってしまいますが、人生の分岐点になった三日間であったと感じています。

静岡大会代表 静岡県立静岡高等学校 二年  
鈴木 賢斗

1日目 あと1分で店が閉まってしまふ。僕のエコノミクス甲子園はラジオ会館でダッシュするところから始まりました。エコノミカは静岡では買えないし、交流大会で他県の人に勝ちたかったのでもっと手に入れたかったです。なんとか購入した後2人でそばを食べました。ボリュームがあり

ニンニクが効いていました。おいしかったです。しかし、沖縄代表の人は銀行の方が同行レタリアンをごちそうになったことを聞き、ショックでした。「絶対レタリアンの方がおいしい…。あ、しかも口がニンニク臭い。水谷さんに怒られたらどうしよう」。そんな複雑な思いをいだきつつ忙しくも充実した一日は無事に終わりました。

2日目 最も印象に残っているのはプレゼンで、初対面なのに協力して一つのものを作り上げられたときはとても感動しました。審査員の方から「君たちは変わっているね」と言われたときは「いけるんじゃないか」と思い、順位発表では心臓のドキドキが止まりませんでしたが結果は6位。将来、航空関係の仕事に就きたいので、悔しかったのですがビジネスの厳しさや初対面でも積極的に話す事の大切さを学ぶことができ楽しかったです。

3日目 決勝ラウンドにはいけませんでしたが。僕たちの甲子園は終わり、ほっとしたような寂しいような悔しいような感じでした。ですが奨学金の時の話はクイズ大会なのにこんなに感動するとは思わず、泣きそうでした。この大会を通して理系だから文系のイメージがある経済をやらないのではなく、理系だからこそ経済という別角度の視点が必要だと感じました。もっともっと視野を広げ、人を救うことのできる人間になりたいです。ありがとうございました。



愛知大会代表 滝高等学校 一年  
西脇 遼

今回の大会に出場することができて本当に良い経験をする事ができました。

その全国大会に出場する前に、まず地方大会に出場しました。地方大会はとても緊張しましたが、無事優勝することができました。

そして1日目に東京に行きました。最寄りにはたくさんのスタッフさんがいて、迷うこともなく着くことができました。そして、青森高校の人たちと同じ部屋になりました。

2日目は、レクリエーションをやると思っていたので、遊びをやるのかと思いましたが、ペーパーテストや、日本航空の将来について考えるプレゼンをやりました。難しい課題でしたが、とても良い経験になりました。(個人的には、僕たちの班が一番現実にできると思います。)

そして、前夜祭でceoのサインを書いてもらえました。企業のトップと話すという貴重な体験ができました。

3日目に、本番のクイズがありました。惜しくも敗れてしまいました。運によって敗れましたが、表彰の言葉で、「実力のない者に運はない」との言葉があって、その通りなんだな、と思いました。また、この大会を通して、子供の貧困というものに身近にあるということを知られました。奨学金選ばれた方々は是非実現してもらいたいです。そして、自分も夢を実現したいです。

来年は新潟高校の方々にアメリカに行きたいです。



三重大会代表 三重県立宇治山田商業高等学校 三年  
津田 盛秀

エコノミクス甲子園は私にとってとても大きな経験でした。このエコノミクス甲子園に参加した発端は、授業の教科担当の先生からの何気ない声掛けからでした。その時はこれから受験を受けるにあたりもしかしたら支障になるのではと一抹の不安を感じたが、結局は先生に「はい」と返事をした。しかし、潔い返事をした裏腹大して勉強もせずに地区大会に臨んでしまった。これもまた不思議なことに地区大会優勝してしまった。この優勝をキッカケに全国への切符を手にし、テレビ出演や知事表敬訪問などかけがいのない経験をたくさん得た。

そしてついに全国大会、どんな事をやるのだろうかかと期待をする反面、もちろん全国では猛者が多く名だたる名門校もあり、不安も覚えた。到着後クジを引き同じGグループに灘高校があり敵か味方か色々勘繰ったがそれもそれで大変面白かった。それを除いては初日は特に何もせず夜を過ごした。

二日目の朝は筆記クイズから開始した。そしてJALのプレゼンテーション。お題はM&A案件を考える事。JALの機内サービスはかなり飽和していて、画期的なサービスを考えるのにとっても骨が折れた。だがその甲斐もあって、プレゼンテーションでは最優秀賞をとることができた。そしてその日の夜は前夜祭で私自身の身になる話を数多く聞けてよかった。

そのまま三日目に突入してついにクイズ大会本番当日、まずは早押しクイズだったが、残念な事に2問中2問とも答える事ができなかった。そして、その時点までの点数で12位。思っても見なかったが事だが本戦に上がる事となった。だがシックスシグマですぐに敗退する事となった。その後は客席で優勝が決まるまでとても楽しむ事ができた。各チームの戦略や、自分のわからないクイズに答えられるチームそれぞれがとても魅力的だった。結果として、上位入賞にはならなかったものの、プレゼンテーション賞を得ただけでも自分にとっては大きなものだった。この三日間だけでもとても濃い時間を過ごせた。そしてこれからの人生の大きな糧になると思った。なにより、この大会に参加できてよかった。

三重大会代表 三重県立宇治山田商業高等学校 三年  
山村 玲雄

1日目、卒業式を四日前に控え期待と不安が入り混じりながら高校生活最後のイベント、エコノミクス甲子園の会場に到着しました。宿舎の部屋では既に他県の代表選手が到着しており、部屋を開けた時に二人は問題を出し合っていました。私は商業高校の出身ではありますが、普通の学校生活ではここまで金融知識に対して意識が高い人を見たことがなく感動しました。

2日目、起床後すみやかに朝食会場へ向かうと各県代表の名札を首からぶら下げた選手が一同に集まっているのを見て改めて全国大会に来たのだなと実感しました。その後の意表を突いた筆記クイズでは問題内容が地方大会とは比べ物にならないくらい難しく感じました。

そして、ここからが私の価値観を大きく変えるJALラウンドが始まりました。今北様からの講演の後にプレゼンテーションの班に分かれて部屋に

移動しました。私たちの班は北から南まで幅広い班であり地方活性化の目線でプレゼンに取り組みました。予選は一位で通過し、緊張で声が震えながらも決勝ラウンドでプレゼンを行いました。結果は最優秀賞。仲間と抱擁し喜びをわかちあいました。そして前夜祭を終え、本戦を迎えました。

3日目、母校と地元銀行の名を背負い入場。午前の部を順風満帆に終え予選12位で午後の部へ残念ながら私たちは決勝へと進めませんでした。それからの大会も大いに楽しみました。エコ甲は私にとって金融知識を用いてどのように社会に貢献するか考えさせられる場になりました。大会関係者の皆様、ありがとうございました。



滋賀大会代表 滋賀県立水口東高等学校 一年  
増山 諒

エコノミクス甲子園に参加し、全国のライバルと戦いあえた3日間は、とても貴重な経験でした。

思えば、昨年の秋ごろに参加を決めた理由は「なんとなく」であったように思います。

クイズの経験があったわけでもなく、楽しそうだからという理由で滋賀大会に参加することとなりました。ところが何があったのか、運が味方したのか、「なぜか」優勝してしまったのです。滋賀大会で優勝したあの瞬間は、今でも忘れられません。特に初開催だっただけに、「滋賀大会初優勝」という肩書きがもたらしたことは、もちろん光栄に思っていますが、同時に今でも恐縮に思っています。

そして全国大会を迎えたわけですが、正直なところ不安もありましたし、緊張もしていました。確かに自分なりに勉強はしてきたつもりでしたが、私にとって全国大会は未知の領域でした。案の定、全国のレベルの高さは伊達ではありませんでした。敗退してしまったことは今でも悔しいですし、自分の勉強が足りなかったことを反省しています。ですが、その中でも全国の人たちと交流できた経験はとても楽しかったです。同じ金融経済を学ぶ者として語り合えた経験は、今まででは体験できなかったことで、私自身とても刺激を受けました。

「エコノミクス甲子園で人生が変わった」とあるスタッフの方がおっしゃっていました。私はこの人生が変わるほどの経験をもう一度経験したいと思っています。ですから来年の大会にもぜひ参加したいです。そして次こそリベンジを果たして、悔いなく大会を終えたいです。

滋賀大会代表 滋賀県立水口東高等学校 一年  
奥 夏輝

「エコ甲に出たら人生が変わる」と大会期間中にスタッフの方が何度か言っておられました。大会を終えた今、その言葉の意味が分かった気がします。

僕は運に助けられて地方大会を勝ち抜き、全国大会に出場しました。全国の場合は聞いたことがある学校ばかり。僕たちの学校は事前のニコニコ生放送で名前を間違えられるほどで、レベルの違いを感じていました。その全国の代表の方々とはさまざまな交流の機会があり、事前には彼ら



を僕の勝手なイメージで、勉強ばかりしているガリ勉のような人たちだと想像していました。いざ話してみるとそんな事はまったくなく、社交的で堂々としている人ばかりでした。彼らと交流を重ねるにつれて感じたのは、彼らはみんな強い信念を持っていることです。特に育英奨学金発表時、自分の目指すところを堂々と語っていた人たちの姿が印象に残っています。

正直、僕はまだ彼らと同じレベルではありません。基本的な問題も焦って解くことができなかつたし、最終の結果も下から数えたほうが早いです。レベルの違いも感じさせられましたが、彼らに少しでも近づきたいと強く思いました。そのために、実力をつけてもう一度全国の場に戻ってきたい。そして自分自身を高めていきたいです。そう思えるような刺激をエコノミクス甲子園に出で得る事が出来ました。

最後に、この大会に関わってくださったすべての人に感謝申し上げます。ほんとうにありがとうございました。



大阪大会代表 金蘭千里高等学校 二年  
勝沼 直也

大会2日前に初めて事前学習教材を開きました。なんとか、2冊読んだものの結局私の頭の中には確固とした知識は何も残りませんでした。私には全国大会は地方大会よりはるかにハイレベルでした。私は違いますが、テスト期間中で直前にエコノミクス甲子園の勉強ができなかった人もいたでしょう。そして、万全の体制でエコノミクス甲子園に臨んだ人もいたでしょう。エコノミクス甲子園全国大会は3日間でしたが、その勝負は地方大会が終わった時から始まっていた。そして、全国大会が始まる前にもうある程度決着はついていたのです。

エコノミクス甲子園で多くの方が「努力なしに幸運はやってこない」というようなことをおっしゃっていました。今回、そのことを深く実感しました。最初に引いたクジ、2日目のビンゴ大会、問題...など。今、そのことを実感でき、その点ではとても幸運です。

全国大会では全国のたくさんの高校生と交流できてとてもたしかかったです。今大会ではエコノミクス大会がなく、到着が遅かったためエコノミクス交流会にも参加できず残念でしたが、同室となった山形代表の松木君、三井君と対戦でき惨敗でしたが楽しかったです。本当にいい人が同室でよかったです。また、スウィフティーズメンバー（相方）の木島君には色々迷惑をかけてしまいました。しかし、一緒に出場できてよかったです。木島君のおかげで全国大会に出場することができました。やはり、彼と一緒にいることに意味があったのだと思いました。

エコノミクス甲子園に出たことで経済に興味をもちました。エコノミクス甲子園で学んだ事をこれからも生かして行きたいです。

最後に第10回エコノミクス甲子園のスタッフの皆様、関係者の方々、近畿大阪銀行、りそな銀行の皆様、協賛の企業の皆様、このエコノミクス甲子園は私にとって人生を変える貴重な体験となりました。本当にありがとうございました。

大阪大会代表 金蘭千里高等学校 二年  
木島 洸平

この大会では、普段あまり触れない経済分野を学ぶいい機会になりました。

大会1日目、あまり勉強ができていなかったのも焦りました。移動の飛行機の中などでひたすら教材の内容を頭に入れてました。また、普段訪れないところだったので無事に着けるかどうか不安でした。無事宿舎に着いた時は、とても安心しました。宿舎で大会期間の説明を聞いてから、部屋へ移動しました。部屋は山形代表と同じで、最初は仲良くできるかどうか不安でしたが、少しずつ話したりしているうちに仲良くなって良かったです。

2日目、朝から筆記テストのことで頭がいっぱいでした。実際にテストを受けると、とても難しくあまりわかりませんでした。テスト後のJALの方による講演では、普段興味を持たないようなことを聞くことができとても良かったです。その後にあるプレゼンテーションのお話を聞いた時、案が何も浮かんできませんでした。グループの中でも、あまりいい案が浮かばず、時間だけが過ぎていき、とても迷いました。また、周りのチームの状況もわからず、自分達のグループが遅れているのかもわかりませんでした。話がまとまり、プレゼンテーションが終わるととても安心しました。結果はイマイチでしたが、グループの中でいろいろ話し合い、結論を出せたことはとてもいい経験になりました。その後の前夜祭では全国の代表と話すことができ、とても楽しかったです。宿舎に戻ると、山形代表とエコノミクスをすることができて良かったです。

3日目、いよいよ本格的になってきてとても興奮しました。会場に着いた時は思ったより緊張しませんでした。でも、舞台上がるまでの待ち時間はとても長く感じました。予選通過することができず、敗者復活に望みをかけましたが、あと少しのところまで復活できず、悔しかったです。

この大会では、経済について学ぶだけでなく、いろいろな人と交流するいい機会になりました。これからもエコノミクス甲子園に興味を持ちながら、経済について学んでいきたいです。



兵庫大会代表 灘高等学校 二年  
菊池 凜

今回エコノミクス甲子園に参加して、経済に関する知識はもちろんですが、たくさんのかけがえのない思い出を得ることができました。地方予選前に教室にこもりクイズを出し合ったこと、相方が30000字以上の対策プリントを使ってきたこと、フレンドリーな銀行員の方々や普段は決して会うことのできない来賓の方々とお話できたこと、時間ぎりぎりまで議論を重ねそれぞれが能力を発揮したプレゼンで1位をいただいたこと、筆記試験でも1位に輝いたこと、一方自分のせいでシックスシグマクイズの解答が揃わず敗退してしまったこと、敗者復活でもわからない単語に当たってしまい悔しい思いをしたこと、ひとつひとつの思い出が今後の学習またひいては人生の糧になっていくことなのでしょう。そしてなによりも、日本中に優秀な友人ができたことが非常に大きな魅力だと思います。大会が終わっ



た後も気軽に連絡を取り合っている方もいますし、今後も支えあい引き立てあう関係を保ち続けていきたいです。

最後に貴重な経験をさせてくださった金融知力普及協会の方々、大学生スタッフの方々、地方銀行の方々、そしてチームメイトの北口君に感謝します。僕は出場することができませんが、彼が予習教材外のニュースや用語集も入念にチェックして来年こそ優勝してくれたら、僕としても誘った甲斐があったと思います。

兵庫大会代表 灘高等学校 一年  
北口 智章

「努力すればするほど、運は強くなる。努力が足りない者にも幸運は訪れるが、それは一時的なもので、本当の幸運は努力に吸い寄せられるように向こうからやってくる」。

ある審査員の方が話されていた言葉が、深く心に刻みつけられた。札幌南高校チームが発した「勝負は運」との断言を受けてのご意見だったと記憶している。思えば、この大会の期間中、「偶然」や「運」に勝負が左右される場面が数多くあった。

プレゼン作成チームにキャッシュフロー計算を楽々とこなす商業高校生がいた、という「偶然」はプレゼン1位という輝かしい成績に大きく貢献してくれた。

3R.組み分けのくじ引きはまさに「運」が試された。もし、チームメイトの菊池さんと僕の回答順が異なっていたら、菊池さんがミスをした「ビットコイン」を完成させ、私が間違えた「インバウンド」「預金保険機構」で得点を稼ぐことができていた。

そして、敗者復活戦。読み上げられた全問題の中で唯一答えが分からなかった「ブロックチェーン」が勝敗を分けた。愛光チームが灘チームよりも前にいる段階で、その問題が読まれていれば...、さらにこの大会を楽しんでいたかもしれない。

そんな、「偶然」の数々をしみじみと思い浮かべながら、冒頭のスピーチを聞いていた。10位という最終順位への不甲斐なさ、悔しさ、応援して下さった方々への申し訳なさ、様々な感情が入り交じった「心のわだかまり」。それをスッと晴らすような、そんな効果その言葉にはあった。

優勝した新潟高校チーム、その知識量は疑いの余地のない確固たるものであった。予習課題にも載っていないような金融用語を難く答える彼らは、私には計り知れないような努力をきつと積んできたのだろう。

「努力すれば、運はついてくる」。それが事実なのか、単なる精神論なのかは私には分からない。けれども、来年のエコノミクス甲子園に今年の新潟高校チームに劣らない準備を以て参加すれば、その真贋を確かめられるのかもしれない、そんなことをつらつらと考えながら帰途についた。

その翌日に、「最新金融用語がよ〜わかる本」(秀和システム)という書籍を購入。数ヶ月前には全く無縁であった「金融」に関する記述がスラスラと頭に入ることに感激、エコノミクス甲子園が僕に与えてくれた恩恵に感謝するとともに、「来年こそは」との思いを新たにしました。

戦いはもう始まっている。



奈良大会代表 東大寺学園高等学校 二年  
中澤 貴志

私は、この度の第10回エコノミクス甲子園に奈良県代表として参加させていただきました。昨年地方大会決勝であと一歩及ばず負けたこともあり、地方大会前には必死で知識を集め、また経済関係のホームページなども読み漁りました。その結果、なんとか優勝でき、全国大会への切符を手に入れました。

全国大会を通じて、僕は、「社会」というものについて、いろいろな意味でより理解を深めることができたように思います。

事前学習教材を使って学習していると、クイズ的な金融知力だけでなく、われわれが今生きている社会での、お金の流れを詳しく理解することができるようになりました。日々の生活でニュースや国会中継を見ていると、それまでより理解が深まりました。また、大会2日目に行われたJALラウンドでは、JALの方のプレゼンテーションを拝聴し、企業の経済、ブランド戦略について詳しく学ぶことができました。

それだけではなく、今回の全国大会をつうじて、僕は今後学生生活を終え、社会に出ていくために必要なことも学習できました。JALラウンドでプレゼンテーションを他校の方々や協力して作ることで、本戦で同チームの人と協力して勝ち進むこと、全国各地から集まった様々な人とふれあい、話をする...それらは、ほぼ学校と家の周辺のみで生活していた僕にとっても新鮮な感動を与えてくれました。今後の僕にとって、おおいに助けになるものと信じています。

本戦の結果は4位でした。優勝を目指していた僕にとっては、とても悔しいものでした。しかし、それ以上に、全国大会は充実していて、たくさんの感動を得ることができました。本当に貴重な体験でした。

最後に、大会を援助して下さった皆様、金融知力普及協会の皆様、学生スタッフの皆様、参加者の皆様、地方大会を開き、全国大会まで引率して下さった南都銀行の皆様、素晴らしい大会を本当にありがとうございました。

奈良大会代表 東大寺学園高等学校 二年  
岡本 哲

エコノミクス甲子園で学んだのは「協力すること」の大切さでした。僕は中学から高校の5年間、クイズ研究部に所属し、さまざまなクイズの大会に参加してきました。その中で、チームメイトとの協力が欠かせない大会もありました。もちろんそれはエコノミクス甲子園でも同じだったので、この大会では異なる学校同士での協力まで必要だったのでした。

会場に着いてすぐにくじを引かれたのですが、これが後の勝負の命運を大きく左右するくじでした。まずこのくじが効力を発揮したのは2日目のプレゼンテーションの時でした。お題は「JALのM&Aの提案」でした。考え出すと思っていたよりもはるかに難しく、「買収費用が高すぎる」「陳腐な提案だ」などの理由でなかなか話がまとまらず、方針が決まったのが制限時間1時間半前でした。それでも、協力したおかげで、何とか原稿を仕上げる事が出来ました。結果、自分たちの班が3位に選ばれた時の喜びは、いっそう大きなものでした。



## 全国大会感想 Final tournament report

3日目の3択リレークイズの時もくじが効いてきました。このラウンドも1位で通過することが出来ました。結果、くじで同じ班になったチームは、何と全員通過したのです！

この時、驚くべきことに、異なるチームの間に友情が芽生えていたのです。もしこれがなければ、僕たちは決勝に上がることすら出来なかったでしょう。

準決勝の第1問目、「プライマリーバランス」という基本的な問題を僕たちは「国民負担」と間違えてしまいます。ほかのチームもほとんど正解。正解者が不正解者を選択して攻撃するルールだったため、内心（終わった…）と思いました。しかし、同じチームだった広島学院と仙台二華が攻撃しなしてくれました。そのおかげで、僕たちは決勝に上がることができました。

最後は思わぬ結末となりましたが、全国4位と、高校最後の大会で結果を残すことができ、素晴らしい思い出できました。ありがとうございました。



鳥取大会代表 湯梨浜高等学校 二年

### 谷川 陽祐

今回エコノミクス甲子園に参加したきっかけは学校のポスターでした。地方大会の開催日が学校のある日だったのでさばれると思って同じクラスの小谷君を誘って応募しました。

今考えると不純な動機で申し訳ないです。地方大会の前日まで期末考査であまり覚えられなかったのですが、相方が朝4時まで勉強してくれた甲斐もあり地方大会では予選3位から決勝ステージで逆転し優勝することが出来ました。予選順位発表を聞いた時は正直優勝は難しいなど感じていたので優勝した時はかなり嬉しかったです。

そして、あっという間に時は進み2月26日の金曜日を迎えました。午前中まで授業に出席しクラスメイトからの激励を受け空港に向かいました。一時間ちょっとで羽田空港に到着し秋葉原で時間を潰して全国の猛者が集まる宿舎に向かいました。宿舎ではエコノミクス交流会などが行われていましたが出席せず同室の人とエコノミクスをしてその日は就寝しました。

2日目はいきなり筆記でした。筆記があるのは予測していましたが難易度は地方大会とは比べ物にならないほど難しかった記憶があります。その後JALの今北さんの講演を聞いてプレゼンテーションの準備に取り掛かりました。プレゼンの制作では愛媛の二人がリーダーとしてまとめてくれたり他のメンバーもいろんな意見を出してくれたり、スライドを作ってくれたりしてくれました。本当に感謝しています。プレゼンの成績は最下位だと分かったときは悔しい気持ちと同時に他のチームはもっとレベルの高いプレゼンができていたのに感じました。その後、新宿で前夜祭があり他の高校生や各地方銀行の方、来賓の方と交流させてもらいました。そして宿舎に戻り、明日の準備と復習を簡単に就寝しました。

そして3日目、朝食を終え決戦の舞台であるイノホールへと向かいました。イノホールは想像していたよりも立派な建物で入った瞬間から緊張感がより一層増してきました。

初めに行われた早押しクイズでは全く答えることができずにあっけなく終わりました。

その後はプレゼンチームでの三択クイズでしたがこのクイズではなんと2位で通過することが出来ました。個人的にはこのクイズは寿命の縮まる思いでしたがチームの結束力がより深まったのもこのクイズだったように感じます。そして予選順位の発表でしたが自分たちは上位18チームに入ることはできず、その後の敗者復活戦でもミスが続き敗退しました。この3日間で自分の金融知識の低さを改めて痛感しました。しかしこの記念すべき第10回エコノミクス甲子園全国大会に出場し全国の高校生と交流ができたことは永遠に忘れないし、これまで勉強してきた金融・経済知識は今後の生活においてもきっと役に立つと思っています。ここまでやってきてこれからの支援してくださるスポンサーの皆さま、各地方銀行の方々、金融知識普及協会の皆さま、ボランティアとして参加して下さった学生スタッフのみならず、応援してくれた学校の先生や家族や友人など数え切れないほど多くの人々のおかげです。いつかこの大会に自分もスタッフとして恩返しが出来れば良いと思っています。

最後になりますが改めてエコノミクス甲子園に関わるすべての人々に深く感謝し、このエコノミクス甲子園が今後より一層発展し続けることを願って感想とさせていただきますと思います。

鳥取大会代表 湯梨浜高等学校 二年

### 小谷 健太

東京に行くのはじつに17年ぶりです。普段は地方創生からも見放されたような田舎風景素晴らしいところから行けるような機会を恵んでくださった金融の神様もとい開催金融諸機関、学生スタッフの皆様に感謝します。寝込みを襲われ深夜の筆記クイズなど自分の妄想は現実とならず、力ぜんぜん及ばず、予選敗退し敗者復活をかけたクイズ誤答2連発で相棒には土下座でもしてお詫を乞うことも考えました。プレゼンDチームのメンバーの皆は自分の拙い質問にも解説をくれ勉強になりました。プレゼンの結果はきっと運が悪かっただけだと信じてます。全国の猛者たちとも話す機会があり自分の「大海知らず」を実感できました。山陰合同銀行の石田さんには自分のまともな質問に親切丁寧に解説いただき感謝しています。最後にふたたびこんな機会を恵んでくださった金融の神様もとい開催金融機関、学生スタッフの皆様ありがとうございました。



鳥根大会代表 鳥根県立隠岐高等学校 二年

### 塚本 康太

今回のエコノミクス甲子園を通して初めてのことを色々経験することができました。全国大会への参加や初対面の人と寝食を共にすることは初めての経験でした。今大会の準備をして下さった方々には本当に感謝の念がたえません。私たちのチームは、鳥根県大会を運で勝ち抜いたようなものだったので、全国大会も運でどうにかなるのでは、と考えていました。しかし初日の筆記クイズの問題や、JALクイズの難易度にとっても驚き、考えが甘かったと思われ知らされました。JALクイズでは何とかチームの役に立とうと頑張りましたが、ほとんど役に立てませんでした。しかしそんな自分にもチームの人達は優しく、私を責めてくるようなこともありません



## 全国大会感想 Final tournament report

また、同部屋の人や前夜祭であった人達もとても親切に接してくれました。ただ、そんな人たちの中に自分はいはいけないのではないかと大会中考えてしまっていました。しかし「実力のないものに運は降ってこない」という言葉にハッとさせられました。自分の実力不足、勉強不足が招いた結果なのだからしっかりと受け止めて、次に生かそうと思いました。私は今年2年生なので次回があるかはわかりませんが、もしあるならば自分のことを誇れるぐらい勉強して出場したいと思います。今大会に参加したこと世間の広さや、自分の未熟さ、そして経済というものの面白さを改めて知ることができました。このような素晴らしい大会を開いていただき、ほんとうにありがとうございました。

鳥根大会代表 鳥根県立隠岐高等学校 二年

### 徳田 治美

今回エコノミクス甲子園全国大会に参加してたくさんのことを感じ学びました。

1日目は、移動中参加している高校生とうまくコミュニケーションがとれるだろうか、大会でちゃんと答えられるだろうかとても不安で緊張ばかりしていました。

2日目は、宿舎で筆記テストとプレゼンテーションをしました。筆記テストでは全く書けず、プレゼンテーションではあまり役に立てずペアの子や同じグループだった方々にとっても迷惑をかけました。もっと勉強しておけばよかったと後悔しました。ただ唯一、プレゼンテーションのスライド作りのとき役に立て、ブラインドタッチができて良かったなと思いました。

前夜祭では、たくさんの高校生と話をしたり、9人という数少ない女子とはもちろんいろいろな話をしたり写真を撮ったりと楽しいとき過ぎました。銀行の方々や御来賓の方々から貴重な話を聞かせてもいい経験になりました。

3日目の最終日は、イノホールでたくさんの方々が見に来られているなかで行われ、私は全く問題を答えられずとても恥ずかしい思いをしました。

自分の実力の低さを痛感し、恥じましたが他の子たちに負けないように勉強しようと思いました。

全体を通して私は、地元では絶対に経験できないようなとても貴重な経験をしたいと思います。全く知らない方々とコミュニケーションをとったり、銀行の方々や御来賓の方々から貴重な話を聞いたことは将来のためになると思うので大事にしていきたいです。そして自分の実力がどの程度なのかを知ったので、恥じないよう、周りに負けないようこれからより勉強に励んでいきたいと思いました。



岡山大会代表 倉敷市立精思高等学校 四年

### 吉田 貴博

私たち「チームわかば」は昨年度の先輩に引き継ぎ2年連続でエコノミクス甲子園全国大会に出場することができました。私は商業科に在籍し、金融経済のみならず簿記会計など幅広く学んだことが全国大会出場に

大いに役立ったと感じています。

私は全国大会において、主に三つのことを感じました。一つ目は出場者の多さです。岡山大会も全国最多出場の大会でしたが、全国大会はさらに大勢の高校生が参加しており、地方大会を勝ち抜いてきた人達がこれほど多くいるのを目の当たりにして圧倒されました。

二つ目は新鮮な体験です。3日間という短い時間でしたが、全国大会では知らないことや知らない人、これまで関わることもなかった人達との出会い、また体験はこれまでとは違った新しい経験になりました。

三つ目は緊張の連続です。出場者として当然やるべきことに加え、ほとんどの行程は団体行動で、主催者・スタッフの方々の指示をよく聞き、自覚をもった行動をすることが求められました。地方大会の代表としてのプレッシャーとともに、不安や緊張などが途切れることがありませんでした。

その他、全国大会に出場して感じたことは数え切れないくらいありますが、肝心の成績は予選16位で第3ラウンドに進むことができ、昨年を上回ることであったこと以上に、解答できる問題に十分解答できたことに充実感・満足感を得られました。

最後にこの大会出場に際し、私たちを支えてくれた関係者の方々に対し、感謝を伝えたいと思います。「ありがとうございました」

岡山大会代表 倉敷市立精思高等学校 二年

### 寺岡 拓朗

私がエコノミクス甲子園全国大会で一番感じたことは、自分がなぜこんなところにいられるのかという疑問でした。なぜなら、私がどんなに頑張ってもできないことを、周りの人は簡単にできているように見えたからです。

私は全国大会に出場した誰よりも、人生で失敗をしたという自覚があります。そして、みんなが出来る自分が、自分には出来ないということが何度もあり、その事実を受け止めて、生きてきました。しかし、今回は、今までと違うところがあります。

それは、他の人ができなかった全国大会出場ということ、私ができたという事実です。自分が不相应な場所にいると思っても、地方大会で優勝し、ここにいるのです。

さらに、私は奨学育英生にも選ばれました。このことは、自分に義務のようなものを与えてくれたと思います。自分がどんなに弱い人間でも、ここまで頑張れたのだから、もっと頑張れるはず、もっと頑張らなければ、他の人に申し訳ない、という気持ちです。

この気持ちは弱い私にとって多少の重荷に感じるとともに、少しは強く生きられるだろうという自信にもなりました。

これから私は、今まで以上に辛い経験をしていこう。その中で、エコノミクス甲子園で得た経験は、自分にもっと頑張れるという自信と、その中を生きぬく勇気を与えてくれると信じています。



広島大会代表 広島学院高等学校 三年

### 中本 和宏

私達のチームは3回にわたりエコノミクス甲子園に出場しました。





## 全国大会感想 Final tournament report

高校1年生の時は全国3位になりオリックスの始球式に参加。また全国大会に行けたらと思って参加した、高校2年生の時は県大会で敗退。ここで涙を呑んだ私達は全国大会が受験に被らないことを確認し3回目の参加を決めました。

もみじ銀行様が主催してくださった地方大会では運も味方につけなんと優勝し、まさかの1年越し2回目の全国大会出場が決定。(こんな数奇な運命を辿ったのは私達だけと思われず)そしてあつという間に月日は過ぎ去り1日目の夜、受験直後の私達は東京にやってきました。

ルームメイトは千葉県柏高校のお二人でした。非常に仲良くしていただき、広島カーブの話などで盛り上がったのはいい思い出です。

明けて2日目、朝からいきなり始まったのはなんとペーパークイズ。解答欄を微かに残る記憶に頼ってなんとか埋めました。単純な知識問題ばかりではなくその応用も問われており、やはり全国大会の問題は面白いと感じました。

束の間の休憩時間のあとJALのコーポレートブランド推進部の今北様からJALのブランド戦略についての講演があり、高校生はチームに分かれJALのM&A戦略をプレゼンすることとなりました。非常に短い時間でしたが、仙台二華、東大寺、精思高校の素晴らしい仲間のおかげでなんとかプレゼンをするところまで持っていくことができ、最終的に決勝プレゼンもさせていただきました。自分が一生話し掛けられないような偉い方達の前でプレゼンをさせていただいたことは、一生の思い出になると思います。緊張というより興奮の時間でした。

その後レセプションパーティーで多くの人々と交流を深め、27日のイベントは全て終了。早めに床につき、3日目に備えました。

迎えた3日目。イノホールで本番が始まりました。

チームのメンバーのお陰で準決勝まで勝ち上がり、また格付けクイズもなんとか切り抜け、遂に決勝となりました。

正直ここまで勝ち上がるとは思っておらず、決勝の舞台にはリラックスして楽しもうと話して上りました。

決勝は宇宙産業ラウンド。ルールが非常によく練られており、TV番組に参加しているように感じました。決勝ともなるとやはり対策が不十分な私には難しい問題が多く、解答に必要な部分を消してしまう悲劇も起こりました。

結果としては、私達のチームは準優勝となりました。あの選択については申し訳ないと思いますが、あの場面でできる精一杯のことだったと思っています。

最後に自分の感じたことを少々。

私はエコノミクス甲子園に参加し、多くの素晴らしいことを経験できました。感謝の気持ちでいっぱいです。エコ甲を通して、自己責任の時代を生きる上で不可欠な金融知力を身に付けられただけでなく、多くの素晴らしい社会人の方々、熱心な大学生、全国各地から集まる優秀な高校生の方々に出会うことができました。本当に嬉しく、楽しかったです。これからもずっとエコノミクス甲子園が続いてゆくことを心から願っています。

最後になりますが、相方の白部君、もみじ銀行の皆様、HFMの皆様、エコノミクス甲子園に携わるすべての皆様、本当にありがとうございました。

広島大会代表 広島学院高等学校 三年

白部 敬識

僕たちは二度目のエコノミクス甲子園出場ということもあってあまり緊張しませんでした。

しかし、初出場の時とおなじように驚きと興奮で満ち溢れていました。

まず初めに前回の大会で知り合った方が大学生スタッフとして運営に回っていたことです。

エコノミクス甲子園は元出場者たちによる大学生スタッフで運営されているという言葉が身にしみてわかりました。

僕も大学に入ったらスタッフとしてエコノミクス甲子園に恩返しするつもりです。

そして何よりも驚いたことは準優勝という前回を上回る結果を残せたことです。受験があつてあまり勉強できない中、決勝まで残れたことは他の

チームとの協力のお陰です。互いの信頼や協力の大切さを改めて感じました。

目まぐるしく変化するこの時代に必要な、金融知力は勿論、団結することや考えることの大切さを高校生が身に着けるためにもエコノミクス甲子園の役割はより一層重要になると思います。

もし、エコノミクス甲子園に出ようかどうか悩んでいる方がいたら躊躇しないでためらわず出場してください。エコノミクス甲子園の三日間は高校三年間に匹敵するといっても過言でないほど貴重な時間だと思います。大学生になったら僕もスタッフとして待っています。

最後に月並みですが、プレゼン班などで協力したチームや宿舎で同室になった千葉代表チーム、仲良くなったチームのみんな。大会を陰から支えていただいたスタッフや地銀や金融知力普及協会の皆様方。本当にありがとうございます。



山口大会代表 山口県立下関西高等学校 二年

井関 友洋

私が今大会で考えたことは二つあります。まずは、全国大会と地方大会との差についてです。問題の難易度もそれを解くほかの出場者も地方とは桁違いのレベルで、去年の優勝者はこんなに恐ろしいところで戦っていたのかと思いました。今年の出場者も皆レベルが高く、何か不思議なオーラが感じられました。しかし、みんなとても友好的な人たちで、私は3日間とても楽しく過ごすことができました。また、日本各地から集まった参加者との交流はこれまでにないような体験で一生心に残ることになりました。そして、「全国大会に出て人生が変わった」という話も何度か聞きました。私はまだ自分が変わったとの実感はありませんが、将来この大会で人生が変わったと言えるようにこれからも様々のことに努力していきたいです。

もう一つは私がどうしてこの大会に参加できたかということについてです。私がこの大会に参加するようになったきっかけは昨年の大会の際に相方が学校の先生に「出る」と言われ、そこで彼が「井関君となら出ます」と言ってくれたということです。彼は今回の大会のために相当の勉強をしており、私は彼に連れてきてもらったようなものでした。このように、私が大会に出場できたのは多くの人々の助けと後押しがあったからです。また、今回大会を行うためにボランティアの方や様々な企業、組織が協力してくださいました。本当にありがとうございました。

山口大会代表 山口県立下関西高等学校 二年

安永 悠紀

私が全国大会を通じて特に印象に残ったことは大きく分けて二つあります。

一つ目は経済という共通のテーマで多くの高校生と交流できたことです。地方大会が終わってからこの全国大会に向けて準備を重ねましたが、ほとんど手探りの状態で全国大会の場でどんな人達を相手にするのか予想もできませんでした。1日目のエコノミクス交流会や2日目 JAL ラウンドの発表準備と多くの人と顔を合わせる中で『金融経済について真剣



## 全国大会感想 Final tournament report

に取り組んできた仲間がこんなにいる」という実感が湧き、もっと多くの人と意見を交わしてみたいと思いました。

また、あつという間に過ぎてしまった3日目の本番ですが、客席で近くの人とひそひそ話を話している絶対と敵わないと思っていた人に意外な間違いがあったり、当たり前のことですが得意分野がひとりひとり違うことが印象的でした。このことが第3ラウンド・シックスシグマクイズにもよく顕れていたと思います。

二つ目は多くのエコ甲全国大会卒業生がスタッフとして運営に関わっていたことです。強いリーダーシップで私たち高校生を誘導したり、大会が円滑に進むよう時間を確認したり、いろいろな場面で先輩方の努力が見られました。計画の段階から大会の後処理まで多くの苦勞をされてきたことを思うと感謝が尽きません。それと同時に、主体的・活動的に動く大学生の様子に憧れを覚え、積極性を持って行動する大切さを感じました。近い将来自分もこの大会を創る一員になればと思います。

私にとって全国大会の参加は日々の生活に多くの刺激を与えてくれるものでした。この大会の経験が自分の人生をよりプラスの方向に進める力となることを確信して、今後の受験へと向かっていきたいです。



徳島大会代表 徳島県立城東高等学校 二年

北野 総士

私のなかで高校2年の今年は「とにかく様々なイベントに参加し研鑽を深める年」というテーマのもと過ごしてきました。このエコノミクス甲子園に出場したのもその一環です。

地方大会は前日の詰め込みにより何とか優勝できましたが、表彰式の後、更なる事前学習教材を渡されたときは愕然としました。全国大会に向けて勉強はしていたものの、東京行きのJAL便に乗ったときも不安は拭えず、機内や宿舎でも必死に詰め込みました。その甲斐あってか、徳島県代表としては史上初となる予選突破を果たすことができました。残念ながら準々決勝での敗退となってしまいましたが、その後の準決勝、決勝ラウンドは観戦していても楽しいものであり、また大会期間中には地方大会を勝ち抜いてきた多くの僕たちと出逢い、趣味を共有できる仲間と知り合えたこともあり、とても満足のいく大会でした。

徳島大会代表 徳島県立城東高等学校 二年

鈴田 真生

私は相方とこのエコノミクス甲子園に出ようということで参加しました。地方大会では正直そんなに勉強してなくても優勝できてしまいました。しかし、この甘さがいけなかったのでしょうか。全国大会では他県の代表の人との差を感じました。これから全国大会でのことを振り返りながらこの感想を書きたいと思います。

1日目、移動だけなので以下略

2日目、予想していた通りの筆記試験でした。筆記試験では、勉強不足のために全然出来ませんでした。その後JALの人の講演を聞き、最後に「JALと5～10年後の革新的なことをするためにM&A」する会社を選

びプレゼンをしろとお題が出されました。ここではグループとなった人と協力して2位をとることが出来ました(あまり役に立てませんでした…)

3日目、イノホールへ移動し、早押しクイズ。これは相方に任せていました。さらにプレゼングループ対抗のリレークイズと続き、次のラウンドへ。予選6位と知った時は驚きでした。残念ながら次のラウンドでは負け、敗者復活戦もあつてなくなり終わりました。これで私たちのエコ甲は幕を閉じました。



香川大会代表 香川県立高松高等学校 一年

多田 真太郎

僕は今回のエコノミクス甲子園を通して大きく分けて二つのことを学びました。

一つ目は「繋がり」です。まず普通に生活しては、おそらく出会うことのなかったであろう仲間。各都道府県の地方大会の死闘を勝ち抜いてきて東京に集結しました。本当に新鮮だったし、新しい出会いに喜びを感じました。特に、土曜のJALラウンドのプレゼンでは、他県のメンバーと何時間も共に協力してアイデアを絞り出し、編集、練習することで、あまりいい結果ではなかったけれど、とても仲良くなり、交流を深めることができました。このプレゼンラウンドは、今後のエコノミクス甲子園でもぜひ続けていただきたいです。

二つ目は「信念」です。まず僕が信念を感じたのは、優勝した新潟の「将棋部チーム」でした。僕たちとは同じ部屋で、僕たちが部屋でのんびりとしていた間、彼らは勉強を惜しまず続けていました。僕も、「この人たちけっこう上位まで行くかもしれない!」とだけ思っていただけに、ある意味納得の優勝でした。本当に勝ちたくて、勝ちたくて、ずっと努力していたんだと感じて、感服しました。そしてもう一つは、イノホールでの表彰式での野中さんのお話でした。どういう経緯で、どういう思いでこの金融知力普及協会を設立するに至ったのかをお話していただき、本当に感動しました。利潤を得ようとして始まったのではなく、これからの将来を担う僕たち若い世代のために始まった取り組みでした。「お金の正しい使い方を知れば幸せになる。」最近の金融的な問題を考えてみると本当にそうだなあと感じます。僕たちにお金の正しい使い方を教える機会を与えてくださって、ありがとうございました。設立の際に野中さんをはじめ様々な人の強い信念があったからこそ、多方面からの支援や理解を得られているのだなと思うと、この世界をいい方向に向けていこうという思いさえあれば、少しでも好転していくと思えました。

最初はノリ(笑)で地方大会に出場してしまいましたが、出てよかったな、全国大会に行けてよかったなど喜びを感じています。運営していただいた金融知力普及協会、学生ボランティアの皆さま、その他関係者の方々には本当に感謝してもきれません。ぜひ、来年もあの地に戻って、優勝したいと思います!本当にありがとうございました!

香川大会代表 香川県立高松高等学校 一年

永田 将吾

エコノミクス甲子園は私の人生の中で最も刺激的な3日間だったと





## 全国大会感想 Final tournament report



言っても過言ではないと思います。

どんな人達に会えるんだろう、と期待を膨らませながら飛行機に乗った1日目。羽田空港に着くと百十四銀行東京支店の大井さんが私たちを優しく出迎えてくれました。東京大学や法務省などの省庁、そして日本銀行といった私たちが希望したところに連れて行ってくださいました。1日目の夕食は、114銀行の森東京支店長と会食をさせて頂きました。支店長は、高松高校のOBということもあり母校の話で盛り上がりました。また、それだけではなく金融や経済に関する詳しい話もして下さいました。その後宿舎に到着し新潟高校と同部屋になりました。正直なところ同部屋のお二人が全国制覇をするなど夢にも思いませんでした。

2日目は、朝からスタッフの方にままと騙されました。エコノミカをすると思いきや突然の筆記クイズ。それなりに出来たと思います。

JALの特別講話を聞いた後プレゼンのグループに分かれました。同じグループには、宮崎第一、高岡、水口東の3校がいました。みなさん明るい人ばかりでホッとしたのを覚えています。このプレゼンからは、今回のクイズだけでなく、知らない人とのコミュニケーションという社会に出てからも役立つことを学ばせていただいたと思います。前夜祭では、大川様をはじめロビンソン様など各界の重鎮の皆様と喋ることができ、本当に光栄でした。そして私も将来はこのような立場になりたいと強く思いました。

3日目は、待ちに待った全国大会でした。緊張してしまい実力を発揮できずとても悔しかったです。決勝に残った4チームのみなさんとは知力の差を感じ、自分たちの不甲斐なさをまじまじと感じさせられました。

今回の全国大会を通して私は、多くのことを学べたと思います。また、Kグループになることができて幸せでした。Kグループの仲の良さはどのグループにも負けないと思いますし、関係は一生続いていると思います。

私たちは一年生なので、来年も参加させていただきつづけます。同部屋の新潟高校が使っていた教材や資料を見たことは、私たちにとても大きなプラスになると思います。これから一年間経済に関する知識を身につけて、来年全国大会に戻ってきます!そして、必ず全国制覇を成し遂げます!

最後になりましたが、私たちが全国大会という素晴らしい舞台に立てたのは、協賛して下さった企業の方をはじめ地方銀行のみなさま、金融知力普及協会のみなさま、そして私たちを一番近くで支えてくださったスタッフのみなさまのおかげです。とても感謝しています。

素晴らしい経験を本当にありがとうございました。



愛媛大会代表 愛光高等学校 二年

### 藤田 蘭丸

何から書いたものか。そう考え始めて既に5日は過ぎている。大会が終わってからの数日間は後悔しなかった。「何故事前学習教材を勉強しなかったのだろうか」「どうして僕はもっと努力をしなかったのだろうか」そんな事を思う数日間だった。これ以上後悔の念を書いても恐らく相方の宮内くんと内容が被ってしまうことは必至であろうから、僕なんかは少し違う観点からこの大会での「NO経済NO生命」を語ろうかと思う。僕達のした勉強で役に立ったことを、この大会がもっと盛り上がるためにも、来年も全国大会に出てくれるであろう愛光学園の後輩達の足を引っ張らない

程度に書いていこうと思う。

まず、日本経済新聞のTwitterアカウントのフォロー。この程度であっても相当に役立つものである。例えばタイムラインをポーッと眺めているとしよう。そんな時日本経済新聞のTwitterアカウントがツイートしたものの中に「リフレ」という言葉を見つけたとしよう。そして自分が知らない単語なら、それは調べる価値があるものと言えよう。日常生活の中に経済の情報を入れるというただそれだけで大会のためだけでなく、生きていく上での金融知力を養っていくのである。

次に、とにかく地方大会の事前学習教材をしっかりと読み込むこと。勿論、僕達のチームが完璧に出来ていた訳では無いが、敗者復活戦で僕達のチームが最後まで残れたのはこのお陰であるところが大きい。事前学習教材の小さい字で書かれているところも大切な知識になるのである。

そして、誰もが思いつくだろうものであるが相方と問題を出し合うこと。チーム同士で出し合った問題は絶対に出るはずである。それどころか、チームでなくても同じ学校で地方大会に出たチームとの問題の出し合いも重要である。僕は答える権利がなかったためその効果を発揮出来なかったものの、決勝戦の問題の中にも数多く自分達で出し合った問題があったのである。

また、どれだけプレゼンで同じグループになった人達と仲良くなれるかというのもまた、大きな要因であろう。僕達のグループで、プレゼンの時に話していた経済用語が問題されるということもあった。

勿論、これらのアドバイスは全く役に立たないかもしれない。僕達の運が良かったかもしれないからだ。だが、問題に答えるための勉強ではなく、将来の経済的なリスクから自分の身を守るための盾や剣として金融知力を身につけるための勉強だと思って僕からのアドバイスを聞き入れて頂きたい。

また、全国大会に出ると友達は増える。勿論自動的に増えるわけがないので勇気を出すことが大切である。その勇気と先程から述べている金融知力と少しばかりのユーモアを持ってさえいればこのエコノミクス甲子園は人生においてとても有意義なものになるだろう。と思う。

あまり長々と書いても読んでいる方も書いている方も大切な時間を奪われていくだけだと思うので、そろそろ終わりたいと思う。

僕達「NO経済NO生命」は少しばかり(?)のユーモア(?)と運(?)と金融知力(?)を持っていてことで「パインブリッジ・インベストメンツ賞」という賞を頂くことができました。それもこれも、全て僕達の事を評価して下さったパインブリッジ・インベストメンツ社の社員の皆様方のお陰であります。落ち着きのない(よく言えば元気な)僕達「NO経済NO生命」なんかに貴重な体験をさせて頂ける場を設けて頂いたことの感謝をこの場を借りて申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。また、引率をして頂いた伊予銀行の方にもこの場を借りて感謝を申し上げます。ありがとうございました。そして、このような素晴らしい大会を行っている金融知力普及協会の皆様と大会スタッフの皆様方にも感謝致します。そして最後に、相方の宮内公大くん、僕を全国大会に連れていってくれて、そしていい体験をさせてくれて、本当にありがとう。大会途中も君が居てくれたお陰でいつものペースで臨むことができ、なんとか2人でパインブリッジ・インベストメンツ賞を受賞することが出来ました。本当にありがとうございました!

愛媛大会代表 愛光高等学校 二年

### 宮内 公大

今回のエコノミクス甲子園全国大会は大いに悔やまれる結果となりました。

まず、2日目にされた筆記のでき具合が芳しくなく、また、プレゼンも発想のいたらなさから良い順位がとれず、予選39位という結果に。敗者復活ラウンドも難易度の高い問題も乗り越え最後まで残ったにもかかわらず、運が悪かったのか、惜しくも敗退しました。

ここまではよいのですが、本当に悔やまれたのはその後のラウンドの問題のほとんどの答えがわかっていたことです。

僕たちは難しく考えていて、難しい用語に重点を置き「知識が偏る」という自分たちの勝手な判断で事前学習教材の勉強をあまりやりませんでした。(偏っていたのは僕達の方です)



## 全国大会感想 Final tournament report



ですから、僕たちは客席から勉強していた事柄が問題で出る度に、予選の結果がよかったら…とか、敗退復活の問題がせめてあと5問あったら…、僕たちが壇上にいたらもっと上手く立ち回れたのではないかと、下手したら優勝は僕らだったのではないかとという後悔の念で頭がいっぱいになりました。まるでファールボールがあつと少しずれていたらホームランであったかのようにでした。

しかし、これらはすべて負け犬の遠吠え。すべては僕らの実力の内何かがかけていたからだろうと思います。

僕らは基本的な勉強を怠りました。結果、負けました。どんなに知識を持っていても、勝ち残り、解答する権利を持って解答しなければ、わかっていたことにはなりません。基礎的な部分が欠けていれば、エキストラな知識も空しいだけ。僕たちがしていたのは基礎工事をそろそろにした高層ビル工事と同レベルのことでした。そのようなビルは倒れるに決まっています。実際に倒れた(負けた)訳ですが。

やはり、優勝するにはバランスよく能力を持っていなければならなかったと終わった今思えます。

しかしながら、この大会で普段なら体験出来ないことを体験できました。レベルの高いプレゼンに舌を巻き、己のレベルの低さを知りました。また、全国から集まった仲間と知り合うことができました。このような貴重な体験はきっと将来にわたって僕の心に残るだろうと思います。

最後に、パインブリッジ・インベストメンツ賞に推薦して下さいましたパインブリッジ・インベストメンツ社の皆様へ。ろくな結果も残せなかった僕らに貴重な体験をする機会をお与えいただき、誠にありがとうございます。この場を借りてお礼申し上げます。

それではこの大会の更なる発展を願っています。どうもありがとうございました。



高知大会代表 土佐高等学校 二年

### 近藤 起司

父親から参加を誘われ、もともと学校で政経の授業が好きだったという理由から僕は今回初めてエコノミクス甲子園に参加しました。以前までは大会のことを聞いたこともなく、参加が決まってからどのような大会なのかとずっとワクワクしていました。

地方大会当日、実際に各ラウンドを体験してみて、学校でのテストでは味わうことのできない楽しさや、接戦の中得点を獲得した時の一種のスポーツのような喜びを感じました。そして地方大会を何とか勝ち抜き、全国大会への出場が決まった時、僕は高知大会代表としての責任を感じると同時に全国大会がどんなものなのかという興奮を感じていました。

全国大会一日目、地元から飛行機で東京に行き、宿舎に到着した時、そこで僕たちは初めて各県の代表者達と顔合わせを行いました。大会の運営の方達が交流の場を多く設けてくださったおかげもあり、色々な県の代表や来賓の方達と様々な話をする事ができ、多くの刺激を受けました。各ラウンドの面白さや独創性も素晴らしかったですが、エコノミクス甲子園の良さというのはそういった自分とは生まれ育った環境が違い様々な価値観を持つ者同士が互いに競い、時には仲間となって戦い、そしてラウンド

が終わると仲良く交流するという点だと僕は思います。

僕たち高知代表は今回初の予選突破を目標にして勉強してきましたが、悔しくもう少しのところで予選敗退となってしまいました。高知県ではまだまだエコノミクス甲子園の知名度が低く、地方大会への参加チームも多くありません。僕はこの素晴らしい大会をもっと多くの人にとってもらうために僕なりの普及活動を校内でしていきたいと思っています。そして僕自身、今大会のリベンジとして来年のエコノミクス甲子園の出場に向けて今大会の反省点を活かしより一層気合いを入れて勉強していきたいと思っています。

今大会で本当に多くの刺激的なことを経験させて頂きました。大会本部、ボランティアの方々、本当にありがとうございました。

高知大会代表 土佐高等学校 二年

### 山村 航洋

エコノミクス甲子園に出場してとても楽しかったです。初日、僕は早めに飛行機で行き、迷路のような路線図を解読しながら、昼食を食べたり、大学を見に行ったりして宿舎に行きました。その時に会った、富山代表の方と東京代表の方と話をし、それまでとても緊張してましたが、少し楽になったように思いました。部屋には各都道府県の代表がいたい2組くらいで一緒になって寝ましたが、最初はどんな人たちが来るのだろうと思ってこれまた、とても緊張しましたが、とてもフレンドリーでエコノミカをしたりして遊びました。2日目は筆記テストとプレゼンをしました。プレゼンは初対面の人たちと、問題に取り組むのですが初めてそういうことをして、最初はあまり会話があまり弾まなかったのですが、一回昼食を取りながら話をし、また部屋に戻り話し合ったら少しずつですがアイデアが出てきて、プレゼンの結果は他のチームとアイデアが被ったり、詰めが甘かったりでは無かったです。3日目ついに大会当日、朝からバタバタで大変でした。僕は早押しクイズのチームの組合わせが、予選1位の灘、今大会優勝の新潟、同じく4位の東大寺学園と競合揃いの組で全然ボタンを押せませんでした。あの時押してたらとまだに思うことがあります。次のラウンドは2位で通過しましたが、筆記とプレゼンの点があり良くなかったので、予選22位とあまり良くなかったですが、敗者復活で頑張ろうと相方と話していました。しかし敗者復活では最後まで壇上にいましたが、一回不正解だったので惜しくも復活できなかったです。それからは単純に戦いとしてではなく、楽しく大会を見てました。優勝した新潟高校の最終ラウンドの戦略や、2位の広島学院のまさかという選択など、とても楽しかったです。最後に大会を運営していただいた関係者の皆様、学校から家まで最後まで僕達の面倒を見ていただいた四国銀行のKさん、僕を誘ってくれた相方には本当に感謝しています。



福岡大会代表 大牟田高等学校 二年

### 堀島 正道

エコノミクス甲子園というクイズの大会がある。友達からそう聞いた時すぐに出場しよう決めました。昔からクイズが好きで、「自分も早押しボタン





## 全国大会感想 Final tournament report



を押して答えてみたい]と夢見ていた私にとっては、またないチャンスです。すぐに、中学から同じ部活で仲の良かった相方を誘いました。突然の申し出に二つ返事で応じてくれた相方には今でも本当に感謝しています。

クイズに心を惹かれて参加を決めた僕は、経済のことなどまるで知りませんでした。しかし、勉強するにつれて、経済や金融知力の大切さ・面白さがだんだんと理解できるようになりました。今までニュースや新聞を観ていても漠然としか分らなかったことが、面白いほど理解できるようになり、今までの自分の無知さを思い知ったのです。

福岡大会では、夢だった早押しクイズを緊張して失敗してしまいました。決勝ラウンドでも正答率が他のチームよりかなり低く、ほぼ運と戦略だけで勝ち上がったようなものです。その悔しさから、それまで以上に勉強して全国大会へ挑みました。

全国大会が近づくにつれ、僕は不安と緊張でおかしかなりそうになっていました。しかし、実際に全国大会を迎えた時にはそれ以上に、初めて会う人や初めて体験することにわくわくしていて、夢のような時間は瞬間に過ぎました。普通に生活していたら出会うことのない様々な人と出会い、今までにない新たな世界を見ることができたということが一番心に残っています。しかし、全国大会で新たに発見した課題も多かったと感じます。金融知力が足りなかったというのはもちろん、プレゼンができなかったことやコミュニケーションをうまく取るのが苦手だったことが挙げられます。男女ペアで出場すると部屋が別々になるので、同室の人とコミュニケーションを取るのが大変でした。最終的には同室の福井の2人とちゃんと話せるようになって良かったです。

このエコノミクス甲子園で、経済や金融知力だけでなく様々なことを学ぶことができました。これからの人生にこの経験を活かしていけたらいいなと思います。最後に、エコノミクス甲子園の開催に協力していただいた全ての皆さん、一緒に闘った高校生の皆さん、貴重な体験を本当にありがとうございました。

福岡大会代表 大牟田高等学校 二年

### 中川原 杏奈

私がこの大会に参加したきっかけは、相方と一緒に出不いかと声をかけられたことでした。その時は、優勝商品のNY研修に心を動かされ、高校最後の思い出作りが出来ればいいなという軽い気持ちで参加を決めました。まさか地方大会で優勝できるなんて…思ってもいませんでした。

全国大会の結果は予選敗退となり多少の悔しさはありましたが、それ以上にこの大会を通してたくさんの事を学び、経験し、大きく成長することができたと思います。

特に印象に残っているのは二日目のプレゼンテーションです。初対面の人と議論をして、アイデアを練りながら一つのものを作り上げていく。エコノミクス甲子園に参加していなければ、高校生でこんな経験はできなかったと思います。最初はなかなかいいアイデアが思いつかずグループのみんなを頼ってしまっていたのですが、徐々に私も意見を出すことができるようになりました。時間を気にして焦りながらもみんなで完成させたときの達成感とはつもないものでした。しかし、結果の順位は下から2番目。現実を突きつけられてショックでしたが、成績上位のグループのプレゼンは見ていて圧倒されるものばかりで感動しました。結果は残念だったけれど、私はこのグループでプレゼンができてよかったと思っています。完成間近のときのあの一体感は忘れません。

この大会で得られたもので1番大きなものは、たくさんの人々との出会いだと思います。エコノミクス甲子園ではただ競い合うだけでなく、参加者が共に3日間を過ごすので、多くの高校生と知り合え、人脈を広げることができました。特に、Hグループのみんなや同室だった沖縄県代表の2人とは親睦を深め、それぞれの地元についてたくさん知ることができました。また、地方大会の時から支えて下さった西日本シティ銀行の井口さん、平川さん、金融知力普及協会の皆さん、そして学生スタッフの皆さんには本当にお世話になりました。また皆さんと出会うことができるようお願いしながら、真摯に毎日を過ごしていきたいと思っています。大会に関わって下さった全ての皆さん、ありがとうございました。



佐賀大会代表 佐賀県立致遠館高等学校 二年  
石橋 幹太

エコノミクス甲子園に出場して最も印象が深かったことは、様々な分野で高いレベルの人と出会えたことです。自分が知らないような部活に入っておられたり、色々なことで全国大会に出場しておられたり決して学校に通っているだけでは出会うことの出来ない人が全国大会の会場にはいました。校名を見るだけで劣等感を抱かざるを得ないような偏差値が高い学校の人も話す機会がありました。自分が目指している大学を受験した帰りに会場にきた人も居ました。スタッフには名高い大学に通っている人もいました。このようにレベルが高い人と触れ合う機会は私の意識を変えてくれました。一つは学業への意識が一段と上がりました。

私の学校は所謂自称進学校と揶揄されるような学校であり学業への意識も個人差が大きく、更に課題が県下で多いと言われておりそのことによりある程度で頑張ったと感じてしまっていました。会場で私は勉強するとはどういうことなのか肌で感じる事が出来ました。志望校合格への具体的なアドバイスを先輩から頂きました。今まで、少し高めの志望校を形式上設定しておくくらいの志望校への意識が変わり、学習して入学するんだという意志へと変化しました。

二つ目は様々な分野への興味が沸いたことです。知らない分野のプロフェッショナル(少し言い過ぎか)の話は非常に興味深く自らの視野の狭さを痛感することになりました。思えば自分には誰にも負けないという何かが出来ると打ち込んだ過去はなく何かの物事の本質、深淵みたいなものを見ることなくやめていたこと、その本質、深淵まで到達することで他人には簡単に得られない感覚等に変わりそれがその人を大きく他人をリードする強みへと変化するのではないかと考えました。

私はこのようにエコノミクス甲子園で大きく二つのことを学びました。この二つから私はもう一つ考えることになりました。

それは、あらゆる分野で自分より大きく優っている人と触れ合うことは自分を大きく成長させる要因となり得るということです。そのような機会を得るためにも自分がプロフェッショナルとなることが重要だと感じました。今回の経験を糧にこれからの生活を頑張っていきたいです。

最後に、このような機会を与えてくれたスタッフの皆さんありがとうございます。大学生になったら私も皆さんと一緒に高校生の夢をサポートしたいと思います。

佐賀大会代表 佐賀県立致遠館高等学校 二年  
江島 知優

私は今回このエコノミクス甲子園全国大会に参加して、さまざまなことを体験することが出来ました。一日目は、宿舎に着くとさきで他県のチームと相部屋になるということを知らず、上手くやっていたか不安でしたが、同室になった山梨県のチームの人とはすぐに打ち解けることができ、一緒に勉強をしたりエコノミクスをしたりして楽しみました。

二日目はJALラウンドや前夜祭が特に強く印象に残っています。JALラウンドでは前日にくじを引いて同じ組になった三チームと一緒に、JALの今後の発展のためにM&Aすべき企業を一社決め、提示するという途



## 全国大会感想 Final tournament report



方もないミッションでしたが、みんなで意見を出しあいなんとか形にすることが出来ました。前夜祭は立食パーティの形式で行われ、ビンゴ大会などもありました。私は見ず知らずの他人、それも年上の方に話しかけるのはあまり得意な方ではないのですが来賓の方も銀行員の方も気さくに話され、最後の最後にビンゴを完成させることが出来ました。佐賀銀行の賞品がなかなか当たらず少し焦りましたが、自分の県のお土産を自分で持ち帰ることはなかったのが良かったです。

三日目の本大会では、予選で十八位までが突破というところで十九位に終わってしまったので、同じチームの仲間たちを応援しました。優勝した新潟高校は同じチームだったということもあり、見ているだけでも飽きない楽しい大会でした。今回得た多くの仲間との親睦を深め、今後も何らかの形で大会に関わりたいです。



長崎大会代表 精道三川台高等学校 二年  
寺田 壮志

長崎での地方大会で2年連続の知識を武器に見事優勝することができ、晴れて2大会連続出場を果たすことができました。2回目の出場ということで自分が有利だと思うよりもプレッシャーを余計に感じていました。難しいということはわかっていたので去年みたいに甘くてはいけないと思いつつも勉強不足を痛感しました。筆記でも本番でもチームや相手には迷惑しかけていなかったと思います。

一方で成長できたという部分もありました。本当に些細なことですが去年よりもコミュニケーションを取れたことです。甲子園が終わってたくさん話せて仲良くなれたなあと思うようになりました。プレゼンテーションも結果こそ6位でしたが、みんなで作った、最高のものが出来上がったと自信にあふれていました。協力して一つのを完成させるという難しさとそれを達成できたときの感動、そして絆が深まったと強く感じました、というよりもあの興奮を覚えています。間違いなく一生残る経験です。甲子園が終わってみんなに別れを言う時も、去年とは違い涙が出そうになるくらい助け合った感じがしました。金曜日のスタートから、閉会式の奨学金授与の瞬間まで楽しく、また別れが悲しいと思えるくらいの思い出を作ることが出来ました。

これからあの場所が集まった高校生たちに負けなくらいの金融知力をつけて将来役立てたいと強く思いました。最後にスタッフの皆さんやその他多くの人にこの甲子園を開催して下さったことに感謝しています!! ありがとうございました。2年もめっちゃ楽しかった!!

長崎大会代表 精道三川台高等学校 二年  
栗野 息吹

今回で2度目のエコノミクス甲子園出場でしたが、去年よりも内容の濃い経験が出来ました。心に残っていることを2つ書こうと思います。

まず、1つ印象に残っているのは2日目のプレゼンクイズです。初対面の高校生のみなさんと協力してお題に沿った提案を考える、ただ単なる表

面的な用語などの金融知力ではなく、発想力や思考力を含めた総合的な力が試されます。今回は、同じプレゼンチームのほかの方々のレベルに圧倒され、自分はまったくもって戦力にならなかったのが、このアクティビティはかなり意識していました。その甲斐もあってか、今年は積極的に意見交換ができました。話し合いは、様々な方向を行ったり来たり。それでも、頭をひねった結果、全員が納得する形に仕上げることができました。結果は11チーム中6位でしたが悔いはありません。一緒に頑張ってくれた、静岡高校、土浦第一高校、柏高校のみなさんありがとうございました。プレゼンが終わったあとも、いろいろ他愛もないことを喋ったりして楽しかったです。

もう1つ印象に残っているのは全国大会の問題のレベルの高さです。来賓の方もおっしゃっていましたが明らかに前回に比べて難易度は確実に上がっており、一度も耳にしたことがないような単語が数多くありました。なぜだかわかりませんが、広島学院高校さんが何度か答えていた「ティンパラシュート」という単語が頭に残っています。

エコノミクス甲子園では普段できないような経験をたくさんさせてもらいました。この思い出は必ず将来の自分を助けてくれると思います。



宮崎大会代表 宮崎第一高等学校 二年  
大坪 かれん

私は今回のエコノミクス甲子園を通じて、「金融知力」と「人とのつながり」を得ることができた。

事前学習教材は知らないことだらけで、見たこともない用語がたくさんあった。保険が預金の一形態というのも初めて知って驚いた。「インフレ時代の投資入門」は、投資は怖いものだ、という先入観を払拭してくれた。株取引は、短時間で何回も売り買いするゲームのようなものだと思っていたが、リスクも低く配当金によるリターンも見込める長期取引、という考え方をこの本で知ることができた。自分で自由に使えるお金ができれば、リスクの低いものからは是非挑戦してみたい。

投資は怖い、株はやめた方がいい、という先入観をわたしたちが持っているのは、日本の金融教育が不十分だからではないかと考えるようになった。預金以外の資産運用方法を知らない人が多いのではないかと。現にアメリカと日本の資産に占める預金比率を比べると、日本が圧倒的に高いという。(これも事前教材で始めて知った)日本は赤字で破綻寸前であるかのような言い方をするメディアもあるが、国民に正しい金融教育をすることでこれまで眠っていた預金が投資へと回っていき、経済の回復につながるのではないかと。若い時から計画的な資産運用を行うことで老後の資金に余裕が生まれ、個人にとっても良いことだ。国民が金融知力を及ぼさずば、お金の話は汚い、という風潮が日本にはあるが、今こそそういった風潮を打破して金融教育をしていくべきではないかと、というのが、この大会を通じて強く感じたことだ。

また、今回の大会では多くの人と出会うことができた。全国の高校生だけでなく、スタッフの方々、協会の方々とも交流を深めることができた。プレゼンのチームメイトとは、大学生になったら学生スタッフになってプレゼンの審査をちゃんとしようね、と誓い合った。同じ東京大学を目指す仲間もで





きた。これから大学生、社会人になってもずっと関わっていくんだろうな、と感じた。金融知識だけでなく、そういった人とのかけがえのないつながりを得ることができたのが、このエコノミクス甲子園だ。「エコノミクス甲子園で人生が変わった」というスタッフの方の言葉は、本当なのかもしれない。出場させてくれた学校や親にも感謝しなければならないし、協会の方々、スタッフの方々、奨学金対象者に選んでくださった審査員の方々にも感謝の気持ちでいっぱい。

このようなかけがえのない経験をさせてくださって、本当にありがとうございました。

宮崎大会代表 宮崎第一高等学校 二年  
**壹岐 真帆**

『ドキドキわくわくだった3日間』この三日間を総称するならばズバリこれです。

一日目の移動を終えて迎えた二日目。エコノミカと思いきやいきなり筆記テスト。次のJAL講演終了後、運命の出会いである‘K’チーム発足。課された課題は、JALがM&Aするプレゼンを作り発表するというものでした。その日初めて対面した人と互いの意見を交わし合い議論を深めてプレゼンを作るということはこれまでで一番楽しいグループ活動でした。私たちの考えたスノーピークによるM&A「手ぶらアウトドア」を全体の前で発表できなかったことは本当に残念ですが、どのチームよりも独創性のあるプランを作成できたという達成感をKチームの皆とともに味わうことができました。三日目いよいよ迎えた本番。まず二問はやおしくイズ、次にチームごとによる三択クイズが行われました。奮闘するものの力を発揮できず予選敗退という悔しい結果となりました。しかし準決勝からの戦いは違いました。私の知らない言葉を同じ高校生が次々と正解していくのです。「うわー、すごい。この言葉どういう意味だろう」どんどん高揚感が高まっていきました。三日間を振り返って経済の大会であることはもちろん何か自分の考え方や価値観というもの大きく変えさせられたような気がします。物事を幅広くそして深く考えて己の意見を確立させることの重要性、経済だけでなく不変の世の中の情報を常にベースアップしていくこと。

そして全国にいる素晴らしい高校生と関係を持つことができたこと。多くのことを学ぶことができました。大会で得られた全てが私の宝物です。優しい大学生スタッフの皆さん関係者の方々、このような素晴らしい大会を企画して下さい本当に有難うございました。



鹿児島大会代表 霧島市立国分中央高等学校 三年  
**別府 真帆**

私たちのチームはエコノミクス甲子園初参加、全国大会初出場というすべてのことが初めての経験ばかりでした。地区大会は運よく勝ち上がることができましたが、全国大会はエコノミクス甲子園のレベルの高さに圧倒されました。

1日目はエコノミクス甲子園に出場する44チーム88人のうちの9人という少人数の女子の皆さんと話をし、チームの結成秘話などを聞くことが

でき、仲を深めることができました。

2日目は筆記・プレゼン大会や前夜祭が行われ、筆記は、地区大会の内容とは全く違い私にとってはとても難しい内容で、勉強不足を痛感しました。また、プレゼン大会では初めて会った方々と意見を出し合い、会議をし、内容をまとめ、発表することは大変難しく、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の重要性が改めて分かりました。その後の前夜祭では他の出場チームの方々や地方銀行の方、ご来賓の方々とお話をさせていただき時間があり、とても貴重な時間となりました。

3日目の本選では、筆記・プレゼンテーション大会に続き、1つ1つの問題が工夫されており、難しかったです。第二ラウンドの三択クイズや敗者復活戦などで自分の番以外では分かるものもありましたが、自分の番では答えることができませんでした。しかし、授賞式の時にあった、「運は努力したものにしかついでこない」という言葉の通り、自分の努力が足りなかったと思います。一から勉強し直して、もう一度リベンジをしたいという気持ちがありますが、私は高校3年生なので、もうエコノミクス甲子園にチャレンジすることすらできません。しかし、私は就職希望で金融機関に内定をいただき、今年の春から銀行員として働きます。そこでは、このエコノミクス甲子園で学んだことを活かすことができるとともに、さらに深い知識を学ぶことができますと思います。エコノミクス甲子園での悔しさをバネにさらに勉強を重ね、今度は問題が出せるような立場になれるように努力をしていきたいと思います。

私は、このエコノミクス甲子園を通して、金融知識は勉強をして損することはない、今後、目まぐるしく変わっていく社会を生きるためには絶対に必要になるのだと強く感じました。ですから、金融知識は今後の日本の未来を担っていくすべての高校生が学ぶべきものです。そんな金融知識を学びきっかけとして、今後さらにエコノミクス甲子園が全国の高校に知れ渡り、高校生にあまり関わることのない「金融」についての知識を身に付けてほしいです。

鹿児島大会代表 霧島市立国分中央高等学校 三年  
**山下 世華**

私は、鹿児島大会代表としてエコノミクス甲子園に初出場しました。地方大会では、あまり勉強もしておらず高校生生活最後の思い出になればと思って参加しました。そのような中、運よく鹿児島大会を優勝することができ、嬉しかったと同時に私が鹿児島大会代表で良いのだろうかという不安もありました。何もかもが初めてで最初は戸惑うばかりでしたが、代表となった以上頑張ろうと思いました。そして2人で全国大会に向けて、予定が空いている日に勉強しましたが、満足できるような勉強ができず、不安で胸がいっぱいでした。

1日目に同室の子と初対面し、共に過ごしていくうちに、打ち解けていくことができました。また、女子の参加人数は9人と少なく私たちの部屋お土産交換をしたり、話をしたりして仲良くなることで嬉しかったです。

2日目に行われた筆記問題は難しくあまり解けず、なぜもっと勉強をしてこなかったのだろうという自分の不甲斐なさを痛感しました。プレゼンテーションでは、他のチームの方と意見を出し合い共に協力して作り上げることができて、嬉しかったです。また、他チームのプレゼンの内容を見て、このような考え方もあるのだなと思い、自分の視野を広げることができました。そして、前夜祭では協賛して下さった方々や、スタッフの皆さん、高校生の皆さんの色々な話を聞くことができました。たくさんの方々と交流することで多様な価値観を知ることができ、多くのアドバイスをもらうことができたことも思い出の一つです。

3日目は、思うような結果も出ず予選敗退で申し訳ない気持ちでいっぱいでした。周りの皆さんは高校生とは思えないくらい知識の量でレベルの高さを感じました。同じ高校生として、驚き、刺激を受け、もっと頑張らなといけな気持ちも強くなりました。結果としては、残念な結果に終わりましたが、エコノミクス甲子園に出場することで、多くの刺激を受け、たくさんの知識を増やすことができました。これから何かに挑戦していく姿勢や後悔しないように全力で取り組むということを改めて教えられた感じがしました。また、出場した多くの高校生とも交流を深めることができとても嬉しかったです。



私はもう高校3年生なので、出場することはできませんがこのエコノミクス甲子園は、たくさんの人と交流ができるとともに知識も増やせるので、より多くの後輩たちに出場してほしいと思っています。

この3日間、さまざまな経験ができ、自分のためになることが多くありました。企画してくれた皆さんやスタッフの皆さんすべての人に感謝したいと思います。

本当にありがとうございました。



沖縄大会代表 昭和薬科大学附属高等学校 二年  
**与那城 陽**

私は今回初めてエコノミクス甲子園に参加しました。正直、今まで経済や金融の事について真剣に考えたことも勉強したこともなく、初めは軽い気持ちで参加しました。

全国大会では思っていた以上に女子の参加人数が少なく少し心細い面もありましたが、かえって女子同士での仲が深まり友達の輪を広げることができました。1日目は遅い到着だったためエコノミカ交流会に参加する事ができず、また2日目の筆記テストでも時間が足りずただただ焦ってしまいうようにいかずに悪いスタートをきってしまいました。

しかし、その後のプレゼンのグループでは皆初対面にもかかわらずぐに話し合いが始まり試行錯誤を繰り返しながらも最終的にはみんなの案を1つにまとめることに成功しました。皆一人一人が協力して考えて作り上げたプレゼンだったので、達成感がありチームの団結力も一層深まりました。私達のプレゼンが評価されプレゼン部門で1位をもらったときは本当に嬉しかったし、このグループでよかったと心から思いました。

3日目はプレッシャーの中もクイズを楽しむ事ができました。決勝にはいけませんでしたエコノミクス甲子園に参加した事で、金融・経済のことについて興味を持つきっかけをもらい、また全国の高校生との交流を深められたことはこれからの将来にとって大きな糧となると私は確信しています。この3日間は密度が濃く、とても充実した三日間でした。このような大会を企画、運営して下さった関係者の方々には本当に感謝しています。ありがとうございました。

沖縄大会代表 昭和薬科大学附属高等学校 三年  
**大城 奈々**

今回の大会はJALのホスピタリティに始まり、JALのホスピタリティで終わった大会でした。2月25日金曜日、午後2時40分発の飛行機に乗り込み東京に向かいました。私と相方が飛行機の中でJALのレポートを読み込んで困っている、CAさんが気づいてくれ、チームのCAさんも呼び丁寧に教えてくれ、JALの社員教育の質の高さを実感しました。1日目は移動もあり、ルームメイトのあんなちゃんとの話に夢中になっているうちにあっという間に終わってしまいました。

2日目は去年同様に朝から筆記テストがあり、30分という短い時間で難しく量の多いあの問題を解けというのは、余りに鬼畜といかえませんでした。筆記テストのあとはJALの今北さんによる講演会を聞き、プレゼン

ラウンドへと進んで行きました。私はGグループで三重の宇治山田商業高校、兵庫の灘高校、青森高校と一緒にになりました。このGグループになれて本当に良かったです。Gグループは誰が欠けても、「レオパレス21」を選びあのプレゼンに辿りつくことは出来なかったと思います。この大会で唯一の商業高校であった宇治山田商業高校の津田君がキャッシュローを元に計算し、今後の業績予想を作っている光景は本当に同じ年齢の高校生かと疑ってしまうほどでした。最初はごちなく意見もあまり出ず迷走していたグループが、最終的には協力し合い作り上げたプレゼンで優勝出来たことは本当に嬉しかったです。

3日目は予選2位通過という、私も相手もビックリの好成績で次のラウンドに進んだはずが、前夜祭のビンゴで一番最初に当たったことで運を使い果たしたのか、呆気なく終わってしまいました。運も実力のうちというのはこのことかと思ってしまいました。しかし、このエコノミクス甲子園に参加したことで多くの金融知識を身につけることが出来ました。生涯賢い消費者である為にこれからも更に勉強を続けていきます。

最後に第十回エコノミクス甲子園を開催するにあたって、地方大会からお世話になった沖縄銀行の方々特に島袋さん、後援して下さった企業の方々、そして私達が楽しく全力でこの大会に臨めるように準備して下さったスタッフの先輩方、本当にありがとうございました。



インターネット大会 近畿大学附属広島高等学校  
 東広島校 三年  
**畑中 雄登**

第10回エコノミクス甲子園全国大会は非常に楽しいものであった。結果として順位は振るわなかったものの、敗者復活戦では最後まで壇上に残ることもでき、個人的にはある程度満足している。

エコノミクス甲子園、という大会自体は2年前から知っていた。過去2年間エントリーしなかった私が受験生となったにも関わらずこの大会に出場しようと思ったきっかけは、育英奨学金の存在であった。予定の都合もあり、インターネット大会への出場を決めたわけだが、まずはチームメイトを見つけるだけでも一筋縄ではいかなかった。過去の形式を調べ、それを踏まえ有望そうな知人に片っ端から声をかける。重視したのは、正確かつ迅速な計算力、そして過去の事例を記憶する暗記力。どちらも私に欠けるものである。しかしながら、打診した結果はことごとく撃沈。金融知識以前に自らの交渉力不足を嘆いたものである。尤も、今になって考えてみれば「一緒に座っててくれれば全国まで連れていけるから」という謳い文句もどうかと思うが。

その後、なんとか相手を見つけることに成功し、チーム名も真夏の夜を想起させる季節感を全く無視した名前に決定し、相手の誕生日を間違え訂正願いを出すなどしながらエントリーを終えることに成功したが、我々には問題が残っていた。問題形式が全く分からないのだ。送られてきたはがきに書かれていたのは、制限時間内なら何を使って、どのような方法で調べてもよい、ということのみ。このことから恐らく難問をいかに速く解けるか、ということが問われると推測し、我々は作業を回答と計算に分業し、なおかつパソコンとスマートフォンを複数操作することで他のチームよりも回



## 全国大会感想 Final tournament report



答時間でアドバンテージを握ろうと画策し、それに合わせ私が基本的に知識問題や論述問題に対応できるための知識や演習を、相手には計算問題全てに対応できるだけの知識と演習を担当してもらった。

インターネット大会当日。残念ながら学校はパソコンを1台しか貸し出ししてくれず、スマートフォンも使用許可が下りなかったため計画が頓挫した我々は、ほとんど自力で問題を解いていかざるを得なくなった。センター試験を彷彿とさせる選択式の問題と、莫大なパターンの計算が必要だった近似値問題、そして思わぬところを突いてきた論述問題。どれも一筋縄ではいかない問題だったが、制限時間から2分を残して何とか解答を終えることができた。感触としては恐らく優勝できるだろう、といったところであり、結果発表を心待ちにしていた。

12月1日午前0時2分。結果発表が公表された数分後に私は発表ページへとアクセスした。そこには一番上には堂々と「デカ枕幕府」の文字があるのではないかと。優勝できるとは思っていたものの、いざ決まってみるとやはり嬉しいものである。右手を高く挙げ完全勝利のポーズをし、下へとスクロールしていくとそこには他県に住む私でも知るような有名進学校の数々。右手を下ろし姿勢を正したうえで様々な方面へと報告を述べると、多くの反響、そしてお祝いと激励の言葉をいただいた。この場を借りてお礼させていただきたいと思う。

その後はひとまず受験へと集中したため、エコノミクス甲子園の対策に充てる時間はほとんど無に等しかった。流石に全国という場での勝ち目は薄い。その上チーム戦が多いため勝ち抜けは安定しない可能性がある。そこで私は敗者復活戦に焦点を絞って対策を進めていた。相手は難関大を志望していたためできる限り負担を減らしたい、という思いもあった。

さて、そろそろ全国大会の内容に入ろう。まずは1日目である。といっても、受験が終わって相手と東京で落ち合う頃には時刻は既に午後8時。この日はほとんど何もできなかった。しかしながら第10回特別枠の大阪星光学院高校の二人と部屋が一緒だったため、彼らとは通常の地方代表ではない者同士楽しく交流させていただいた。余談ながら、私は通過場所の銀行を記憶するようにしていたのだが、問題として出題されることはなかった。残念である。

2日目。いきなりの筆記テストであった。政治経済を学習していた私はある程度できたであろうが、全くノータッチ(であったと思われる)の相手はかなり苦戦したのではないだろうか。しかしながら如何せん制限時間が短く、私も満足いく結果とはいかなかった。その後は各チームに分かれたプレゼンテーション対決。鳥取の湯梨浜高校、愛媛の愛光高校、そして特別枠の大阪星光学院高校とのチームであった。全体的に近い地域での集団になり、地元話に華を咲かせつつも、独創性と現実的な戦略性という二つの相反する要求に対し頭を抱えていた我々。ゲーム、和菓子、そして航空機部門など様々な分野を検討した結果、最終的に電子書籍分野のM&Aを提案することにした。選択会社選定を終え、利点等も十分にリストアップし、自分達ではそれなりに良いものを作ることができたと考えていた。しかし、プレゼンテーションの相手は実際の経営者や銀行員。自分達には無い視点での厳しい質問の数々。答えきれない自分の力不足、そして経験不足を感じた。高校生にしてはレベルの高いものだった、という評価はいただいたものの、現状では社会では通用しない、という事実を突き付けられたため、少々悔しくもあったが、他の高校の生徒と共に発表する、という機会は中々なく非常に面白い体験であった。その後の優秀プレゼンテーションの発表では、代表者の堂々とした姿勢、そして緻密に作りこまれた内容に舌を巻くばかりであった。

そして前夜祭の時間がやってきた。立食パーティーという交流を重視する形式であったのもあり、私はまず皿を放り出してご来賓、銀行員の方々に挨拶に回っていた。そこでプレゼンテーションについて、面白かったが特に知名度の面でJALにメリットが少ない、という言葉をいただいた。我々は購入可能か、利益はどうかという数字ばかりにこだわっていたのだということに気づかされた。また現京セラ名誉会長の稲盛和夫氏のお話を中心に、経営者としての心得を教えてくださいませんかというお話を中心に、経営者としての心得を教えてくださいませんかというお話を中心として、食事しながら高校生の方々と交流しようと元の席へと戻ってきたことである。なんと私の皿は片づけられているではないか!驚いた私はしかし気持ちを切り替え烏龍茶片手に他の高校生のもとへ。やはりインターネット大会という珍しい形式で勝ち上がってきたためであろうか、どのような形

式か聞かれることが多く、他にもインターネット大会に出場した高校についてやチーム名について聞かれることもあった。明日の敵、とはいっても同じ高校生である。適度に気楽に話すことができたと思う。前夜祭はそれほど長い時間ではなかったが、非常に濃密な時間であった。

3日目、イイノホールに場所を移す。途中でスタッフに「チーム名部門優勝だよ」と言われたのには少々嬉しく思った。到着し高校名のゼッケンを着ける。ゼッケンには「近畿大附」と書かれていた。一応広島代表であるはずが、これではまるで大阪代表である!後々ネタにすることを密かに誓いながら、私は準備を進めていた。

最初は高校名の五十音順で4チームずつの早押しクイズ。早押しの経験のなかった我々は、完全に雰囲気に呑まれてしまった。どこで押せばいいのか分からない。何もできず、悔しさの残る第1ラウンドだった。

次は写真撮影とチーム対抗のリレークイズ。写真撮影時の正座は辛かった。背が低いことをこれほどまでに恨んだことはない。しかしその辛さはリレークイズで一気に吹き飛ばすこととなる。味方のファインプレーによって2番手入りすることができた。プレゼンテーションで最下位と辛酸を舐めた我々は俄然逆襲ムードに沸いた。

しかし現実是非情である。我々Dチームはプレゼンテーションが響き、1チームも準々決勝へと進出することができなかった。それどころか我々二人はブービーだ。覚悟していたとはいえやはり寂しいものである。我々は敗者復活での潰し合いを誓った。

第3ラウンド(準々決勝)での波乱の展開を終えて、いよいよ敗者復活戦である。全国出場を決めてから私はこの敗者復活に賭けてきたのだ。その思いが通じたのか、1周目、2周目は非常に簡単な問題だった。若干他のチームに対して申し訳なく思いつつも、2問連続正解することができた。敗者復活ワンチャン、そんな我々の希望を打ち砕いたのは、大塚家具だった。予選上位チームにも全く正解者が出ない難問。ついに我々の番が回ってきてしまった。分からない、それで頭はいっぱいだった。思わず私は「TOB」と発するものの鳴ったのは無情にも不正解ブザー。そんな我々に引導を渡したのは同じチームとして戦った愛光高校であった。「プロキシファイト」正解音が鳴り響く。終わった、しかし悪くない気分であった。不思議と惜しみない拍手を送ることができた。その後は難問もなく、無事に25問が終了。敗者復活で這い上がった2チームには、盛大な拍手を。私の闘いはここで終わった。大塚家具は絶対許さない。

準決勝以降は単純な知識としてのクイズだけでなく、戦略ゲーム的要素も追加されていった。我々も観客席でチーム問わずどのチームがどう動くのがいろいろ相談していた。最後に慶應義塾高校がタコ殴りに遭う場面は非常に興奮した。

決勝。4チームによる宇宙開発プロジェクトクイズであった。個人的には同郷の広島学院を応援していたが、最初に単独正解したのは新潟高校。それ以降は常に新潟高校がイニシアティブを握っていた。ここまで勝ち残った4チームによるレベルの高い争い。ずっと見ていたいぐらいだったが、終わりはあっけなかった。広島学院が2位を確定させるロケット打ち上げ。商品狙いの2位に大いに感心するとともに、真正面からの殴り合いも見てみたかったように思う。しかし非常に有意義な時間であったことに疑いはない。

なお、私が出場するきっかけとなった奨学金についてだが、残念ながらいただくことはできなかった。どうやら最終選考までは残っていたらしく、より一層残念に感じてしまった。しかしながら、その奨学金以上に価値のある経験ができたと思う。エコノミクス甲子園に出てよかった、というのが私の今の素直な気持ちだ。今後も奨学金制度については続ける、という話であるから、出場を迷っている人は是非出場を前向きに検討してほしい。

さて、最後に感謝の言葉で締めたいと思う。今大会のスタッフ並びにスポンサーとしてご協力いただいた関係者の皆様、そして共に戦った高校生の皆。私が今回の大会を楽しむことができたのは皆様の御力あつてのことです。本当にありがとうございました。

また、我々が出場したインターネット大会を主催してくださった住信SBIネット銀行様。貴行のお力添えがあつて初めて我々はこの全国大会に立つ権利を得ることが可能になりました。感謝の念を禁じ得ません。本当にありがとうございます。



## 全国大会感想 Final tournament report



インターネット大会 近畿大学附属広島高等学校 東広島校 三年

### 友清 悠介

私がエコノミクス甲子園を初めて知ったのは高校三年生の二学期のときでした。そのときは受験勉強をしていて、ああそんな大会があるんだなあという程度にしか思っていませんでした。授業も政治・経済をとっていなかつたので縁がない話だなあとも思いました。数日経った頃、畑中君に参加しないかと誘われました。数値計算が必要な問題は任せたいと言われたので参加を決意したのです。どうせ参加するから最善を尽くしたいと思いました。その日から金融経済に関連した計算問題を少しずつ解いてみたりもしていきました。勿論受験勉強が主体でしたが、しかし、模試の判定を見たり、志望校の過去問を解いてみるなかで、受験勉強の割合がやはり大きくなっていき、直前期にはほぼ受験勉強をしていました。そのためか、2日目の筆記試験ではほとんど解答ができず、残念な結果になってしまいました。3日目では緊張も最高潮に達して、ここでも思うような結果を出せませんでした。悪い面ばかりが目立ってしまいましたが、全国の大舞台に立てたことの喜びや、他の選手の凄みを見ることのできる喜びもあり、いい経験ができたと思っています。これから当時の残念な金融知力を大きくレベルアップさせ、社会で活躍できる人間を目指していく次第です。この度はありがとうございました。



第10回記念特別枠 大阪星光学院高等学校 二年

### 江尻 智森

今回の大会は僕の人生の中で最大級のビッグイベントであり、そしてその人生を大きく変えたものでした。

僕達2人は前回、地方大会で敗退し、その悔しさをバネに今回再チャレンジするも、結果は2位と惜敗しました。しかし、特別枠ということで全国大会が決まり、その時の胸の昂揚は今も忘れられません。ただし、筆記テストでは満点を取れ、そのことは大きな自信になりました。

そして臨んだ全国大会!東京に着いた時は、あまりの人の多さとインフラの発達具合に圧倒されました。また、宿舎での生活は、合宿みたいで緊張もせず、リラックスできました。

1日目。筆記テストは地方大会とは比べものにならないほどの難易度で、体感では半分くらいしか取れなかったと思います。しかし、周りもできてなさそうでした。プレゼンテーションでは、同じチームの愛光の2人の迫力に圧倒されました。後に、特別賞を貰っていて納得しました。結果は良くありませんでしたが、色んな論議が出来て仲も深まり満足です。

2日目。いよいよイイノホールで生放送もされているということで、さすがに緊張しました。最初の早押しで、間違っして押してしまったのは心残りですが、他のラウンドも楽しむことが出来ました。結局予選敗退してしまいましたが、それは自分達の力不足で、素直に受け入れられました。決勝ラウンドでは、まさかの出来事もあり、新潟の快進撃もあり、非常に盛り上がりました。

僕はこの大会で、様々な人に出会い、世界の広さと自分のちっぽけさを痛感しました。そして、のんびりはしてられない、必死で頑張っている人が

いることを感じられました。そして、何より金融を学ぶ意義がはっきりしました。今回の大会を開催してもらい、そして僕達を全国に連れて行ってくれたことを、深く感謝いたします!

第10回記念特別枠 大阪星光学院高等学校 二年

### 阿曾 友哉

「えええええ!ほんまに!?!」と思わず驚いたのは12月22日のことでした。その時僕は第10回記念特別枠の抽選が行われるニコニコ生放送を見ていました。スタッフの御手洗さんが取り出した際には「大阪」の2文字がありました。一瞬頭が真っ白になったような気がして非常に驚いたのを今でも覚えています。生放送中に電話がかかってきて自分の声がタブレットの画面から聞こえてきた時にやっと「全国大会へ行くのだ」という実感が湧いてきました。

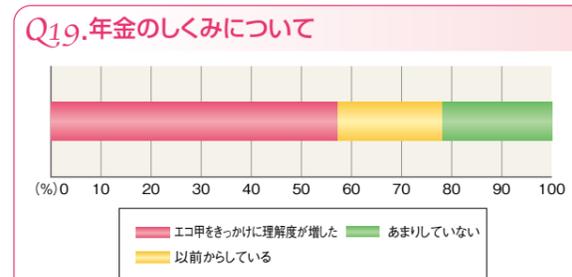
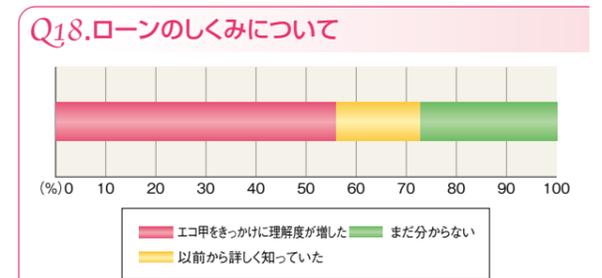
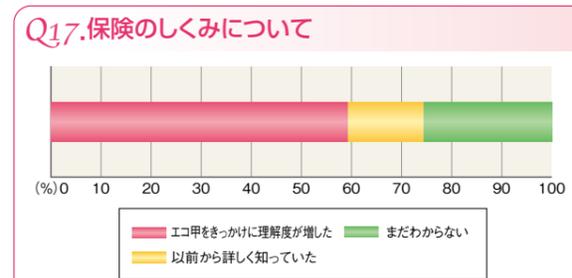
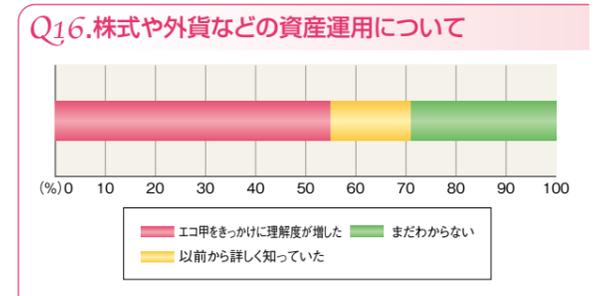
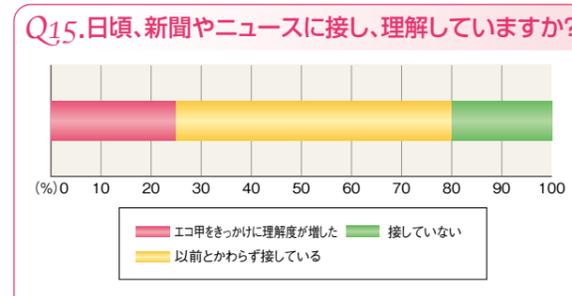
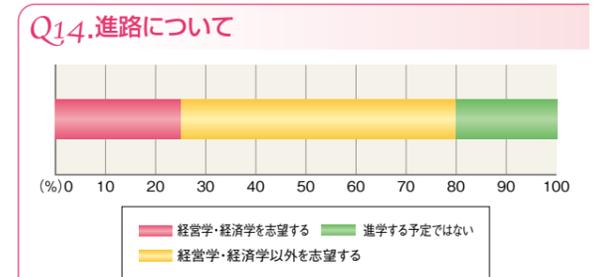
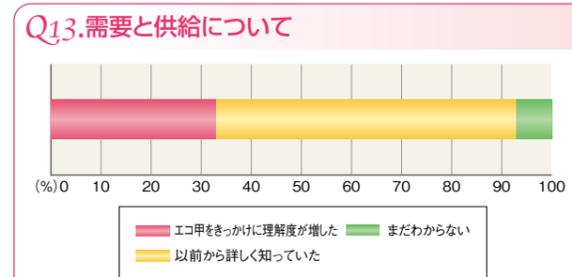
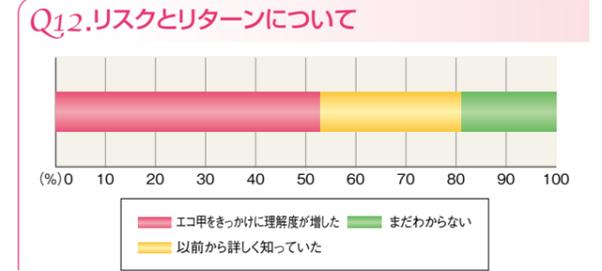
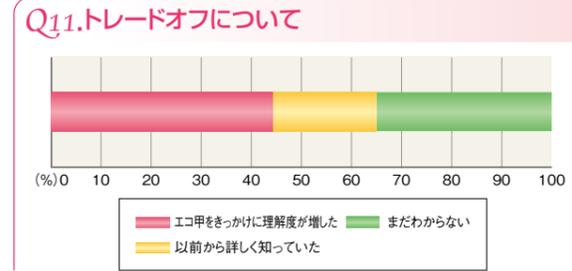
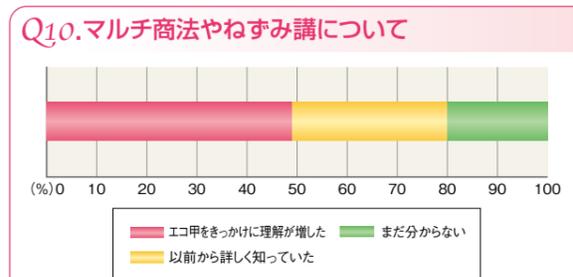
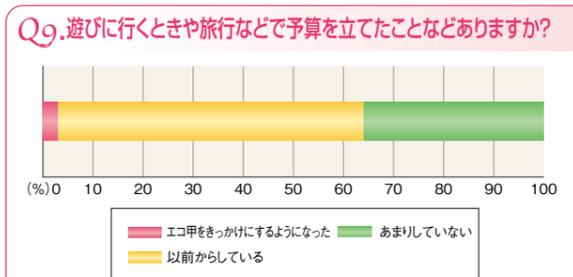
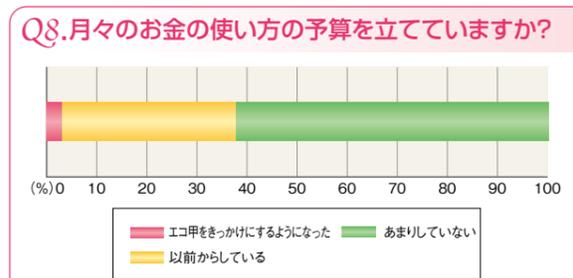
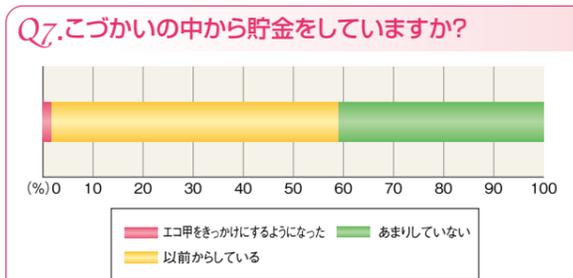
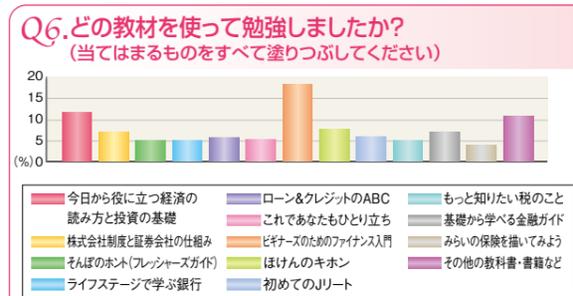
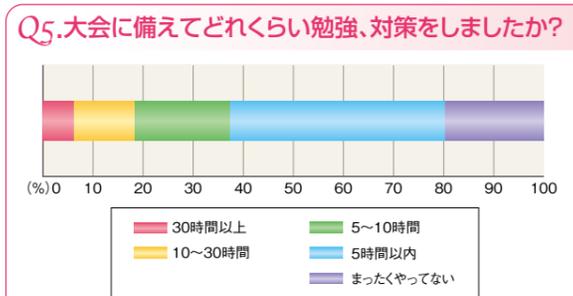
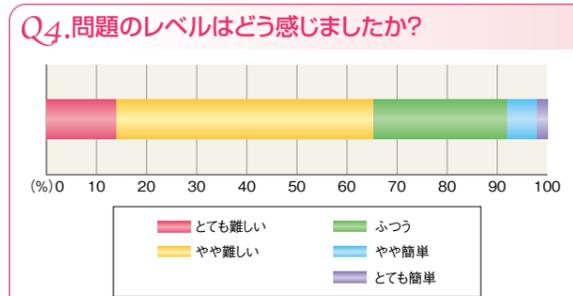
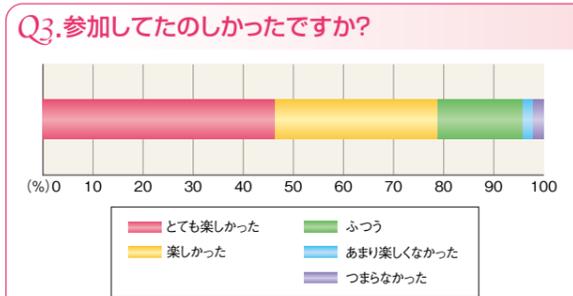
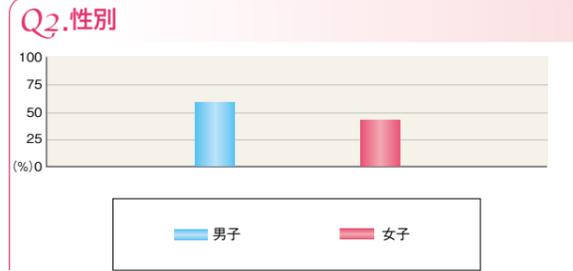
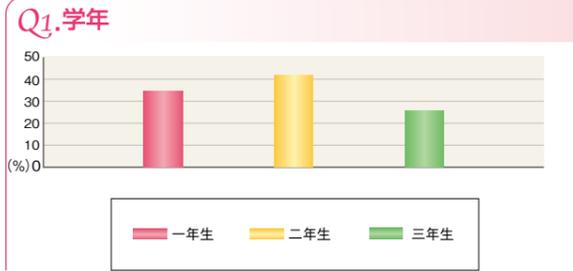
次の日からは「この1度きりのチャンスをモノにしよう」と自分に言い聞かせ、パートナーとともに必死で対策しました。それからあつという間に大会が近づいてきました。

1日目は移動のみで東京の人の多さに圧倒されヘトヘトでした。2日目は朝から筆記クイズ。地方大会では筆記で満点をとっていたので自信があったが、とても難しくこれが全国大会なのだ実感しました。その後のJALの方の講演は非常に面白くためになりました。そしてやってきたJALラウンドプレゼンクイズ。幸い愛媛県代表の愛光の方が引っ張ってしてくれたおかげで、楽しくいい雰囲気一つ一つのプレゼンを作り上げることができ他のチームのプレゼンからは沢山のことを学ぶことが出来とても良い刺激を受けることができました。

夜に開かれた前夜祭では御来賓の方、銀行員の方とも話させていただき他の代表のみんなとは親睦を深めることができとても楽しいものでした。こうして最初の2日間が終了し、とうとう全国大会の日がやってきました。第1ラウンドの早押しでは緊張もあり正解できませんでした。でも前日にプレゼンを行ったチームごとに行われた第2ラウンドでは2位で勝ち抜けることができとても嬉しかったです。結局、準決勝に勝ち上がることは出来なかったのですがこの3日間を通して勉強だけではない大切な事を学ぶことができ、また沢山のひとと出会い話すことができ、とても有意義で充実した時間を送ることが出来ました。この全国大会に出られたことは僕の一生の思い出になると思います。

あと一歩で地方大会優勝に及ばなかった僕たちに全国の大舞台に立つチャンスを与えてくれたおかげでとてもいい経験ができました。これからも特別枠が続いて欲しいと思っています。

そして最後に金融知力普及協会の方々や運営スタッフの方々こんなに素晴らしい大会を開催していただき本当に有難うございました。





エコノミクス甲子園では各企業・団体様から寄贈していただいたテキストを、事前学習教材として無料で参加生徒に送付しております。  
事前学習教材の内容から何題かクイズが出題されるので、生徒たちも大会前にしっかりと勉強してくれています。  
単純にテキストを配布するよりも高い学習効果を上げています。

 <p>■ 今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎 (作成:金融知力普及協会 寄贈:シティバンク銀行) シティバンク銀行ホームページ <a href="http://www.citibank.co.jp/">http://www.citibank.co.jp/</a></p>	 <p>■ ビギナーズのためのファイナンス入門 (作成:寄贈:金融広報中央委員会) 金融広報中央委員会ホームページ <a href="http://www.shiruporuto.jp">http://www.shiruporuto.jp</a></p>
 <p>■ これであなたもひとり立ち (作成:寄贈:金融広報中央委員会) 金融広報中央委員会ホームページ <a href="http://www.shiruporuto.jp">http://www.shiruporuto.jp</a></p>	 <p>■ ライフステージで学ぶ銀行 (作成:寄贈:全国銀行協会) 全国銀行協会ホームページ <a href="http://www.zenginkyo.or.jp">http://www.zenginkyo.or.jp</a></p>
 <p>■ ローン&amp;クレジットのABC (作成:寄贈:全国銀行協会) 全国銀行協会ホームページ <a href="http://www.zenginkyo.or.jp">http://www.zenginkyo.or.jp</a></p>	 <p>■ そんぼのホントフレッシュャーズガイド (作成:寄贈:日本損害保険協会) 日本損害保険協会ホームページ <a href="http://www.sonpo.or.jp">http://www.sonpo.or.jp</a></p>
 <p>■ 株式会社制度と証券市場のしくみ (作成:寄贈:日本証券業協会) 日本証券業協会ホームページ <a href="http://www.jsda.or.jp">http://www.jsda.or.jp</a></p>	 <p>■ ほけんのキホン (作成:寄贈:生命保険文化センター) 生命保険文化センターホームページ <a href="http://www.jili.or.jp">http://www.jili.or.jp</a></p>
 <p>■ 初めてのJリート (作成:寄贈:不動産証券化協会) 不動産証券化協会ホームページ <a href="http://www.ares.or.jp">http://www.ares.or.jp</a></p>	 <p>■ もっと知りたい税のこと (作成:寄贈:財務省) 財務省ホームページ <a href="http://www.mof.go.jp">http://www.mof.go.jp</a></p>
 <p>■ 基礎から学べる金融ガイド (作成:寄贈:金融庁) 金融庁ホームページ <a href="http://www.fsa.go.jp">http://www.fsa.go.jp</a></p>	 <p>■ みらいの保険を描いてみよう! (作成:寄贈:日本少額短期保険協会) 日本少額短期保険協会ホームページ <a href="http://www.shougakutanki.jp">http://www.shougakutanki.jp</a></p>



大会名	取材 (TV)	取材 (新聞)	取材 (その他)
北海道 渡島・檜山 地区予選		北海道新聞 函館新聞	
北海道 十勝地区予選		十勝毎日新聞	
北海道 上川・留萌・宗谷・ オホーツク地区予選		北海道新聞	
北海道 釧路・根城 地区予選		釧路新聞	
北海道 石狩・空知・後志・ 日高・胆振地区予選		日本経済新聞 ニッキン	
北海道	NHK HTB (北海道テレビ放送)	北海道新聞 十勝毎日新聞 釧路新聞	
青森	ATV	東奥日報 陸奥新報 デーリー東北 毎日新聞	
秋田	NHK 秋田放送局 ABS (秋田放送)	秋田魁新報社	
山形		山形新聞	
福島	福島中央テレビ (日テレ系)	福島民報社 福島民友新聞社	
茨城	つくばケーブルテレビ	茨城新聞	
栃木	とちぎテレビ NHK	日本経済新聞 下野新聞社	
群馬	群馬テレビ	上毛新聞	
埼玉		埼玉新聞	
千葉		千葉日報社	
新潟	NHK 新潟放送 テレビ新潟 新潟総合テレビ	新潟日報	
富山	チューリップテレビ ケーブルテレビ富山	北日本新聞 富山新聞	
石川		北國新聞社	
福井	福井テレビ	福井新聞	
山梨		山梨日日新聞	
長野		信濃毎日新聞 長野市市民新聞 長野日報	弊行のビデオニュース 新聞製作センター
岐阜	名古屋テレビ 岐阜放送	岐阜新聞 中日新聞 読売新聞 毎日新聞	
静岡		静岡新聞 ニッキン 中部新聞	
愛知		中部経済新聞 ニッキン	
三重	三重 TV 中京 TV ZTV	伊勢新聞	
滋賀	びわ湖放送 ZTV	中日新聞 ニッキン	
兵庫		神戸新聞 日本金融通信社	
奈良		奈良新聞 産経新聞	
鳥取		日本海新聞	
島根		山陰中央新報 中国新聞	
岡山	テレビせとうち	山陽新聞	瀬戸内海経済レポート
広島	中国放送 テレビ新広島		広島エフエム放送
山口	KRY YAB TYS	読売新聞 山口新聞	
徳島		徳島新聞社	
愛媛	愛媛 CATV あいテレビ	愛媛新聞社	海南タイムズ
高知	高知ケーブルテレビ	高知新聞	
佐賀	サガテレビ ぶんぶんテレビ	佐賀新聞	
長崎		長崎新聞	
宮崎	宮崎ケーブルテレビ	宮崎日日新聞社 夕刊デイリー新聞社 読売新聞社	
鹿児島		南日本新聞社	
沖縄	沖縄テレビ		



Special Thanks (順不同)

後援・協賛・協力の各社様はじめ、お力をお貸しいただいたすべての皆様

マニユライフ生命保険株式会社 取締役代表執行役社長兼 CEO ギャビン ロビンソン様 	マニユライフ生命保険株式会社 代表執行役 森田 均 様 	マニユライフ生命保険株式会社 常務執行役員兼 CMO 浅井 鈴美子 様 	シティグループ・ジャパン・ ホールディングス合同会社 会長 田中 達郎 様 	ポールトゥウィン・ビクトリー ホールディングス株式会社 代表取締役社長 小西 直人 様 	ビクトリー株式会社 代表取締役社長 安藤 宗弘 様 	バインブリッジ・インベストメンツ 株式会社 代表取締役社長 CEO 杉浦 和也 様 
ラッセル・インベストメント株式会社 代表取締役副会長 加藤 正純 様 	株式会社一休 内部監査室長 大橋 広樹 様 	日本航空株式会社 取締役専務執行役員 大川 順子 様 	日本航空株式会社 コーポレートブランド推進部戦略 グループアシスタントマネージャー 今北 恭平 様 	日本航空株式会社 コーポレートブランド推進部部長 佐々木 康人 様 	オリックス株式会社 秘書室 秘書役 雁金 勇人 様 	SMBC日興証券株式会社 商品マーケティング業務部長 櫻井 歩 様 
三井住友アセットマネジメント 株式会社 執行役員 伊木 恒人 様 	タイガー・バンフィック・キャピタル・ エルビー マネジングパートナー 武神 淳之 様 	日本金融通信社 取材局副局長 吉田 憲三 様 	株式会社 TOC 代表取締役 作田 忠 様 	認定NPO法人金融知力普及協会 副理事長 萩原 清人 様 	認定NPO法人金融知力普及協会 専務理事 神山 孝雄 様 	認定NPO法人金融知力普及協会 理事 野中 ともよ 様 

(順不同) (肩書きは当時)

金融知力普及協会をお支えいただいている各社  
 オリックス株式会社 株式会社経済法令研究会 サンメッセ株式会社  
 シティグループ・ジャパン・ホールディング合同会社  
 SMBC日興証券株式会社 公益社団法人日本証券アナリスト協会  
 日本証券業協会 三井不動産株式会社

各地方大会、全国大会でのボランティアの皆様

ボランティアスタッフ

- |        |       |        |        |       |        |       |       |
|--------|-------|--------|--------|-------|--------|-------|-------|
| 木原 健太郎 | 廣瀬 哲  | 宝蔵 蓮也  | 藤井 俊秀  | 澤田 昂大 | 縄田 寛希  | 松山 博幸 | 吉水 智彬 |
| 又吉 康紀  | 又吉 康雅 | 浜田 浩考  | 松田 直晃  | 林 洋亮  | 池田 麟太郎 | 小林 真己 | 岩田 翔  |
| 渡辺 幸輝  | 北島 拓哉 | 中原 大   | 松原 尚生  | 林 杏子  | 大森 菜央  | 小室 竜也 | 岡本 尚樹 |
| 帯包 彩加  | 白石 宏輔 | 船越 大雅  | 小川 夏   | 末武 大河 | 前島 亮   | 住吉 康大 | 岡本 秋星 |
| 西川 陽之  | 中村 賢史 | 松本 悠哉  | 山根 有輝也 | 堀田 瑤子 | 西郡 萌加  | 三浦 正基 | 横山 智紀 |
| 御手洗 伸  | 遠藤 優  | 濱元 貴大  | 金 玄鎬   | 宝蔵 花穂 | 杉本 安里紗 | 佐藤 賢斗 | 羽藤 晶  |
| 亀岡 孝展  | 尾崎 真史 | 鉢木 英理菜 | 岩崎 翔大  | 並木 亮  | 深田 耕司  | 古谷 和弥 | 井上 桃子 |
|        |       |        |        |       |        | 窪津 浩倫 | 小林 大城 |

ユークレイル・エイト



エコノミクス甲子園は、高校生の金融経済リテラシーを高めるという理念にご賛同いただいた、  
 各社様のご支援により成り立っています。  
 感謝の思いを含め、ここにご協賛をいただいた各社をご紹介します。

プラチナスポンサー



# Manulife

## マニユライフ生命

ゴールドスポンサー




シルバースポンサー





ブロンズスポンサー



特別協賛



# JAPAN AIRLINES





第10回エコノミクス甲子園  
スタッフリーダー  
浜田 浩考

こんにちは。第10回エコノミクス甲子園で学生スタッフリーダーを務めました浜田と申します。私とエコノミクス甲子園の出会いが5年前の第6回大会でした。そして第8回大会から今回の第10回大会まで学生スタッフとして携わり、これまで計5大会に参加側と運営側の両面から関わってきました。

エコノミクス甲子園は金融経済知識で日本一の高校生を決める大会だという印象を持つ方が多いと思います。もちろんその印象は間違っていない。一方で、エコノミクス甲子園は「全ての人に金融知力を」という理念のもとに大会を運営しています。エコノミクス甲子園では金融経済の分野を得意とする高校生はもちろんです。むしろ得意としていない高校生にエコノミクス甲子園に参加してもらい、少しでも金融知力の知識を身に付けてもらうことで、日本全体で金融知力が向上することを目標としています。しかし、現状では金融経済の得意な高校生が出る大会というイメージが強く、そもそもエコノミクス甲子園の知名度が低いこともあり、参加高校生の分布にはまだ偏りがあります。そのため、今回の第10回大会では従来から行ってきた施策に加え、エコノミクス甲子園公式サイトを全面リニューアルや、SNSによる広報発信を積極的に行うなど、より幅広い高校生に大会に参加してもらう取り組みを行いました。開催10周年を迎えたエコノミクス甲子園が今後とも益々発展していくよう、これからも様々な高校生に参加してもらえるような大会作りを期待します。

エコノミクス甲子園は過去に全国大会に出場したOB / OGの先輩たちが大学生になってボランティアスタッフとして運営に協力しています。その学生スタッフの数は大会の発展と共に毎年増加し、今大会では60名近くに達しました。10年間かけて広がってきたエコノミクス甲子園の輪がより大きく広がっていくことを願っています。



第11回エコノミクス甲子園  
スタッフリーダー  
西郡 萌加

みなさん、こんにちは。第11回エコノミクス甲子園スタッフリーダーを務めることになりました、西郡と申します。私は第8回大会に出場し、第10回大会から大学生スタッフとしてこの大会に携わっています。

『全国大会に出て本当によかった、と自信を持って言えることが一つあります。それは普段の生活では経験できなかったことを経験できたことです。』これは、高校生だった私が第8回全国大会の感想文で書いた文章です。私の全国大会での成績は、決して目立ったものではありませんでした。しかし、エコノミクス甲子園に出場した経験は私の中で大切な思い出になっています。それまで読み飛ばしていた新聞の経済面を読むようになったこと。家族や学校の先生、クラスメートが応援してくれたこと。全国大会で自分を応援してくれた人たちの期待に応えられず、どうしようもなく悔しかったこと。そして大学生になりエコノミクス甲子園のスタッフをしていること。どれもこれもエコノミクス甲子園に出場しなければ経験することができなかったことばかりです。もっと多くの高校生にこのような経験をしてほしいと思い、私は大学進学後に大会のスタッフとして活動することを決心しました。

2007年に始まったエコノミクス甲子園も第10回大会を終えて、第11回大会に向けて動き出しています。多くの方々の支えによって10年間続いてきた大会に携わる責任感を持ちながら、初心を忘れずに精進していきたいと思っています。エコノミクス甲子園のさらなる発展のために、これからもご支援よろしく願いいたします。



第11回エコノミクス甲子園  
スタッフサブリーダー  
池田 麟太郎

はじめまして。第11回エコノミクス甲子園ボランティアスタッフサブリーダーを務めます、池田麟太郎と申します。私は第8回エコノミクス甲子園に出場し、見事優勝を勝ち取ることができました。眩しいほどのスポットライトを浴び、何が起こったのかよくわからなかった。優勝が決まった時の印象はそのようなものでしたが、今でも鮮明に記憶しています。

高校生が金融知力を学ぶ意義とは何でしょう……。私とエコノミクス甲子園との出会いは、高校の政治経済の先生が授業内で紹介して下さったことにあります。漫然と政治経済を学んでいた私にとって、金融知力を学ぶ意義は、地方大会で優勝した日も、そして全国大会で優勝したあの日も、漠たるままのものでした。

しかし、全国大会で優勝したのち、ニュースや新聞を見ていると、日常の中で起こる様々な出来事に対し、今までにはなかった経済的な視点を持つことができるようになっていく。とある時実感しました。「金融知力がこんなところで生かされている！」と、心躍る気持ちになったのです。

正直なところを申し上げますと、私自身、いまだに高校生が金融知力を学ぶ明確な意義は見いだせずにあります。しかし、騙されたと思って少しばかり金融知力を身につけてからニュースや新聞をご覧になってください。あんなところで学んだ用語やシステムが、こんな風に実際の社会で活用されているのか！という発見に満ち溢れていることと思います。そうした発見の喜びは、高校生の皆さんもすでにほかの様々な科目を勉強している上で体験なさっているのではないかと 생각합니다。この発見の喜びが、高校を卒業してのちの将来、現代人の生活と密接なかわりを持つ経済と付き合っていくうえでの一助となれば、金融知力を学んだ甲斐があったといえましょう。

高校を卒業し、大学に通いつつボランティアスタッフとしてエコノミクス甲子園に携わっている今、高校生の皆さんに、学校での勉強や部活動に励むことも大切ですが、少しばかり目を外に向けて金融知力について学んでみることを自信をもっておすすめすることができます。金融知力を身につけて、実際の生活でそれが生かされているという発見の喜びを是非経験してみてください。エコノミクス甲子園に出場するということが、その手助けとなれば、私としてもうれしい限りです。

一人でも多くの高校生の皆さんの大会への参加を心よりお待ちしております。



第1回



第2回



第3回



第4回



第5回



第6回



第7回



第8回



第9回

